

令和3年度 県民意識調査報告書

令和3年8月

秋 田 県

目 次

第Ⅰ部 調査の概要

1	調査の目的	3
2	調査の内容	3
3	調査の設計	3
4	回収結果	3
5	集計・分析に当たって	3
6	統計表	3
7	有効回答者の属性	4
8	標本抽出方法	8

第Ⅱ部 調査結果の概要

第Ⅲ部 調査結果の詳細

第1章 「第3期ふるさと秋田元気創造プラン」について

1 各戦略の施策に関連する事柄についての満足度

(1) 戦略1 秋田の未来につながるふるさと定着回帰戦略について

ア	社会減の抑制に向けた雇用の場の創出、人材育成・確保	19
イ	若者の県内定着・回帰と移住の促進による秋田への人の流れづくり	21
ウ	結婚や出産、子育ての希望をかなえる全国トップレベルのサポート	22
エ	女性や若者の活躍推進とワーク・ライフ・バランスの実現	23
オ	活力にあふれ、安心して暮らすことができる地域社会づくり	24

(2) 戦略2 社会の変革へ果敢に挑む産業振興戦略について

ア	成長分野の競争力強化と中核企業の創出・育成	25
イ	中小企業・小規模企業者の活性化と生産性向上	26
ウ	国内外の成長市場の取り込みと投資の促進	27
エ	産業人材の確保・育成と働きやすい環境の整備	28

(3) 戦略3 新時代を勝ち抜く攻めの農林水産戦略について

ア	秋田の農林水産業を牽引する多様な人材の育成	29
イ	複合型生産構造への転換の加速化	30
ウ	秋田米の戦略的な生産・販売と水田フル活用	31
エ	農林水産物の高付加価値化と国内外への展開強化	32
オ	「ウッドファーストあきた」による林業・木材産業の成長産業化	33
カ	つくり育てる漁業と広域浜プランの推進による水産業の振興	34
キ	地域資源を生かした活気ある農山漁村づくり	35

(4)	戦略4 秋田の魅力が際立つ 人・もの交流拡大戦略について	
	ア 地域の力を結集した「総合的な誘客力」の強化	36
	イ 「食」がリードする秋田の活性化と誘客の推進	37
	ウ 文化の発信力強化と文化による地域の元気創出	38
	エ 「スポーツ立県あきた」の推進とスポーツによる交流人口の拡大	39
	オ 県土の骨格を形成する道路ネットワークの整備	40
	カ 交流の持続的拡大を支える交通ネットワークの構築	41
(5)	戦略5 誰もが元気で活躍できる健康長寿・地域共生社会戦略について	
	ア 健康寿命日本一への挑戦	42
	イ 心の健康づくりと自殺予防対策	43
	ウ 医療ニーズに対応した医療提供体制の整備	44
	エ 高齢者や障害者等が安全・安心に暮らせる福祉の充実	45
	オ 次代を担う子どもの育成	46
(6)	戦略6 ふるさとの未来を拓く人づくり戦略について	
	ア 自らの未来を主体的に切り拓き、秋田を支える気概に満ちた人材の育成	47
	イ 子ども一人一人に応じた教育の充実と確かな学力の定着	48
	ウ 世界で活躍できるグローバル人材の育成	49
	エ 豊かな人間性と健やかな体の育成	50
	オ 子どもの成長を支える魅力的で良質な学びの場づくり	51
	カ 地域社会と産業の活性化に資する高等教育機関の振興	52
	キ 地域を元気にする住民参加の学びの場と芸術・文化に親しむ機会の提供	53
2	(参考) 各戦略の施策に関連する事柄についての満足度の平均値	54

第2章 県政の重要課題について

重要課題として県に力を入れてほしいこと	58
---------------------	----

第3章 県の特定期間について

1 県の広報活動について

(1) 県が発信する情報の取得方法	63
(2) 広報活動の現状評価	65

2 家庭での防災活動について

(1) 家庭での災害時に備えた備蓄状況	66
(2) 災害に備えた家庭での防災活動の状況	67

3 読書活動について

(1) 読書への興味	69
(2) 1日の平均読書時間	70

4	農業への就業について	
	(1) 農業への就業についての興味	71
	(2) 農業へ就業するとした場合、希望する勤務形態	72
5	がん対策について	
	(1) 日本人のがん発症率に関する認知度	73
	(2) がん検診の受診時期に対する考え方	74
6	社会活動・地域活動について	
	社会活動・地域活動への取組の頻度	75
7	自転車の安全で適正な利用について	
	自転車損害賠償責任保険への加入状況	76
8	男女共同参画について	
	「男は仕事、女は家庭」の考え方	77
9	温暖化防止対策について	
	温暖化防止に貢献する機器、設備の導入状況	78
10	環境保全活動について	
	環境保全活動への参加状況	80
11	高齢者の社会参加について	
	60歳以上の方の仕事や社会活動等への参加状況（令和2年度）	82
12	差別等について	
	(1) 差別等を感じる機会の有無	83
	(2) 感じる差別等の種類	84
第4章 県政への自由意見について		
1	自由意見の項目別件数	87
2	主な自由意見	88
付属資料：調査票		101

第 I 部 調査の概要

1 調査の目的

- (1) 県政に対する県民意識を把握し、第3期ふるさと秋田元気創造プランの進行管理に活用する。
- (2) 政策評価において、県民意識を取り入れる手法の一つとして活用する。
- (3) 県民の提案や要望を把握し、政策立案や問題解決、計画の策定に反映させる。
- (4) 特定課題に関する県民意識を把握し、取組の推進に活用する。

2 調査の内容

- (1) プランに掲げた戦略の施策に関連する事柄についての満足度（選択式）
- (2) 県政の重要課題について（選択式）
- (3) 特定の課題に関する意識（選択式）
 - ① 県の広報活動について
 - ② 家庭での防災活動について
 - ③ 読書活動について
 - ④ 農業への就業について
 - ⑤ がん対策について
 - ⑥ 社会活動・地域活動について
 - ⑦ 自転車の安全で適正な利用について
 - ⑧ 男女共同参画について
 - ⑨ 温暖化防止対策について
 - ⑩ 環境保全活動について
 - ⑪ 高齢者の社会参加について
 - ⑫ 差別等について
- (4) 県に力を入れてほしいことや、取り組むべきだと思うこと（自由記述式）

3 調査の設計

- (1) 調査対象： 県内に居住する満18歳以上の男女個人
- (2) 標本数： 5,000人
- (3) 標本抽出方法： 全県25市町村の選挙人名簿を基にした層化抽出法
- (4) 調査手法： ア 郵送による調査票の配付
イ 郵送回答とインターネット回答の併用
- (5) 調査期間： 令和3年5月19日（水）～6月4日（金）
- (6) 調査機関： 株式会社あきぎんリサーチ&コンサルティング

4 回収結果

- (1) 調査票回収数 3,008人（回収率 60.2%）
- (2) 有効回答数 3,008人（有効回答率 60.2%）

5 集計・分析に当たって

- (1) 比率（%）は、小数点以下第2位を四捨五入して表示する。このため、各回答の比率の合計が100%にならないこと（99.9%、100.1%など）がある。満足度の平均点は、小数点以下第3位を四捨五入して算出する。
- (2) 18～19歳を10歳代として集計する。

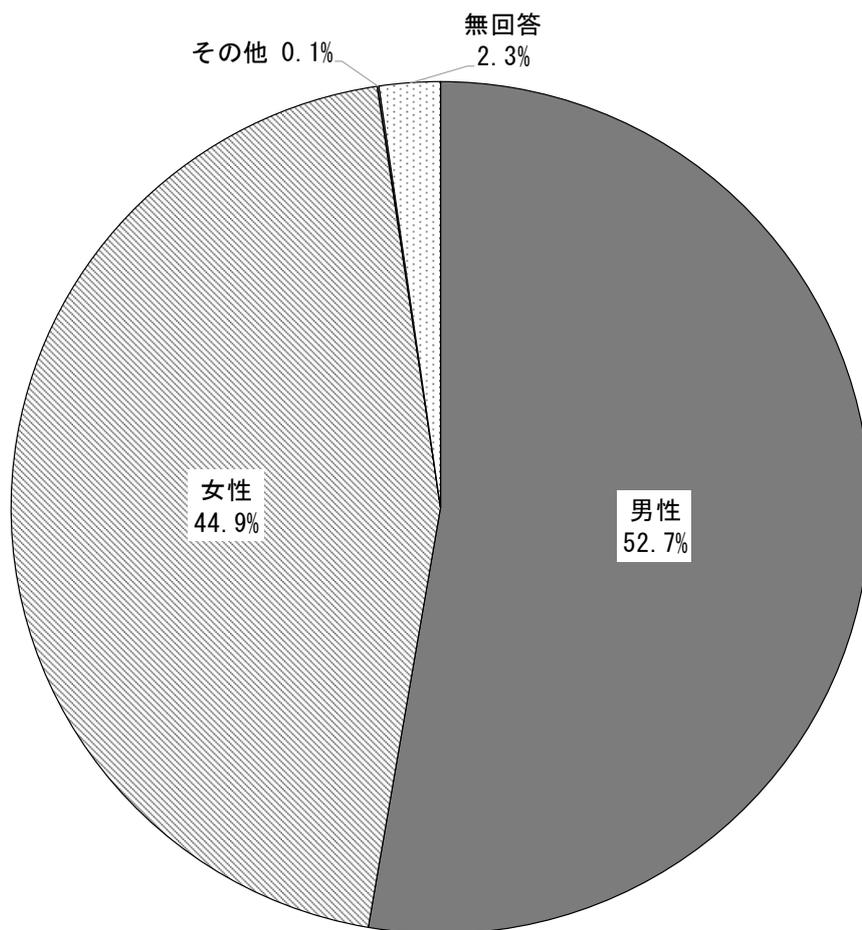
6 統計表

各設問の回答に関する統計データは、県の公式ウェブサイト「美の国あきたネット」(<https://www.pref.akita.lg.jp>)に掲載している。

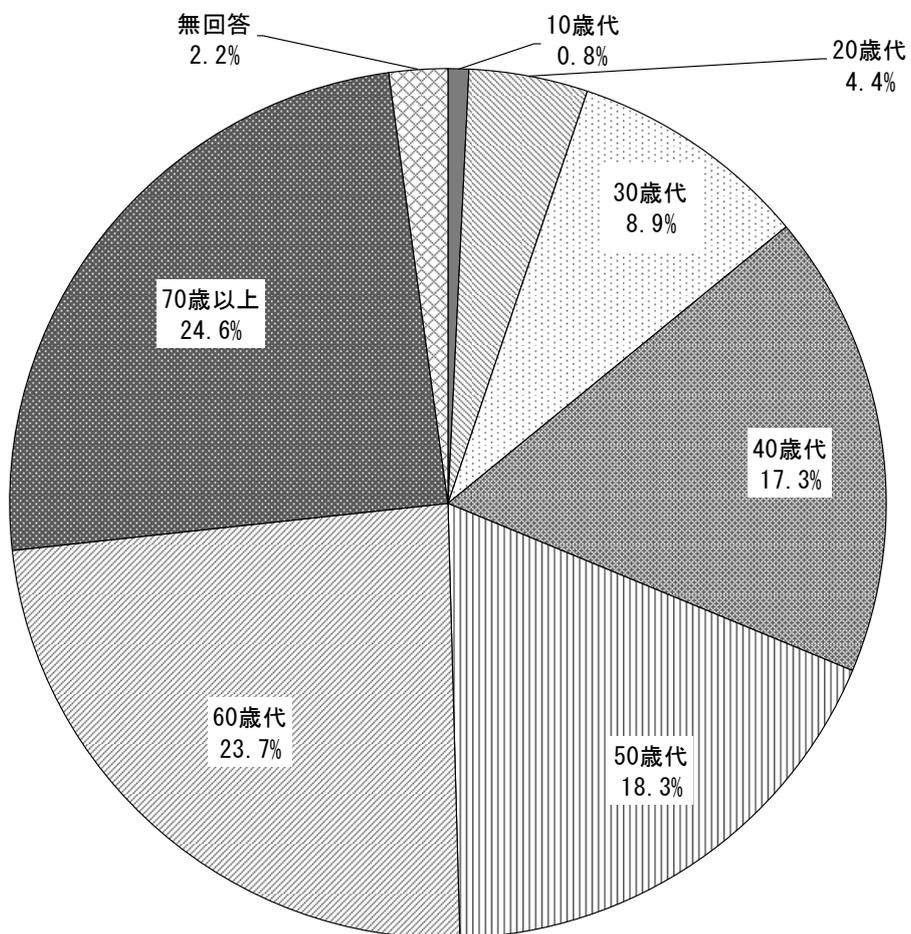
7 有効回答者の属性

属性		有効回答者		推計人口 (R2.10.1 現在)	
		客体数	構成比	18歳以上人口	構成比
合計		3,008	100.00%	828,601	100.00%
性別	男性	1,585	52.7%	384,359	46.4%
	女性	1,352	44.9%	444,242	53.6%
	その他	2	0.1%	—	—
	無回答	69	2.3%	—	—
年齢	18～19歳	23	0.8%	14,747	1.8%
	20～29歳	132	4.4%	58,284	7.0%
	30～39歳	267	8.9%	84,468	10.2%
	40～49歳	519	17.3%	119,142	14.4%
	50～59歳	550	18.3%	121,831	14.7%
	60～69歳	713	23.7%	156,453	18.9%
	70歳以上	739	24.6%	273,676	33.0%
	無回答	65	2.2%	—	—
18歳未満の子の有無	養育している	551	18.3%	—	—
	養育していない	2,292	76.2%	—	—
	無回答	165	5.5%	—	—
出身	秋田県の出身	2,742	91.2%	—	—
	秋田県以外の出身	199	6.6%	—	—
	無回答	67	2.2%	—	—
居住地	鹿角地域	116	3.9%	29,704	3.6%
	北秋田地域	324	10.8%	89,326	10.8%
	山本地域	229	7.6%	65,617	7.9%
	秋田地域	1,115	37.1%	327,893	39.6%
	由利地域	315	10.5%	84,882	10.2%
	仙北地域	399	13.3%	105,466	12.7%
	平鹿地域	252	8.4%	74,221	9.0%
	雄勝地域	191	6.3%	51,492	6.2%
	無回答	67	2.2%	—	—
職業	農業	227	7.5%	—	—
	林業	10	0.3%	—	—
	漁業	2	0.1%	—	—
	建設業	172	5.7%	—	—
	製造業	258	8.6%	—	—
	情報通信業	24	0.8%	—	—
	運輸業・郵便業	89	3.0%	—	—
	卸売業・小売業(観光関連)	28	0.9%	—	—
	卸売業・小売業(観光関連以外)	184	6.1%	—	—
	宿泊業	23	0.8%	—	—
	飲食サービス業	77	2.6%	—	—
	学術研究・学校教育・学習支援	76	2.5%	—	—
	医療・保健	140	4.7%	—	—
	福祉	164	5.5%	—	—
	公務(上記以外)	158	5.3%	—	—
	その他の業種	394	13.1%	—	—
	学生	24	0.8%	—	—
	無職	856	28.5%	—	—
	無回答	102	3.4%	—	—

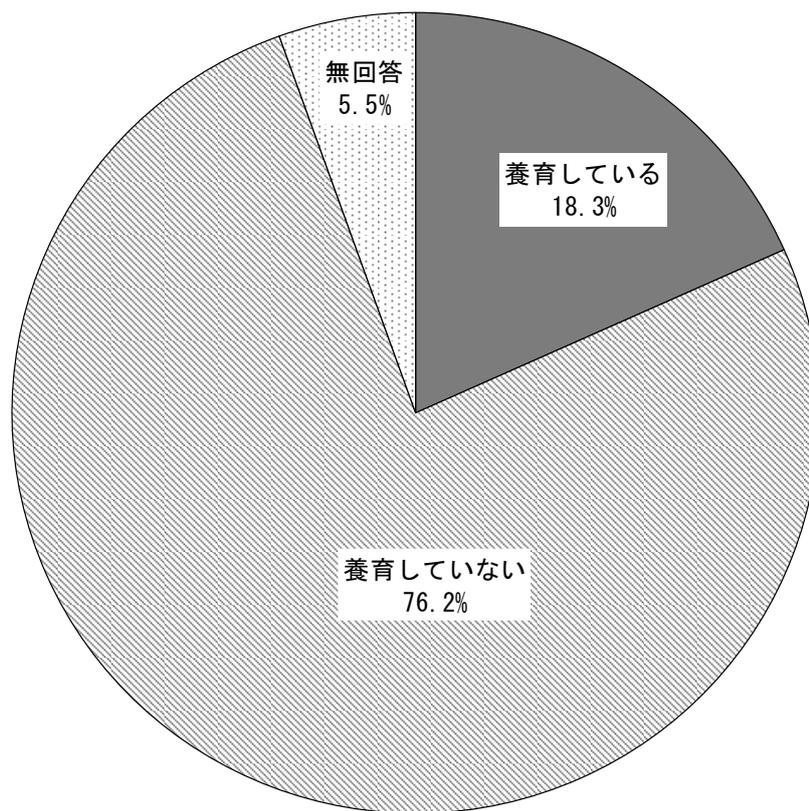
性別



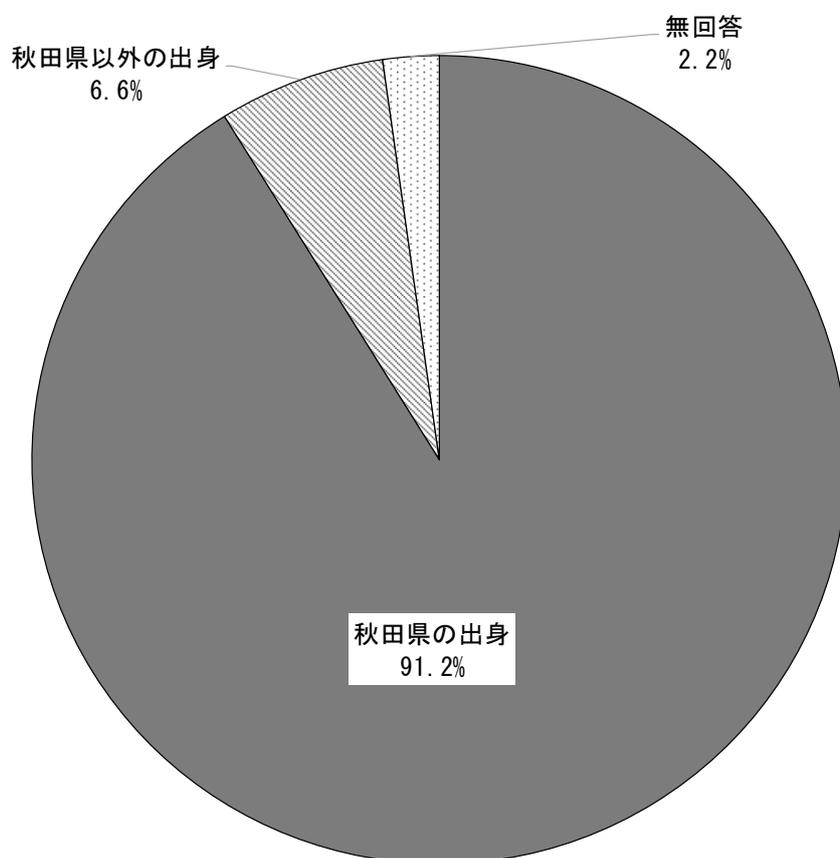
年齢



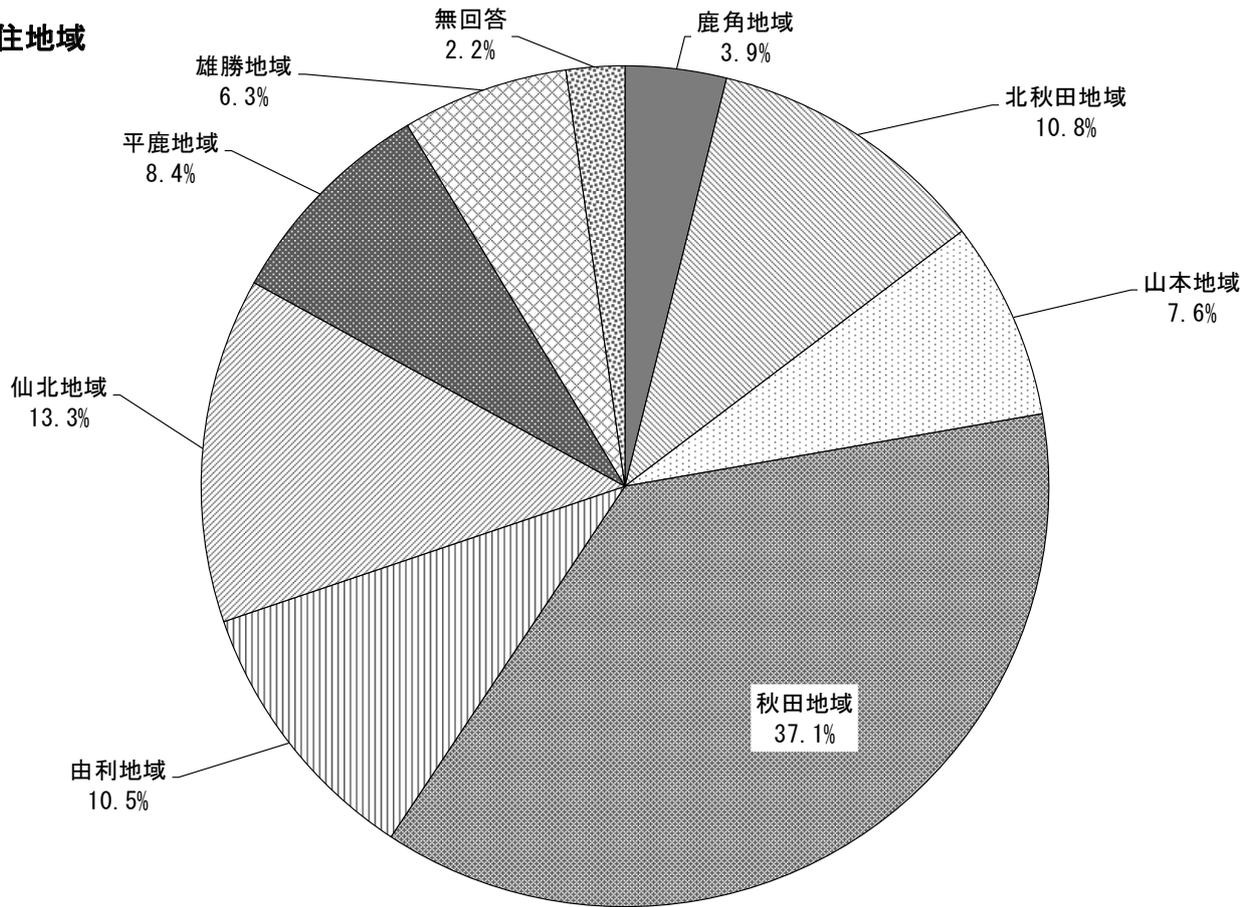
18歳未満の子の有無



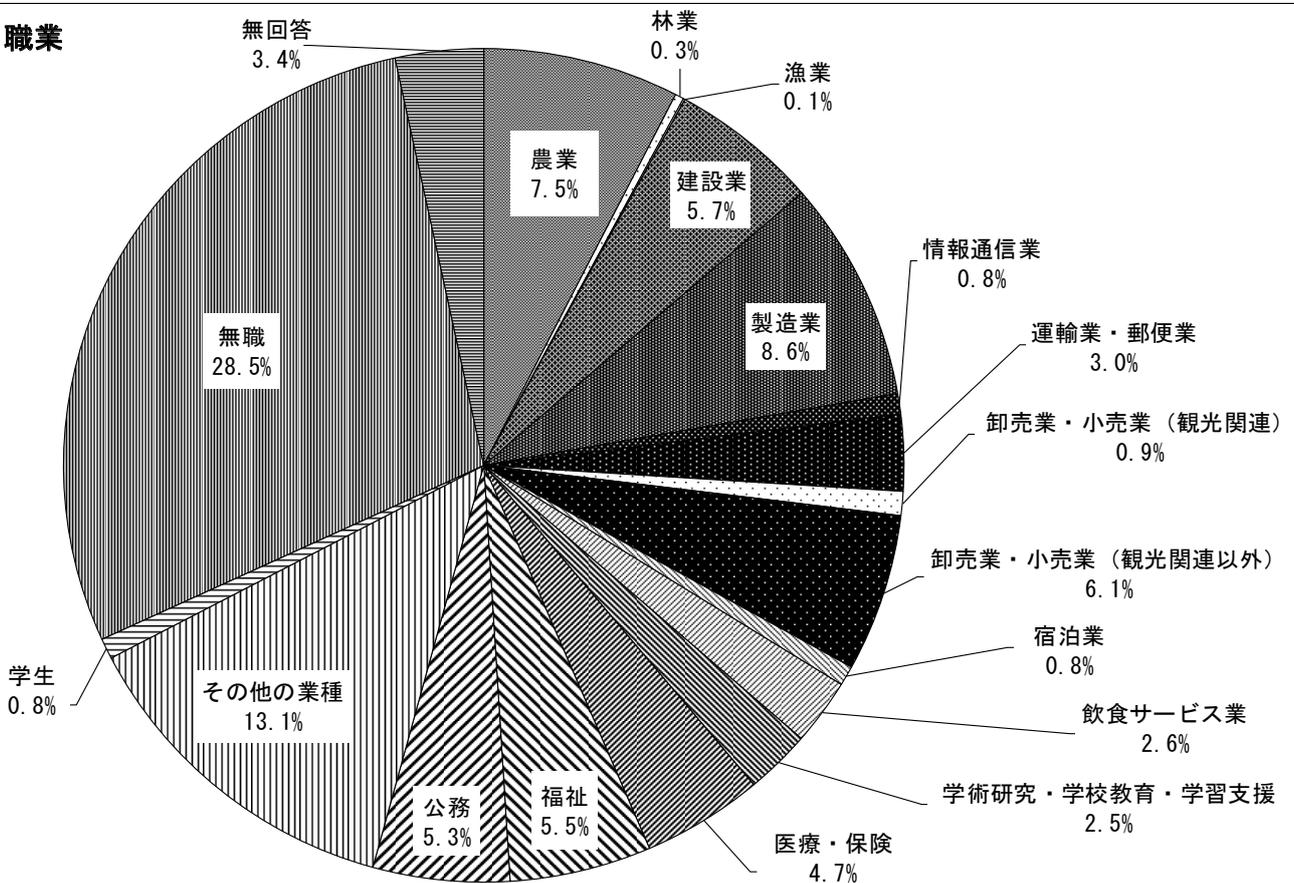
出身



居住地域



職業



8 標本抽出方法

(1) 層化及び標本数の配分

調査対象を県内 25 市町村で層化し、各市町村の満 18 歳以上の人口(令和 2 年 10 月 1 日現在)の構成比に応じて 5,000 の標本を比例分配した。

地域名	NO	市町村名	18 歳以上人口 (R2. 10. 1 現在)	18 歳以上人口 構成比	調査地点 人口按分
		県 計	828, 601	100. 00%	5, 000
鹿角地域	1	鹿角市	25, 456	3. 07%	154
	2	小坂町	4, 248	0. 51%	26
北秋田地域	3	大館市	60, 646	7. 32%	366
	4	北秋田市	26, 782	3. 23%	162
	5	上小阿仁村	1, 898	0. 23%	11
山本地域	6	能代市	43, 393	5. 24%	262
	7	藤里町	2, 650	0. 33%	16
	8	三種町	13, 661	1. 65%	82
	9	八峰町	5, 913	0. 71%	36
秋田地域	10	秋田市	258, 644	31. 21%	1, 560
	11	男鹿市	22, 728	2. 74%	137
	12	潟上市	27, 466	3. 31%	166
	13	五城目町	7, 526	0. 91%	45
	14	八郎潟町	4, 909	0. 59%	30
	15	井川町	4, 057	0. 49%	24
	16	大潟村	2, 563	0. 31%	15
由利地域	17	由利本荘市	64, 599	7. 80%	390
	18	にかほ市	20, 283	2. 45%	122
仙北地域	19	大仙市	67, 136	8. 10%	405
	20	仙北市	21, 971	2. 65%	133
	21	美郷町	16, 359	1. 97%	99
平鹿地域	22	横手市	74, 221	8. 96%	448
雄勝地域	23	湯沢市	37, 228	4. 49%	225
	24	羽後町	12, 055	1. 45%	73
	25	東成瀬村	2, 209	0. 27%	13

(2) 報告書の見方

母集団全体の中から一部を抽出する標本調査では、母集団全体を対象に行った調査と比べ、何らかの誤差が生ずる。本調査では信頼係数を95%と設定しており、誤差は以下の式で得られる。第Ⅲ部では点推定値を掲載しているが、以上のような誤差をもっている。

①回答割合の誤差 標本誤差 = $1.96 \times \sqrt{p(1-p)/n}$	N=母集団数 n=標本数 s=標本標準偏差 p=回答比率
②回答結果の平均値の誤差 標本誤差 = $1.96 \times s\sqrt{n}$	

①の回答割合に関しては、本調査における誤差の早見表を以下に記載する。この表では、例えば、「全体」の50%から「十分」という回答比率が得られた間について、繰り返し標本を抽出し推定を何度も行った場合、95%の確率で母割合（全県民が「十分」と考える割合）を50%±1.8%の範囲内に含むことを表しており、例えば、100回中95回は誤差を含めた範囲内に母割合を含むが、5回は含まないときがある。

回答割合の誤差の早見表

項目名	N：母集団数 (人)	n：回答者数 (人)	p：回答比率 (%)				
			10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
全体	828,601	3,008	1.1%	1.4%	1.6%	1.8%	1.8%
年代別							
18～39歳	157,499	422	2.9%	3.8%	4.4%	4.7%	4.8%
40～59歳	240,973	1,069	1.8%	2.4%	2.7%	2.9%	3.0%
60歳以上	430,129	1,452	1.5%	2.1%	2.4%	2.5%	2.6%

※無回答の65人を含むため、年代別の計と一致しない。

②の回答結果の平均値に関し、誤差を考慮した区間推定結果を以下に掲載する。この推定の精度は、繰り返し標本を抽出し推定を何度も行った場合に95%の確率で母平均（母集団である全県民の回答の平均値）をその範囲内に含む程度であり、例えば、100回中95回は信頼区間の中に母平均を含むが、5回は含まないときがある。

回答結果の平均値の区間推定

質問No.	全体		年代別					
			18～39歳		40～59歳		60歳以上	
	標本平均値	信頼区間	標本平均値	信頼区間	標本平均値	信頼区間	標本平均値	信頼区間
1	1.98	1.94 ~ 2.01	2.04	1.95 ~ 2.13	1.89	1.84 ~ 1.94	2.03	1.98 ~ 2.08
2	2.30	2.26 ~ 2.33	2.40	2.30 ~ 2.50	2.24	2.18 ~ 2.29	2.33	2.27 ~ 2.38
3	2.69	2.65 ~ 2.72	2.70	2.59 ~ 2.80	2.72	2.67 ~ 2.77	2.67	2.62 ~ 2.71
4	2.45	2.41 ~ 2.48	2.53	2.43 ~ 2.63	2.42	2.37 ~ 2.48	2.44	2.39 ~ 2.49
5	2.47	2.43 ~ 2.51	2.60	2.50 ~ 2.69	2.35	2.30 ~ 2.40	2.53	2.49 ~ 2.58
6	2.22	2.19 ~ 2.26	2.46	2.36 ~ 2.56	2.17	2.11 ~ 2.23	2.21	2.15 ~ 2.27
7	2.30	2.26 ~ 2.33	2.40	2.30 ~ 2.50	2.24	2.18 ~ 2.30	2.33	2.27 ~ 2.38
8	2.16	2.12 ~ 2.20	2.40	2.29 ~ 2.50	2.13	2.07 ~ 2.19	2.12	2.07 ~ 2.18
9	2.28	2.24 ~ 2.32	2.42	2.32 ~ 2.52	2.23	2.17 ~ 2.29	2.29	2.23 ~ 2.35
10	2.62	2.58 ~ 2.65	2.93	2.83 ~ 3.04	2.61	2.55 ~ 2.67	2.54	2.49 ~ 2.60
11	3.33	3.30 ~ 3.36	3.52	3.43 ~ 3.60	3.34	3.28 ~ 3.40	3.27	3.23 ~ 3.32
12	3.35	3.32 ~ 3.39	3.66	3.57 ~ 3.76	3.33	3.28 ~ 3.38	3.28	3.23 ~ 3.33
13	3.09	3.06 ~ 3.12	3.34	3.24 ~ 3.43	3.11	3.05 ~ 3.16	3.01	2.96 ~ 3.06
14	2.96	2.93 ~ 3.00	3.31	3.22 ~ 3.41	3.00	2.93 ~ 3.07	2.85	2.79 ~ 2.91
15	2.86	2.83 ~ 2.89	3.26	3.16 ~ 3.35	2.85	2.79 ~ 2.91	2.75	2.70 ~ 2.81
16	2.60	2.56 ~ 2.63	2.98	2.88 ~ 3.08	2.62	2.56 ~ 2.69	2.47	2.41 ~ 2.53
17	2.40	2.36 ~ 2.44	2.53	2.43 ~ 2.64	2.38	2.32 ~ 2.44	2.38	2.32 ~ 2.43
18	3.06	3.02 ~ 3.09	3.34	3.25 ~ 3.44	3.09	3.03 ~ 3.14	2.95	2.90 ~ 3.00
19	2.73	2.70 ~ 2.77	2.92	2.82 ~ 3.03	2.71	2.66 ~ 2.77	2.69	2.64 ~ 2.75
20	2.93	2.89 ~ 2.96	3.11	3.02 ~ 3.21	2.88	2.82 ~ 2.93	2.92	2.87 ~ 2.97
21	2.72	2.69 ~ 2.76	2.79	2.69 ~ 2.88	2.63	2.58 ~ 2.69	2.79	2.74 ~ 2.84
22	2.49	2.45 ~ 2.52	2.46	2.36 ~ 2.56	2.36	2.31 ~ 2.41	2.60	2.55 ~ 2.65
23	3.03	3.00 ~ 3.06	2.89	2.79 ~ 2.99	2.95	2.90 ~ 3.01	3.14	3.09 ~ 3.19
24	2.49	2.45 ~ 2.52	2.37	2.26 ~ 2.47	2.42	2.36 ~ 2.48	2.58	2.52 ~ 2.63
25	2.65	2.61 ~ 2.69	2.60	2.49 ~ 2.71	2.43	2.38 ~ 2.48	2.82	2.78 ~ 2.87
26	2.86	2.82 ~ 2.89	2.93	2.83 ~ 3.02	2.75	2.69 ~ 2.80	2.92	2.87 ~ 2.96
27	2.83	2.80 ~ 2.87	2.88	2.78 ~ 2.98	2.77	2.71 ~ 2.83	2.88	2.83 ~ 2.93
28	3.07	3.03 ~ 3.10	3.12	3.03 ~ 3.21	3.05	2.99 ~ 3.10	3.07	3.02 ~ 3.13
29	3.14	3.11 ~ 3.17	3.20	3.11 ~ 3.29	3.10	3.04 ~ 3.16	3.16	3.10 ~ 3.22
30	2.87	2.83 ~ 2.90	3.01	2.91 ~ 3.11	2.84	2.78 ~ 2.90	2.85	2.80 ~ 2.91
31	3.05	3.02 ~ 3.08	3.11	3.02 ~ 3.21	3.01	2.95 ~ 3.07	3.06	3.00 ~ 3.11
32	3.02	2.99 ~ 3.05	3.10	3.01 ~ 3.19	2.97	2.91 ~ 3.03	3.04	2.98 ~ 3.09
33	2.92	2.88 ~ 2.95	3.06	2.96 ~ 3.16	2.89	2.82 ~ 2.96	2.90	2.83 ~ 2.96
34	2.88	2.85 ~ 2.92	3.01	2.91 ~ 3.10	2.86	2.81 ~ 2.92	2.87	2.82 ~ 2.93

第Ⅱ部 調査結果の概要

1 第1章「第3期ふるさと秋田元気創造プラン」について (P19~57)

「第3期ふるさと秋田元気創造プラン」の6つの戦略の各施策に関連する事柄について、5「十分」、4「おおむね十分」、3「ふつう」、2「やや不十分」、1「不十分」及びN「わからない」の中から1つを選択する形式で満足度の状況等を調査した。

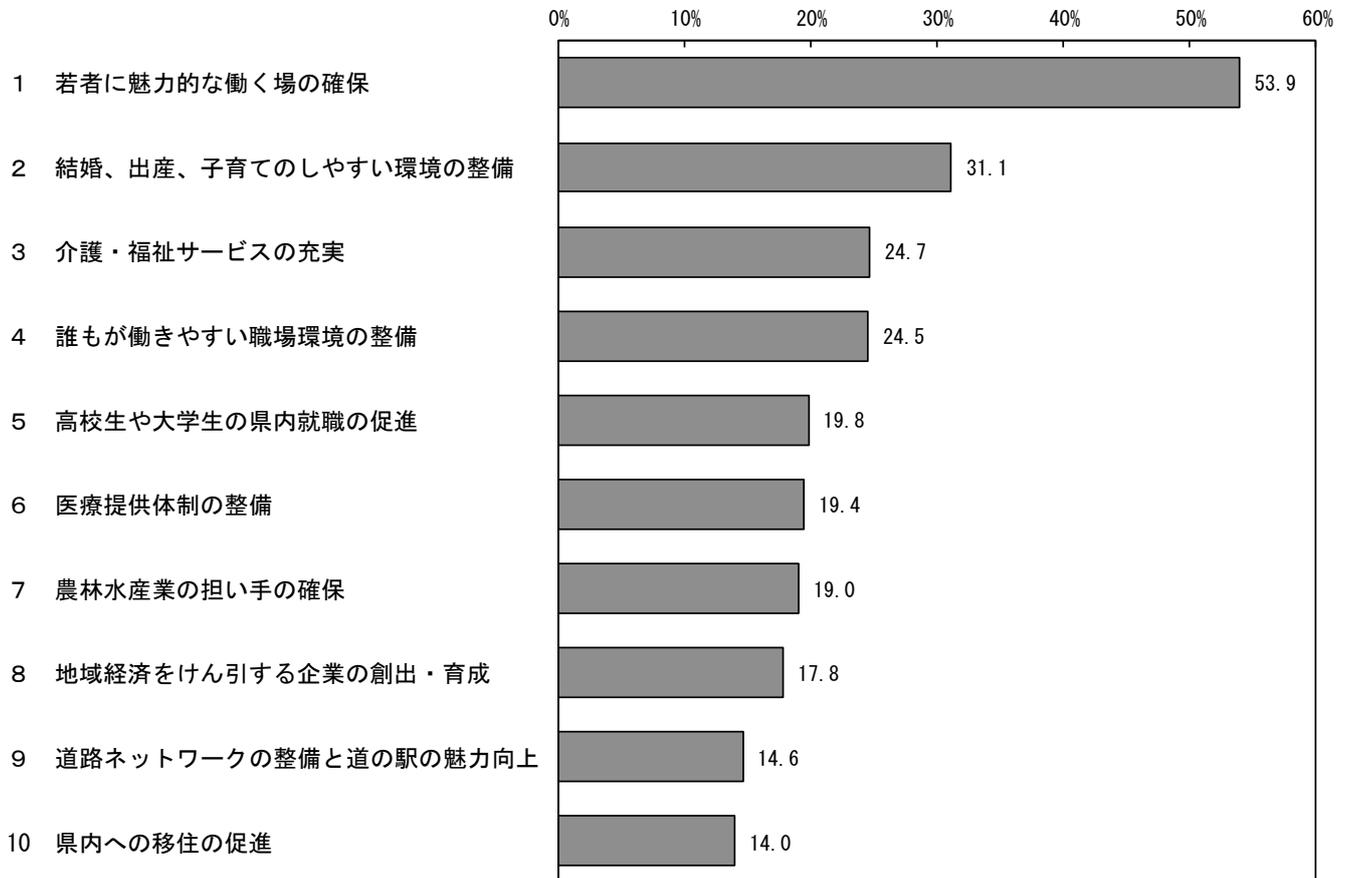
	満足度	回答の割合 (%)							
		十分(5)	おおむね十分(4)	ふつう(3)	やや不十分(2)	不十分(1)	わからない	無回答	
戦略1	1 若者にとって魅力的な働く場が確保されている。	1.98	0.4	2.0	26.3	27.2	33.5	8.1	2.4
	2 高校生や大学生の県内就職が進んでいる。	2.30	0.6	5.1	32.4	25.7	19.5	14.9	1.8
	3 安心して子育てができる社会になっている。	2.69	1.5	13.5	42.1	19.0	12.7	9.4	1.7
	4 女性や若者が職場や地域で生き生きと活躍できる社会になっている。	2.45	0.8	5.2	41.9	25.7	15.1	9.5	1.8
	5 地域交通や買い物サービスなどの日常生活に必要な機能が維持され、安心して生き生きと生活できる地域社会になっている。	2.47	1.2	9.9	39.2	24.8	18.7	4.7	1.5
戦略2	6 地域経済を牽(けん)引することができる競争力を持った企業が増えている。	2.22	0.4	4.2	28.1	24.5	20.2	20.4	2.2
	7 中小企業の安定した経営が確保されている。	2.30	0.2	2.9	33.0	24.7	16.5	21.2	1.5
	8 企業誘致が進んでいる。	2.16	0.3	3.8	26.7	24.2	22.8	20.6	1.5
戦略3	9 産業人材の確保・育成が進んでいる。	2.28	0.2	3.2	30.9	24.0	16.9	23.4	1.4
	10 農林水産業で働く人が、地域で元気に活躍している。	2.62	0.8	8.6	38.5	17.3	11.1	20.7	3.0
	11 えだまめ、ねぎ、しいたけ、キク、秋田牛などの生産が盛んに行われている。	3.33	5.3	30.0	41.0	7.0	2.7	12.4	1.6
	12 あきたこまちをはじめ、全国の産地間競争に打ち勝つ米づくりが盛んに行われている。	3.35	7.6	32.6	38.7	8.2	3.8	7.6	1.4
	13 飲料や発酵食品など、県産の農林水産物を生かした加工品づくりや販売が盛んに行われている。	3.09	3.6	20.4	45.2	11.2	4.4	13.4	1.8
	14 秋田スギ丸太の生産量が増大し、県産材の利用が進んでいる。	2.96	2.1	13.7	37.8	11.0	4.7	28.8	1.9
	15 ハタハタ、マダイ、ヒラメ、サケなど、県内で獲れた多様な魚が流通・販売されている。	2.86	2.3	12.2	45.0	15.7	6.2	16.9	1.8
16 豊かな農山漁村で生き生きとした暮らしが営まれ、農地・森林を守る活動などが行われている。	2.60	1.2	7.9	37.3	19.9	10.7	21.5	1.6	

		満足度	回答の割合 (%)							
			十分(5)	おおむね十分(4)	ふつう(3)	やや不十分(2)	不十分(1)	わからない	無回答	
戦略4	17	国内外から観光誘客が進んでいる。	2.40	1.2	6.2	33.8	21.8	17.6	17.0	2.5
	18	日本酒や発酵食品など、秋田の食品が国内外の市場で盛んに流通している。	3.06	3.0	20.9	42.0	11.0	5.6	15.8	1.8
	19	国内外に秋田ならではの文化の魅力が伝えられている。	2.73	2.0	11.9	42.1	19.1	9.8	13.2	1.9
	20	スポーツに関連する様々な活動が盛んに行われ、地域に活気もたらされている。	2.93	2.7	17.8	45.1	15.2	7.3	10.0	1.8
	21	地域間の交流や生活を支える県内の道路ネットワークが整備されている。	2.72	1.6	13.7	43.6	18.4	11.5	9.4	1.8
	22	鉄道や航空、地域交通など利便性の高い交通ネットワークが整備されている。	2.49	1.2	9.0	38.7	22.7	17.1	9.3	2.0
戦略5	23	食事やたばこなど、これまでの生活習慣を見直し、健康づくりに取り組む県民の意識が高まってきている。	3.03	2.0	19.8	50.4	10.9	5.1	10.0	1.8
	24	誰も自殺に追い込まれることのないよう、悩みを抱えた方が相談しやすい環境が整っている。	2.49	0.8	6.6	37.0	20.9	14.0	19.1	1.6
	25	どこに住んでいても、安心して医療を受けられる体制が整っている。	2.65	2.0	13.3	41.6	21.4	14.1	6.2	1.5
	26	高齢者や障害がある方などが、住み慣れた地域でニーズに合った介護・福祉サービスを受けることができる。	2.86	2.4	15.4	45.0	17.5	7.6	10.6	1.5
	27	全ての子どもが生まれ育った環境にかかわらず、健やかに育まれる支援体制が整っている。	2.83	1.8	12.4	47.1	15.3	7.4	14.5	1.5
戦略6	28	学校教育を通じて、ふるさと秋田を愛し支える心が育まれている。	3.07	2.4	17.2	47.6	8.3	4.2	18.0	2.3
	29	学校教育を通じて、意欲的に学ぼうとする態度や、自ら考え、判断し、表現する力が育まれている。	3.14	2.6	20.1	45.9	7.5	3.2	18.9	1.6
	30	学校教育を通じて、外国文化を理解しようとする態度や、英語でコミュニケーションをとる能力が育まれている。	2.87	1.6	12.1	43.3	13.7	5.9	21.8	1.6
	31	学校教育を通じて、他人への思いやりなどの豊かな人間性と健やかな体が育まれている。	3.05	1.9	16.4	50.3	8.5	4.0	17.3	1.7
	32	学校・家庭・地域が連携し、社会全体で子どもたちの成長を支えていく体制が整備されている。	3.02	2.1	16.5	49.7	10.4	4.3	15.2	1.7
	33	県内の大学等で、地域の活性化につながる教育・研究・社会貢献活動が行われている。	2.92	1.4	10.1	40.5	11.6	3.4	31.4	1.6
	34	県民の多様な生涯学習の機会や芸術文化に触れる機会が提供されている。	2.88	1.5	11.3	48.0	13.1	5.2	19.2	1.7

2 第2章 県政の重要課題について (P58~62)

今後の県政を推進していく上で、「重要課題として県に力を入れてほしいこと」を50の選択肢の中から5つまでを選ぶ形式で調査した。

重要課題として県に力を入れてほしいこと（上位10項目）



3 第3章 県の特定課題について (P63~85)

県の特定課題として、次の12課題について調査した。

- (1) 県の広報活動について
- (2) 家庭での防災活動について
- (3) 読書活動について
- (4) 農業への就業について
- (5) がん対策について
- (6) 社会活動・地域活動について
- (7) 自転車の安全で適正な利用について
- (8) 男女共同参画について
- (9) 温暖化防止対策について
- (10) 環境保全活動について
- (11) 高齢者の社会参加について
- (12) 差別等について

4 第4章 県政への自由意見について (P87~99)

県に力を入れてほしいことや、取り組むべきだと思うことについて、851人から1,389件の意見が寄せられた。

項番	項 目	件数
A	少子化対策・子育て支援・結婚支援に関すること	116
B	移住・定住に関すること	49
C	女性・若者の活躍支援に関すること	68
D	地域社会の維持・活性化に関すること	62
E	商工業・雇用・労働に関すること	172
F	農林水産業に関すること	64
G	観光に関すること	46
H	文化・スポーツに関すること	31
I	道路・交通ネットワークに関すること	89
J	健康・医療・福祉に関すること	116
K	教育に関すること	56
L	県土の保全・防災に関すること	12
M	身近な生活・環境に関すること	56
N	県政全般に対する意見・その他	452
	合 計	1,389

第Ⅲ部 調査結果の詳細

第1章 「第3期ふるさと秋田元気創造プラン」について

1 各戦略の施策に関連する事柄についての満足度（問1）

プランの各施策に関連する事柄について、満足度を5「十分」～1「不十分」の5段階で質問した。

(1) 戦略1 秋田の未来につながるふるさと定着回帰戦略について

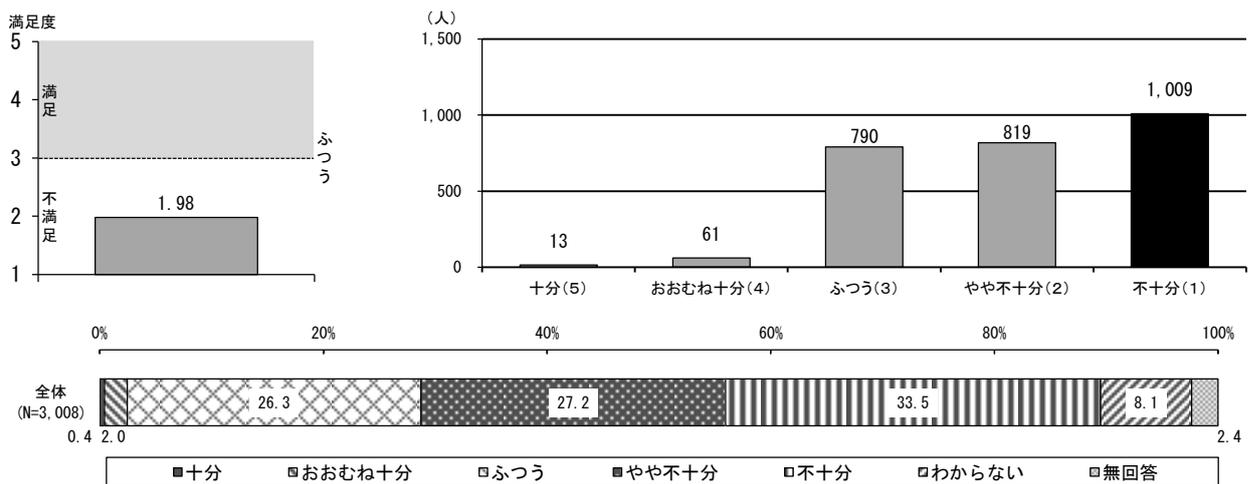
ア 社会減の抑制に向けた雇用の場の創出、人材育成・確保

問1-1 若者にとって魅力的な働く場が確保されている。

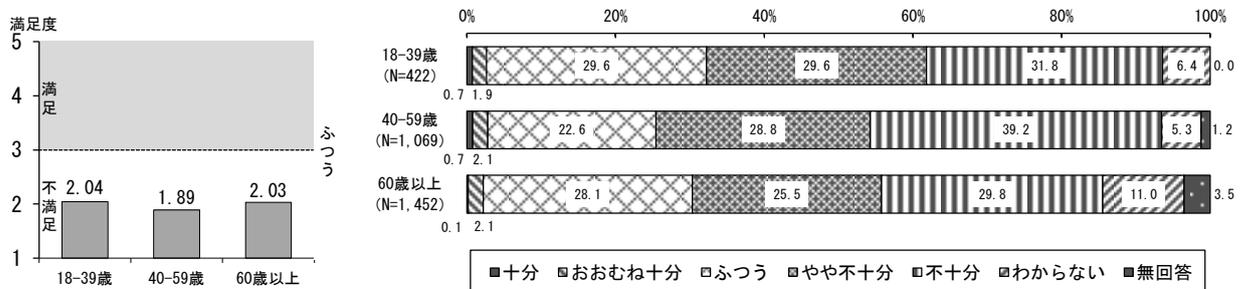
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は1.98で、「ふつう」の3より1.02低かった。回答では「不十分」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は2.4%、「ふつう」は26.3%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は60.7%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は28.7%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く2.04であり、不満を感じていない人の割合は32.2%であった。一方、「40～59歳」の満足度は1.89であり、不満を感じていない人の割合は25.4%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,828人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、739人(40.4%)から回答があった。

回答の一部

- 若者がやりたいと思う職種、職場が少ないという意味では魅力的な働く場は少ないと思ってしまう。給料も低いのでなおさら魅力が減る。(女性/30歳代/山本地域)
- 企業が魅力を伝えられるように高校や大学での説明会の開催を活発にしてほしい。さらに、中学生にも秋田の企業を知ってもらえる機会を増やしてほしい。(男性/20歳代/由利地域)
- 中小企業等は若者の採用に積極的に取り組んでいる様子が伺えるが、働き方改革への対応やIoT、AIの導入など若者に魅力的な働き方や環境の整備の実現は、日常業務で手が一杯で難しいと思う。(女性/30歳代/秋田地域)

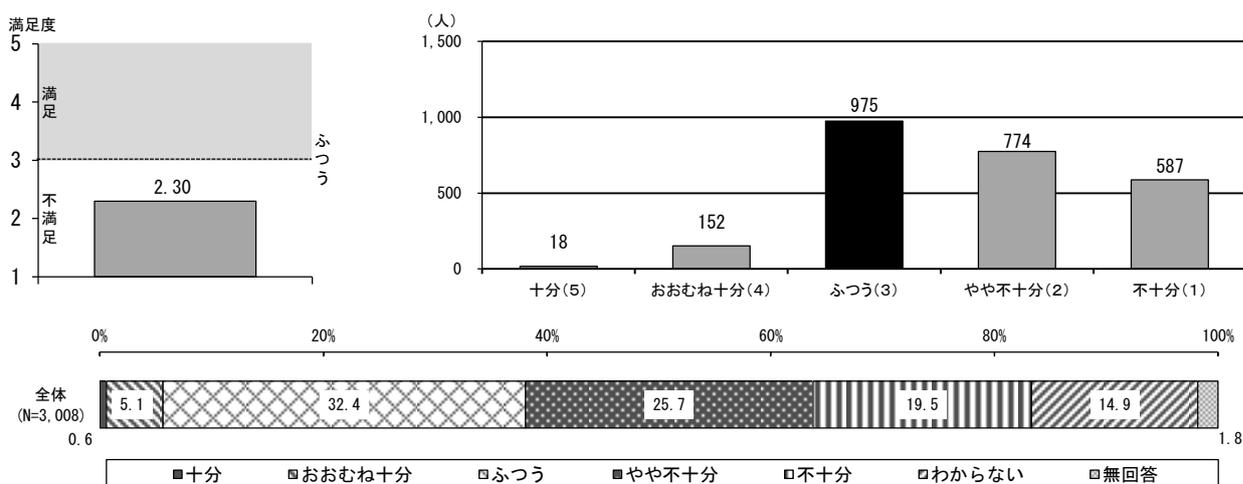
イ 若者の県内定着・回帰と移住の促進による秋田への人の流れづくり

問 1-2 高校生や大学生の県内就職が進んでいる。

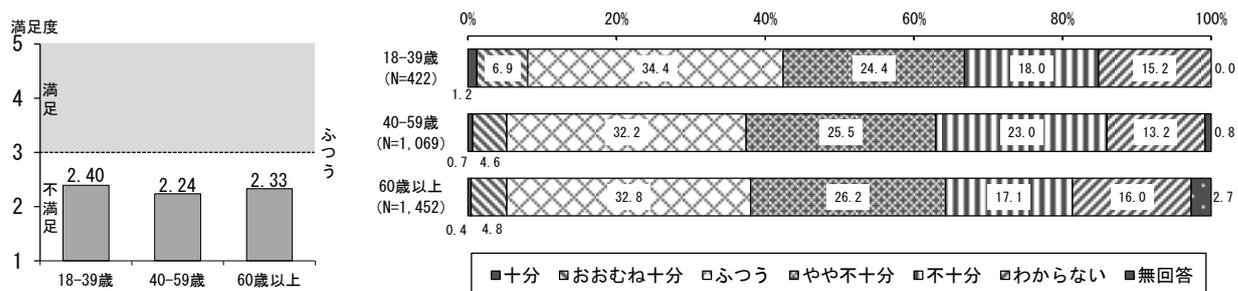
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.30で、「ふつう」の3より0.70低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は5.7%、「ふつう」は32.4%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は45.2%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は38.1%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く2.40であり、不満を感じていない人の割合は42.5%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.24であり、不満を感じていない人の割合は37.5%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,361人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、414人(30.4%)から回答があった。

回答の一部

- 学生は修得した専門分野を活かしたい志向が働き、どうしても地元に残らなければならない学生だけが県内に留まっている感じがする。(男性/60歳代/秋田地域)
- 大学生の県内就職に関して、県内の企業は、長く働き続けることができることや、福利厚生が充実した働きやすい職場であることなどの魅力をもっとアピールすべき。(男性/20歳代/由利地域)
- 働く上での条件(賃金、仕事内容、福利厚生等)が合わなければ定着は望めないと考えます。企業説明会も大切ですが、新規採用を希望する企業の要望と学生の職業観に着目した取組が必要と思います。(女性/20歳代/由利地域)

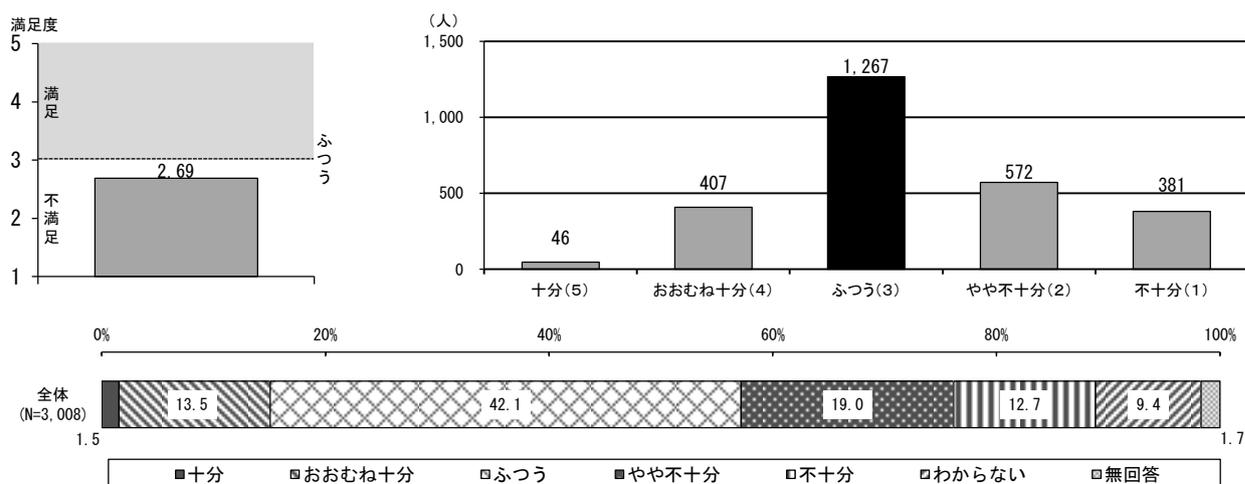
ウ 結婚や出産、子育ての希望をかなえる全国トップレベルのサポート

問 1-3 安心して子育てができる社会になっている。

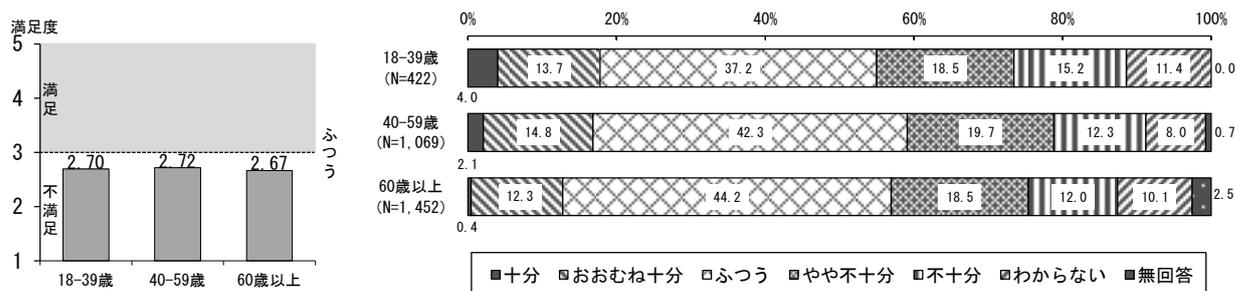
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.69で、「ふつう」の3より0.31低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は15.0%、「ふつう」は42.1%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は31.7%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は57.1%であった。



年代別では、「40～59歳」の満足度が最も高く2.72であり、不満を感じていない人の割合は59.2%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.67であり、不満を感じていない人の割合は56.9%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した953人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、307人(32.2%)から回答があった。

回答の一部

- 保育施設や学童施設の整備が不十分であり、共働き世帯が安心して働ける環境になっていない。(男性/40歳代/秋田地域)
- サポート環境は整っているかもしれないが、一人ひとりの給料があまり高くないため、収入面での安定、安心感がしっかり持てず、出産・子育てに対する不安は残ってしまうと思う。(女性/30歳代/山本地域)
- 子どもを産む時にどのような自治体の支援があるのかよく分からない。各々の自治体の取組をどんな立場の女性であっても分かるように周知してほしい。(女性/20歳代/秋田地域)

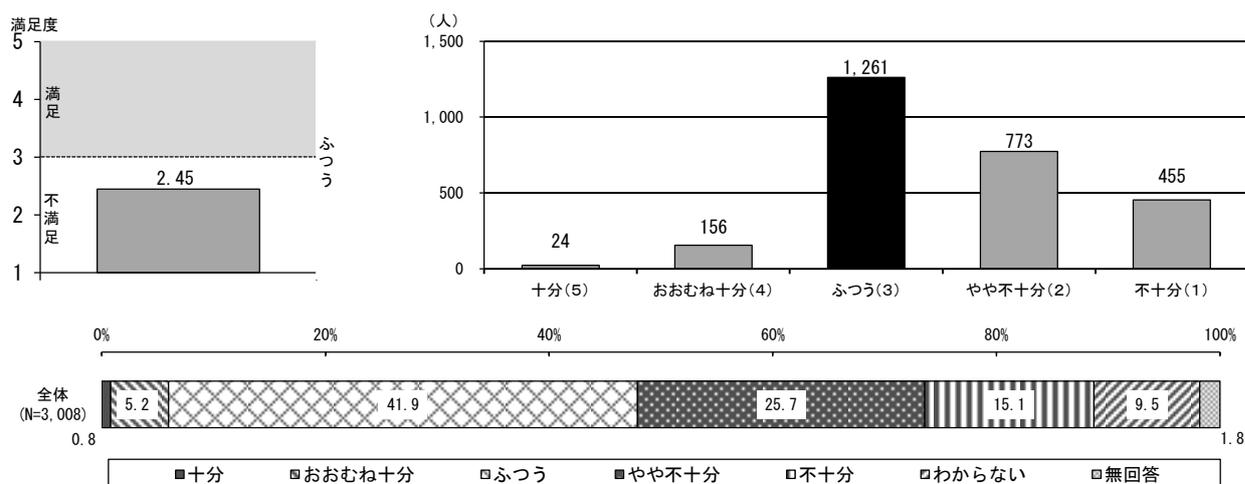
エ 女性や若者の活躍推進とワーク・ライフ・バランスの実現

問1-4 女性や若者が職場や地域で生き生きと活躍できる社会になっている。

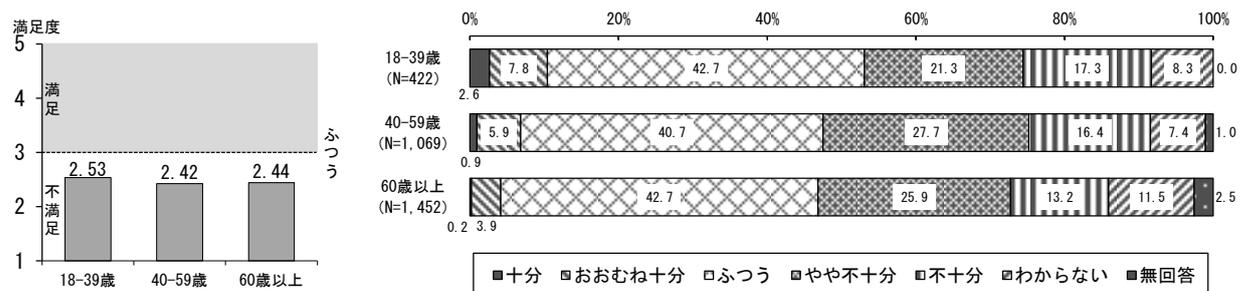
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.45で、「ふつう」の3より0.55低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は6.0%、「ふつう」は41.9%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は40.8%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は47.9%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く2.53であり、不満を感じていない人の割合は53.1%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.42であり、不満を感じていない人の割合は47.5%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,228人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、323人(26.3%)から回答があった。

回答の一部

- 今の時代に反するでしょうが、「女性の活躍＝女性も社会に出て働くこと」というのはちょっと違うような気がしています。むしろ、共働きしなければ余裕のある生活を送ることができなくなっていることが、晩婚化や少子化、子育ての困難などを招いているように思います。(男性/40歳代/秋田地域)
- SDGsをもっと取り上げるなどして、女性だから・若者だから、という偏見をなくしていくことから始める必要があると思います。(女性/50歳代/秋田地域)
- 女性や若者が活躍できる！と言われることも多いが、年功序列という考えがまだまだ抜けない企業が多いと思う。(女性/20歳代/秋田地域)

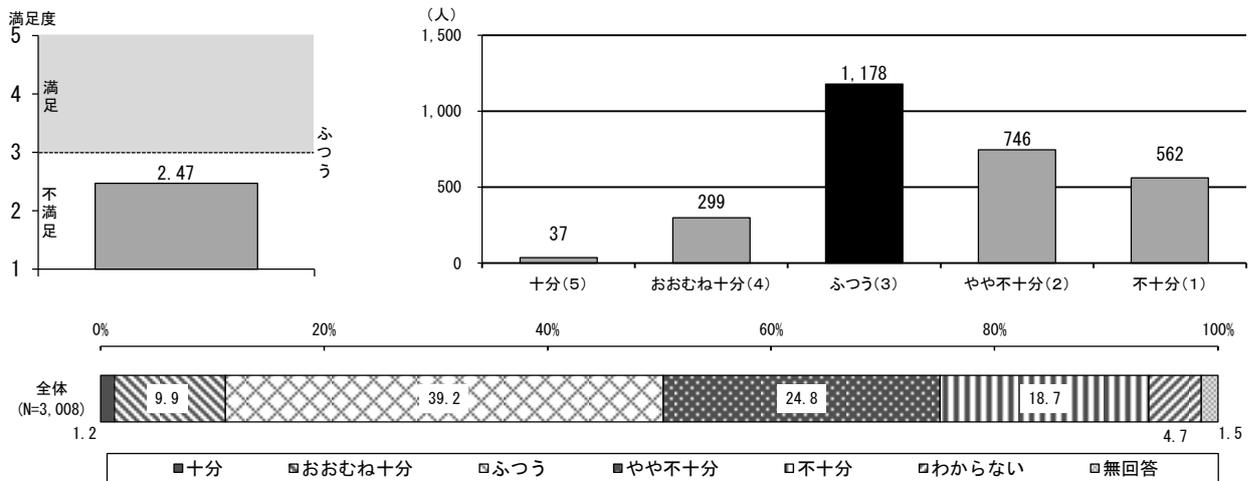
オ 活力にあふれ、安心して暮らすことができる地域社会づくり

問 1-5 地域交通や買い物サービスなどの日常生活に必要な機能が維持され、安心して生き生きと生活できる地域社会になっている。

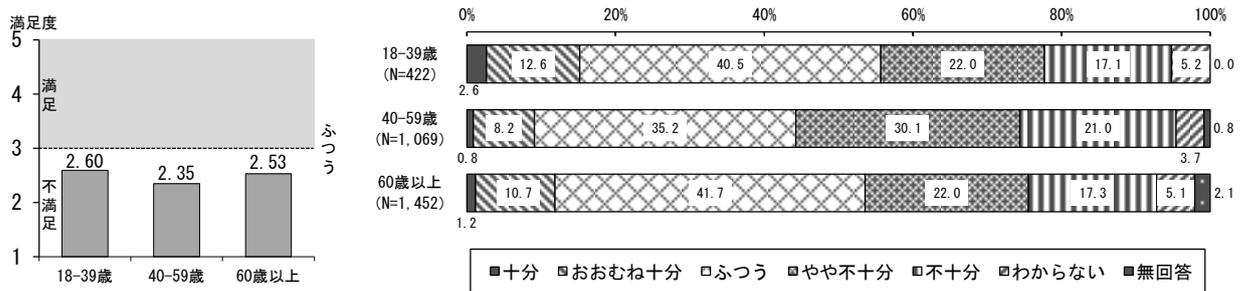
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.47で、「ふつう」の3より0.53低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は11.1%、「ふつう」は39.2%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は43.5%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は50.3%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く2.60であり、不満を感じていない人の割合は55.7%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.35であり、不満を感じていない人の割合は44.2%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,308人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、487人(37.2%)から回答があった。

回答の一部

- バスなどの公共交通機関がなく、通学も車での送迎が必要。車の運転ができなければどこにも行けず地域から離れる人が増えている。(女性/40歳代/北秋田地域)
- 公共交通は年々不便になりつつあり、使い物にならない。車を運転できない高齢者のために買い物サービスを含めサポートできる体制を強化すべき。(男性/50歳代/平鹿地域)
- 高齢者が多い本県では民間バス事業者での対応に限界があるのではないのでしょうか。コミュニティ路線の確保により高齢者の移動の足を確保しつつ、移動販売車の利活用を推進していただきたい。(男性/50歳代/秋田地域)

(2) 戦略2 社会の変革へ果敢に挑む産業振興戦略について

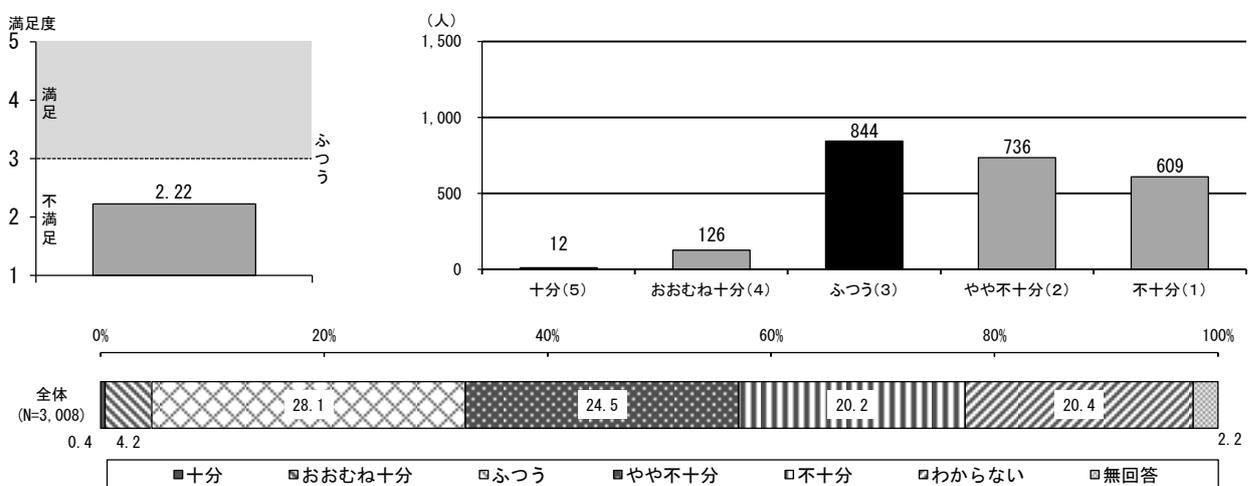
ア 成長分野の競争力強化と中核企業の創出・育成

問 1-6 地域経済を牽引^{けん}することができる競争力を持った企業が増えている。

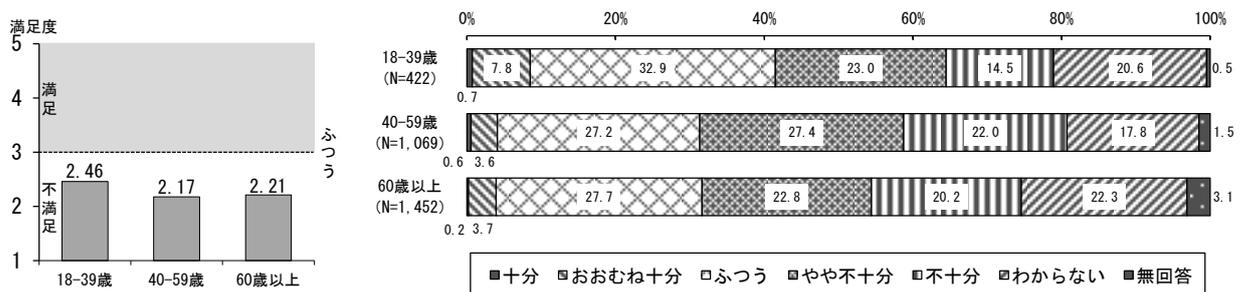
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.22で、「ふつう」の3より0.78低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は4.6%、「ふつう」は28.1%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は44.7%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は32.7%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く2.46であり、不満を感じていない人の割合は41.4%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.17であり、不満を感じていない人の割合は31.4%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,345人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、286人(21.3%)から回答があった。

回答の一部

- 優秀な企業は多いが、地域経済を牽引できる企業があるのは一部の地域に限られる。(男性/50歳代/平鹿地域)
- そもそも企業が少なく、単一商品を扱う業種が多い。多様性や総合性を持った企業を誘致するなり、作り上げるなりすべき。(男性/40歳代/北秋田地域)
- 他県に比べて圧倒的に劣勢に感じます。経営者の世代交代と企業の新陳代謝を進めることが先決だと思います。(男性/60歳代/秋田地域)

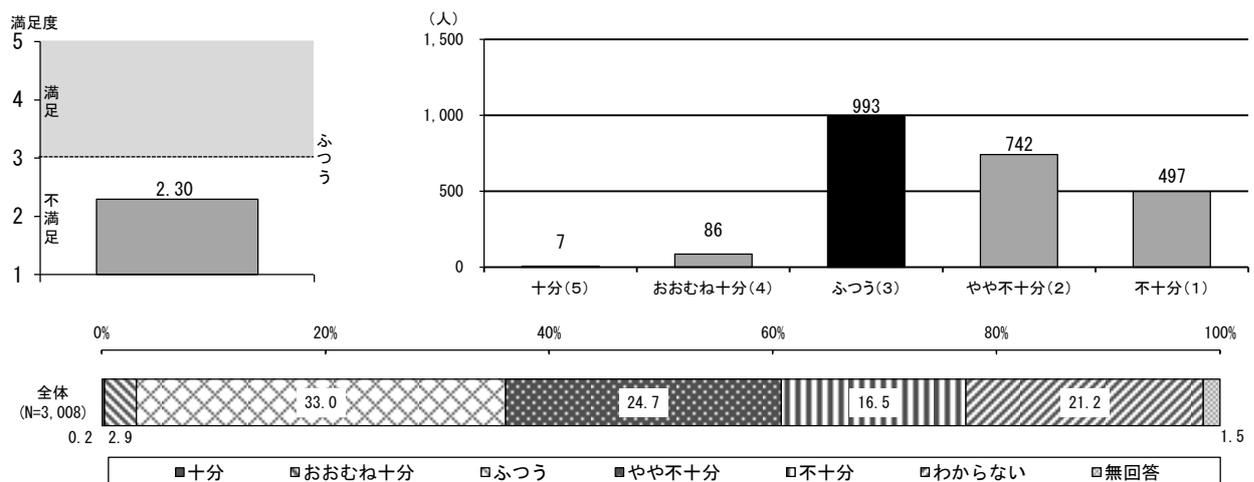
イ 中小企業・小規模企業者の活性化と生産性向上

問 1-7 中小企業の安定した経営が確保されている。

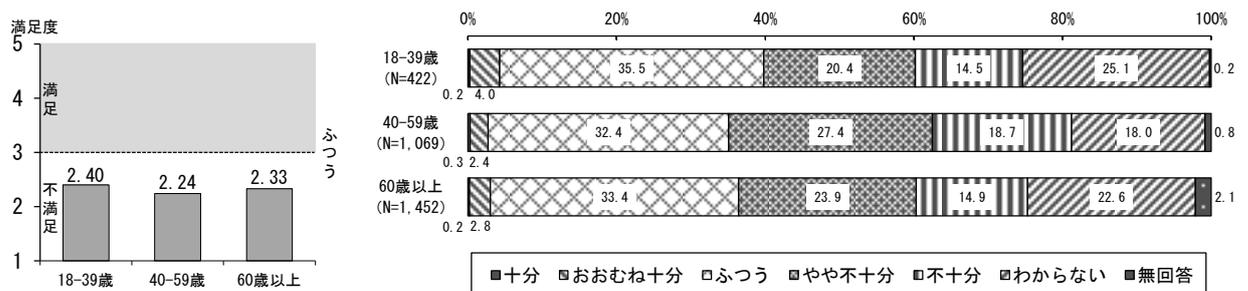
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.30で、「ふつう」の3より0.70低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は3.1%、「ふつう」は33.0%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は41.2%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は36.1%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く2.40であり、不満を感じていない人の割合は39.7%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.24であり、不満を感じていない人の割合は35.1%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,239人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、232人(18.7%)から回答があった。

回答の一部

- コロナの影響もあると思うが、将来的に事業継続の見通しが明るい企業は少ないと思う。(男性/30歳代/秋田地域)
- 少子化、人口流出により、買い手も働き手も不足し、経営の先行きが不安視されていると思う。(女性/60歳代/平鹿地域)
- 後継者がおらず、高齢の代表者が辞めると経営が成り立たない会社が多いと思います。経営者もあまり自分の子どもには継がせたくないような感じも見受けられます。(男性/50歳代/北秋田地域)

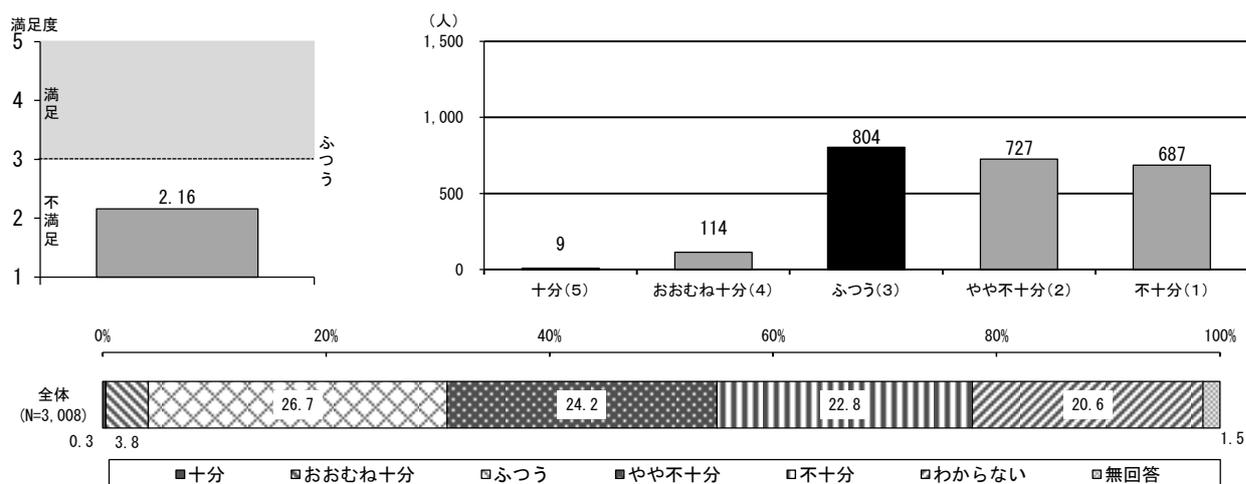
ウ 国内外の成長市場の取り込みと投資の促進

問 1-8 企業誘致が進んでいる。

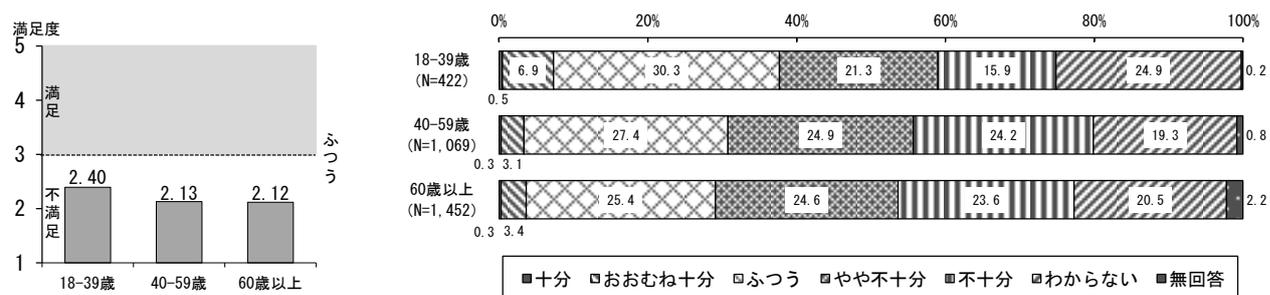
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.16で、「ふつう」の3より0.84低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は4.1%、「ふつう」は26.7%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は47.0%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は30.8%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く2.40であり、不満を感じていない人の割合は37.7%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.12であり、不満を感じていない人の割合は29.1%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,414人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、304人(21.5%)から回答があった。

回答の一部

- 秋田市周辺では進んでいるのかもしれないが、県全体で進んでいるようには思えない。(男性/40歳代/平鹿地域)
- もっと色々な業種の誘致企業が増えれば若者の就職にもつながる。(女性/40歳代/平鹿地域)
- 秋田県の賃金水準が低い事を理由に進出している企業もあると感じる。ただ誘致数を増やせば良いというものではないと思う。(男性/40歳代/秋田地域)

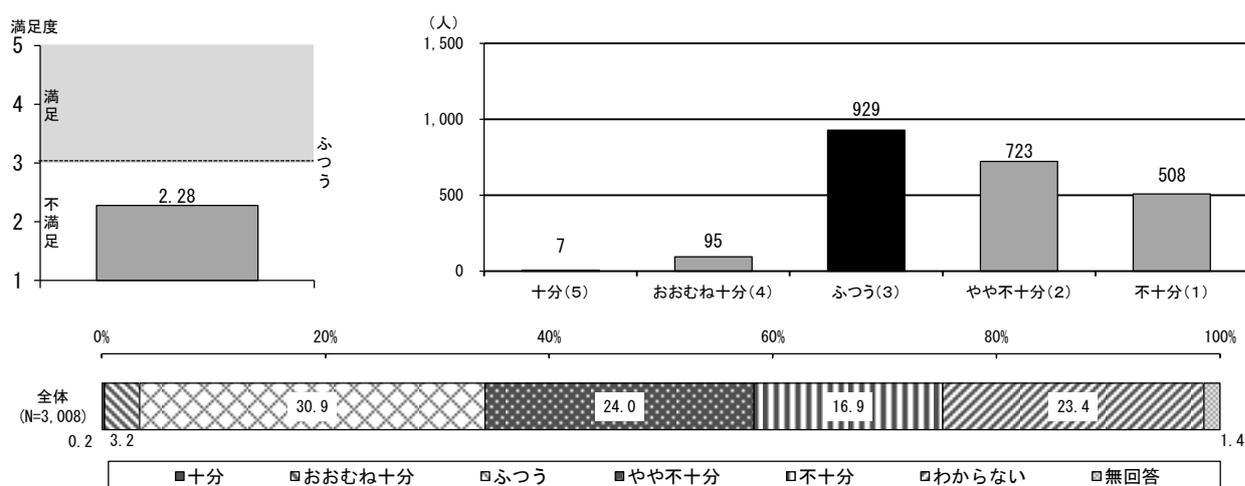
エ 産業人材の確保・育成と働きやすい環境の整備

問 1-9 産業人材の確保・育成が進んでいる。

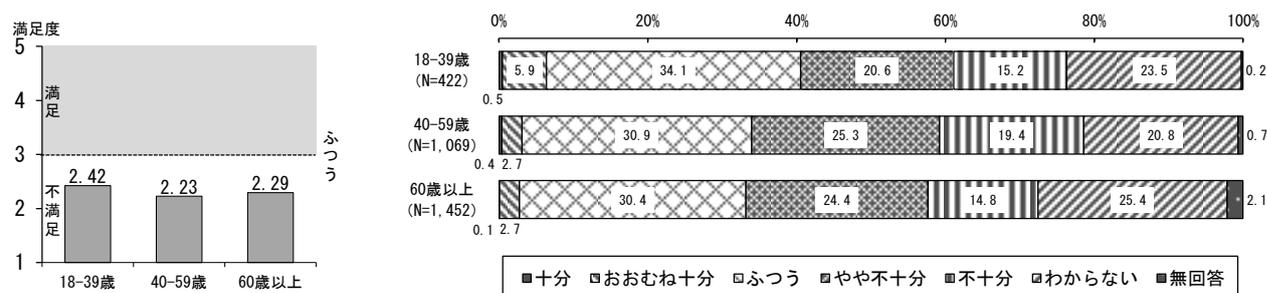
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.28で、「ふつう」の3より0.72低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は3.4%、「ふつう」は30.9%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は40.9%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は34.3%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く2.42であり、不満を感じていない人の割合は40.5%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.23であり、不満を感じていない人の割合は34.0%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,231人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、230人(18.7%)から回答があった。

回答の一部

- 高校の専門分野の教育がもう少し有用で社会で通用するものにするべき。(女性/70歳以上/由利地域)
- 企業が増えても専門性や何かのインセンティブがないと、優秀な人材は県外に流出してしまう。(男性/60歳代/秋田地域)
- 特に建設業や製造業において、労働力人口の減少や高齢化により、技術者が不足していると感じる。人材確保に向けて様々な施策を講じる必要があると思う。(男性/40歳代/秋田地域)

(3) 戦略3 新時代を勝ち抜く攻めの農林水産戦略について

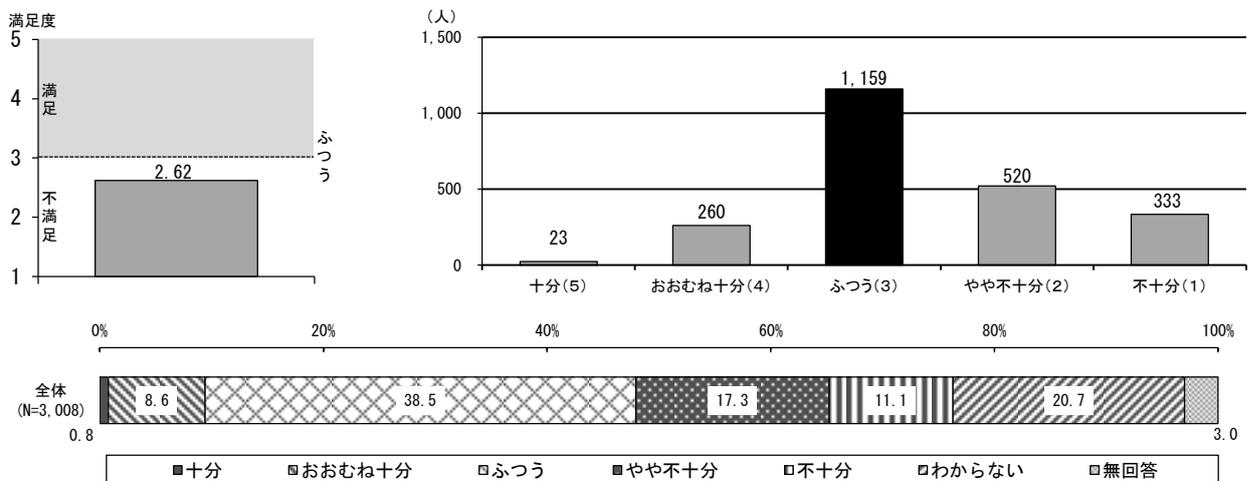
ア 秋田の農林水産業を牽引する多様な人材の育成

問1-10 農林水産業で働く人が、地域で元気に活躍している。

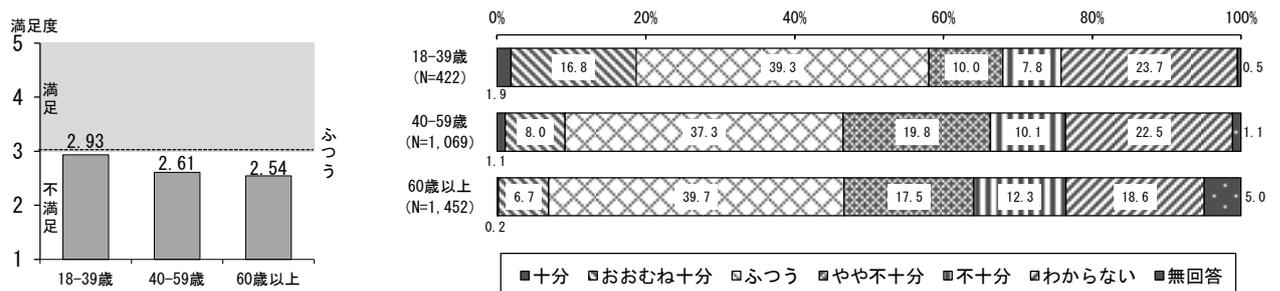
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.62で、「ふつう」の3より0.38低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は9.4%、「ふつう」は38.5%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は28.4%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は47.9%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く2.93であり、不満を感じていない人の割合は58.0%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.54であり、不満を感じていない人の割合は46.6%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した853人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、262人(30.7%)から回答があった。

回答の一部

- 農林業については後継者、担い手がない状況で、休耕農地や放置林が目立ち、農業法人、林業法人等による管理運営が必要と思う。(男性/70歳以上/北秋田地域)
- 県内で第1次産業に従事している人々の高齢化が進んでいるようなので、もっと若者に興味を持ってもらえるよう、スピード感を持って対策を進めてほしい。(女性/60歳代/秋田地域)
- 若手の参入が少なく農地の縮小も心配される。冬季の業務が無い又は少なく、通年雇用が難しい。(男性/30歳代/平鹿地域)

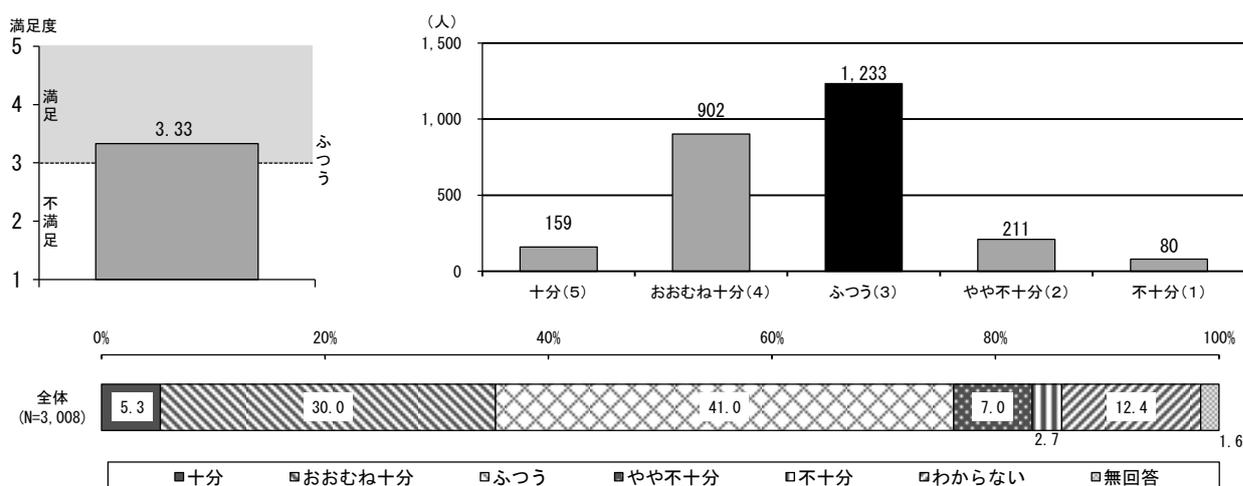
イ 複合型生産構造への転換の加速化

問1-11 えだまめ、ねぎ、しいたけ、キク、秋田牛などの生産が盛んに行われている。

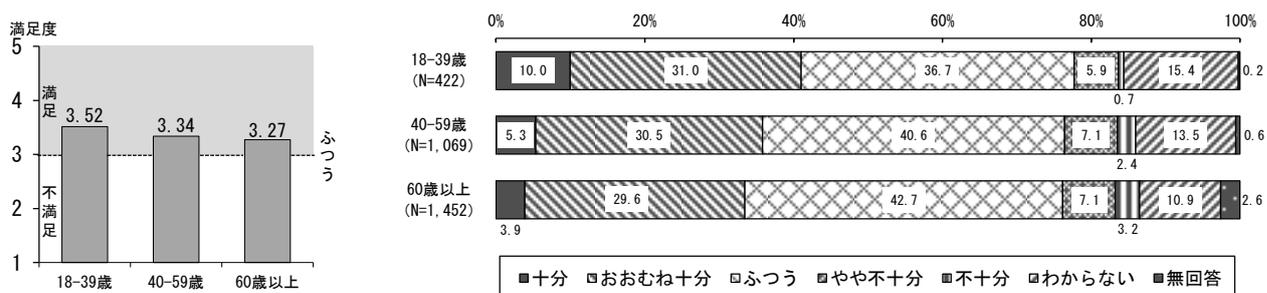
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は3.33で、「ふつう」の3より0.33高かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は35.3%、「ふつう」は41.0%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は9.7%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は76.3%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く3.52であり、不満を感じていない人の割合は77.7%であった。一方、「60歳以上」の満足度は3.27であり、不満を感じていない人の割合は76.2%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した291人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、90人(30.9%)から回答があった。

回答の一部

- それなりのブランド力があるねぎや比内地鶏に比べ、枝豆、椎茸などは生産が盛んに行われていることを知っている人が少ないと思う。もっとアピールしてもいい。(女性/20歳代/秋田地域)
- 秋田牛は美味しいと思うが、他のものは特に秋田産だからということで買うことはしない。(女性/60歳代/秋田地域)
- 枝豆やシイタケなど出荷額がトップクラスであることが周知されていない。ブランド化されていない。(男性/40歳代/秋田地域)

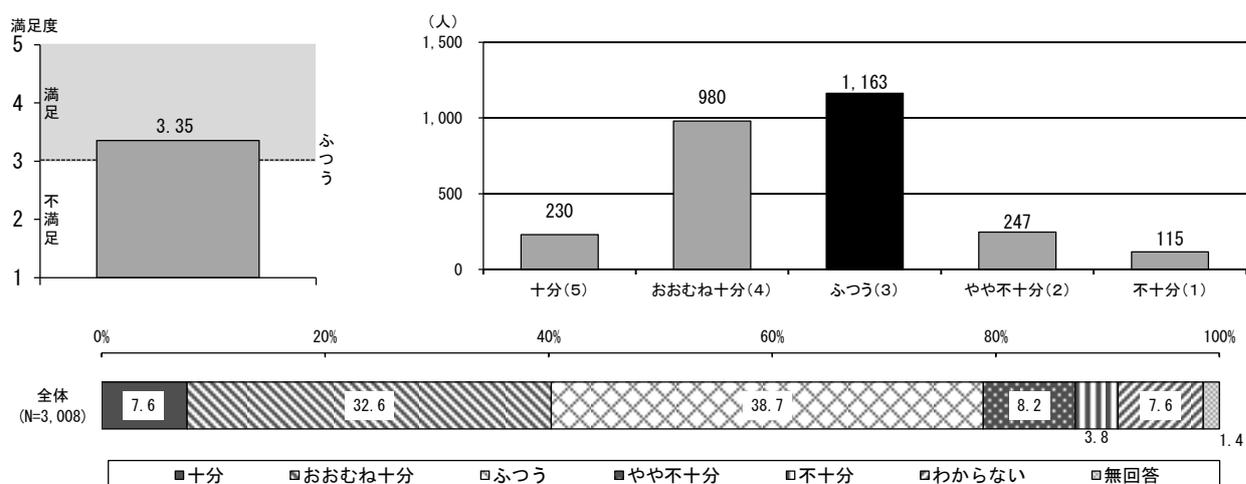
ウ 秋田米の戦略的な生産・販売と水田フル活用

問 1-12 あきたこまちをはじめ、全国の産地間競争に打ち勝つ米づくりが盛んに行われている。

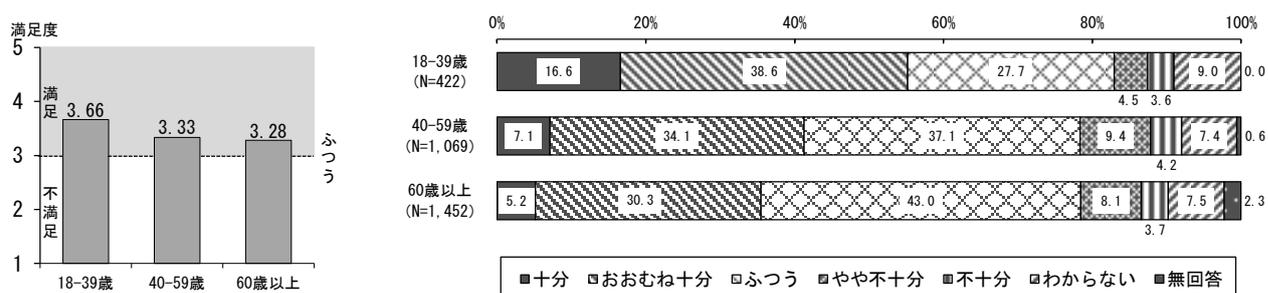
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は3.35で、「ふつう」の3より0.35高かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は40.2%、「ふつう」は38.7%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は12.0%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は78.9%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く3.66であり、不満を感じていない人の割合は82.9%であった。一方、「60歳以上」の満足度は3.28であり、不満を感じていない人の割合は78.5%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した362人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、136人(37.6%)から回答があった。

回答の一部

- 新ブランド米として“サキホコレ”が開発されたので、県内外の人々の胃袋をつかむものに成長していくことを望む。(女性/60歳代/由利地域)
- 「サキホコレ」が今後どのように評価されていくか注目していますが、国内の各所で新品種が作り出されている中で競争に打ち勝つには、秋田県人が苦手としている売り込む力を高めることが重要だと思います。(男性/40歳代/秋田地域)
- あきたこまちのように大ヒットしなくても他の農業県のように品種改良をしたブランド米を数多く出してほしい。(男性/40歳代/平鹿地域)

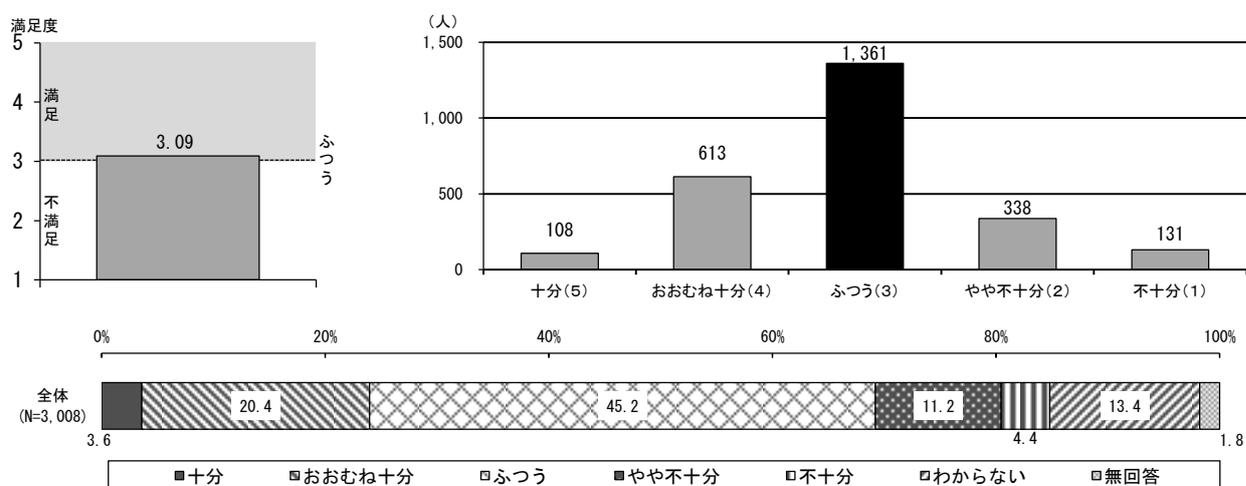
エ 農林水産物の高付加価値化と国内外への展開強化

問 1-13 飲料や発酵食品など、県産の農林水産物を生かした加工品づくりや販売が盛んに行われている。

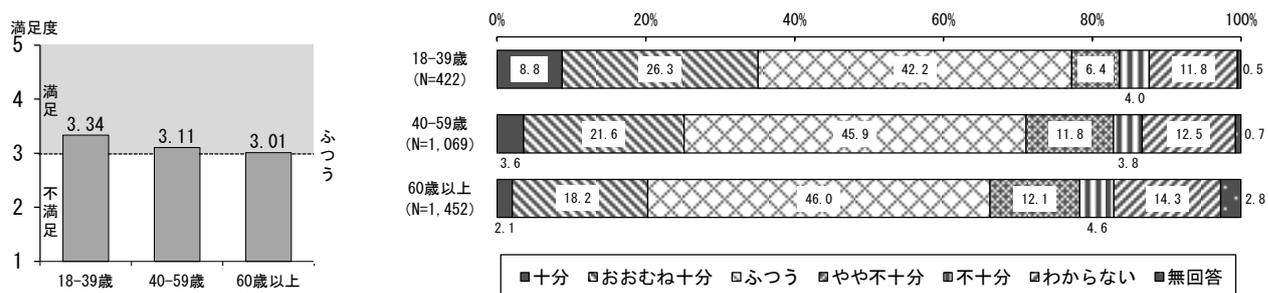
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は3.09で、「ふつう」の3より0.09高かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は24.0%、「ふつう」は45.2%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は15.6%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は69.2%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く3.34であり、不満を感じていない人の割合は77.3%であった。一方、「60歳以上」の満足度は3.01であり、不満を感じていない人の割合は66.3%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した469人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、112人(23.9%)から回答があった。

回答の一部

- 秋田県には素晴らしい食品等がたくさんある。販路をもっと拡大することが必要。(女性/60歳代/鹿角地域)
- 秋田の食品加工はせいぜい加工所・販売所どまりで、会社規模まで発展するのは聞いたことがない。(男性/50歳代/由利地域)
- 他県に自信をもって紹介できる加工品が思い浮かばない。(女性/30歳代/秋田地域)

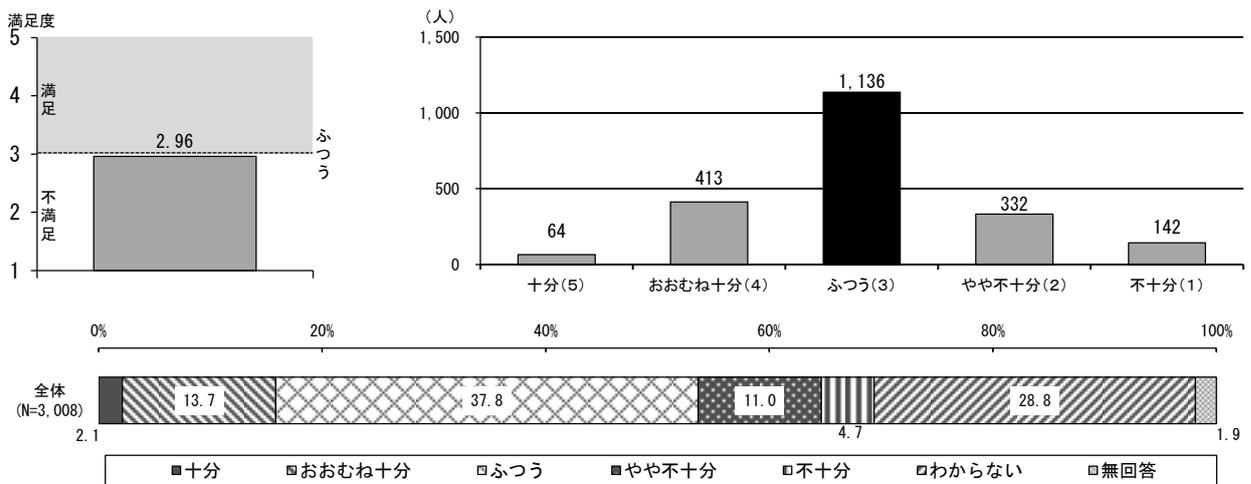
オ 「ウッドファーストあきた」による林業・木材産業の成長産業化

問 1-14 秋田スギ丸太の生産量が増大し、県産材の利用が進んでいる。

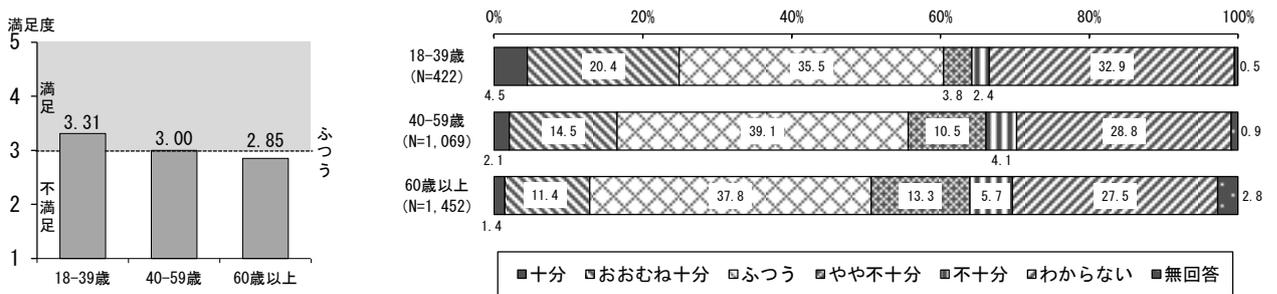
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.96で、「ふつう」の3より0.04低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は15.8%、「ふつう」は37.8%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は15.7%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は53.6%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く3.31であり、不満を感じていない人の割合は60.4%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.85であり、不満を感じていない人の割合は50.6%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した474人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、101人(21.3%)から回答があった。

回答の一部

- 生産にコストがかかるため、再造林が進まない。スギで儲かる対策をとって生産拡大する必要がある。(男性/60歳代/秋田地域)
- ウッドショックの今、もっと増産し、秋田の林業を活性化させるべきだと思います。労働環境を改善しなければ、なり手がいません。(男性/30歳代/秋田地域)
- 住宅建材としての杉の良さをもっと売り込む必要を感じる。「住宅には秋田杉を」といったキャンペーンなどを実施してはどうか。(男性/40歳代/北秋田地域)

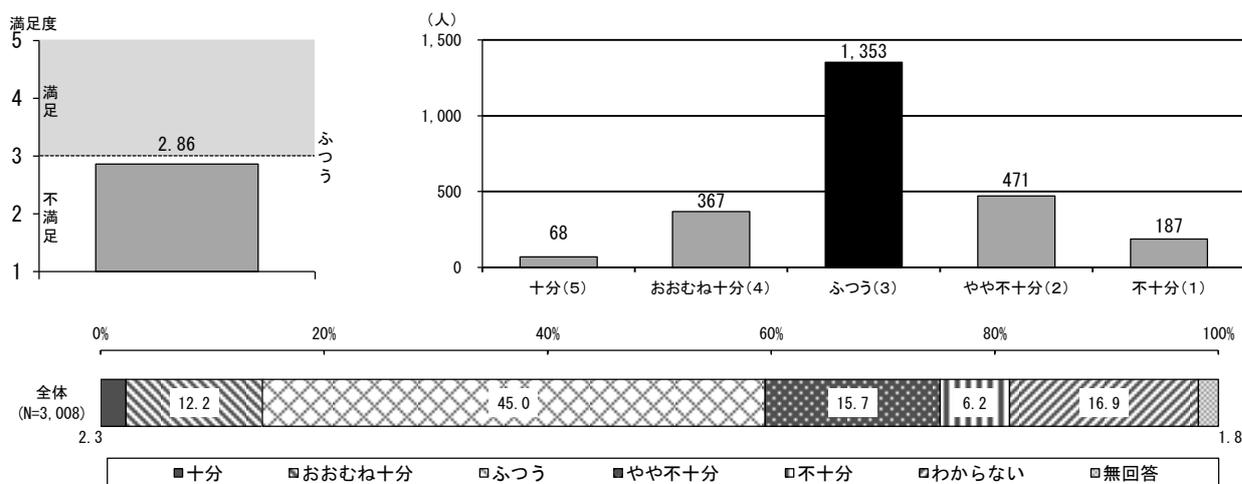
カ つくり育てる漁業と広域浜プランの推進による水産業の振興

問1-15 ハタハタ、マダイ、ヒラメ、サケなど、県内で獲れた多様な魚が流通・販売されている。

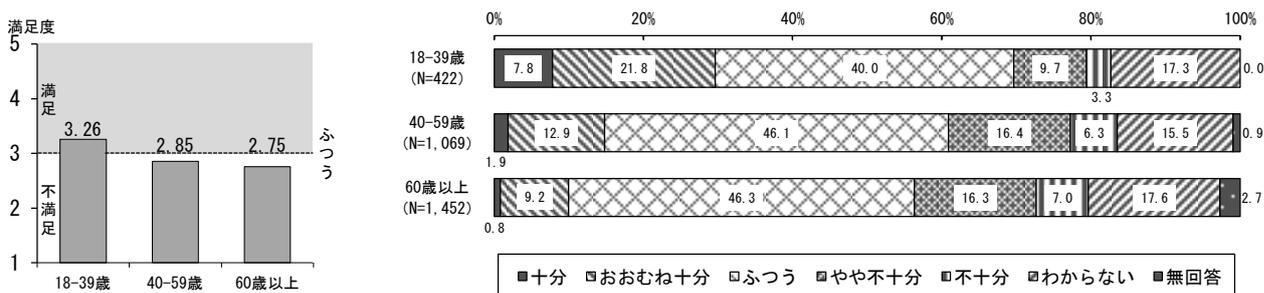
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.86で、「ふつう」の3より0.14低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は14.5%、「ふつう」は45.0%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は21.9%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は59.5%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く3.26であり、不満を感じていない人の割合は69.6%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.75であり、不満を感じていない人の割合は56.3%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した658人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、179人(27.2%)から回答があった。

回答の一部

- ハタハタの漁獲量の減少はもっと大きな問題として捉えるべきだと思う。思い切った方針が必要だと思う。(男性/20歳代/秋田地域)
- 通年で安定供給が出来る水産物が少ない。秋田県のブランド魚づくりに向けて養殖する技術が必要。今、他県の人に秋田の魚を聞いても何も思い浮かばないと思う。(男性/40歳代/平鹿地域)
- 内陸のせい、ハタハタ以外の県産の魚をあまり見かけることがない。野菜などはスーパーに地産地消コーナーがあるので、魚も秋田県産コーナーを設ければいいと思う。(女性/40歳代/雄勝地域)

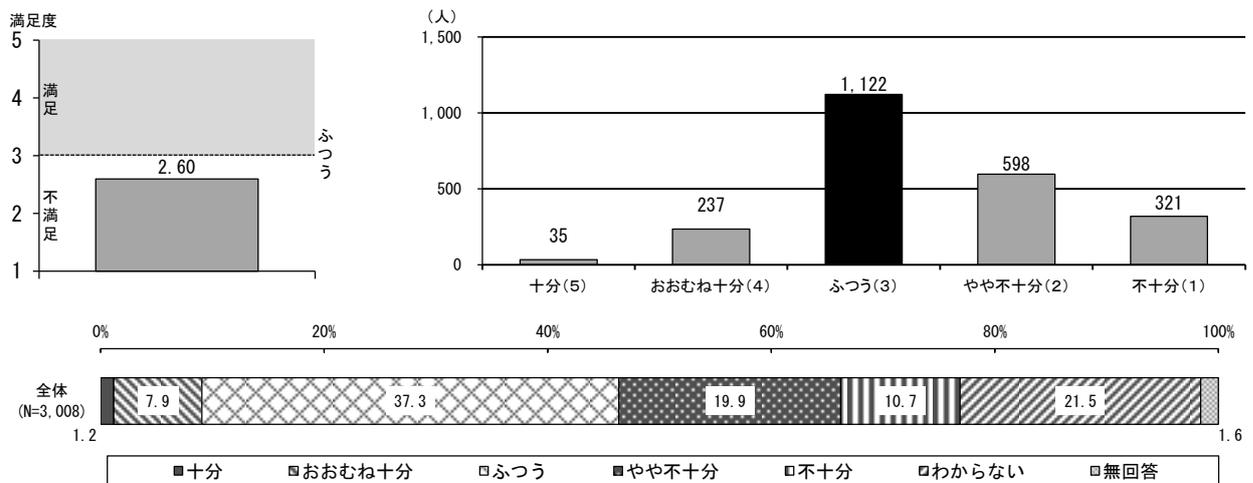
キ 地域資源を生かした活気ある農山漁村づくり

問 1-16 豊かな農山漁村で生き生きとした暮らしが営まれ、農地・森林を守る活動などが行われている。

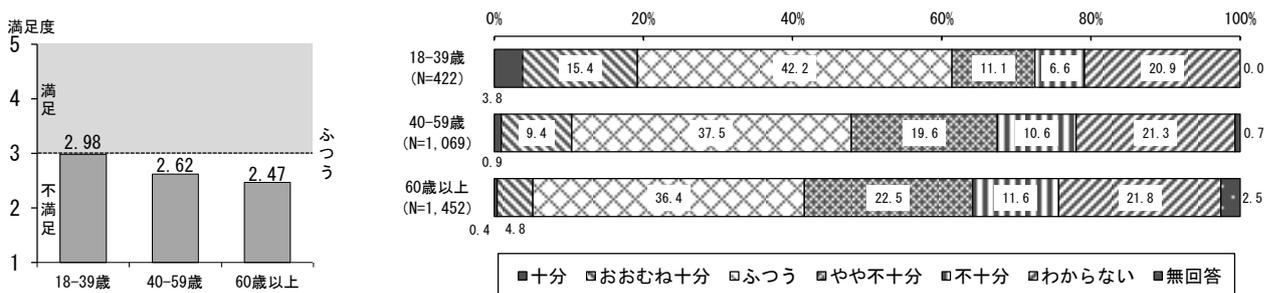
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.60で、「ふつう」の3より0.40低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は9.1%、「ふつう」は37.3%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は30.6%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は46.4%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く2.98であり、不満を感じていない人の割合は61.4%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.47であり、不満を感じていない人の割合は41.6%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した919人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、234人(25.5%)から回答があった。

回答の一部

- 耕作放棄地が目立ってきた。高齢化が進み、後継者も会社勤めのため、両立は難しいという話を聞く。(女性/60歳代/由利地域)
- 林業の縮小や猟師の高齢化、山間部の住人の減少によって、熊や鹿等の生息域が都市部に近づき、獣害等が増えている。(男性/30歳代/平鹿地域)
- 後継者不足。子どもが後継できないなら他の人を公募できるシステムが広がればよい。(女性/40歳代/雄勝地域)

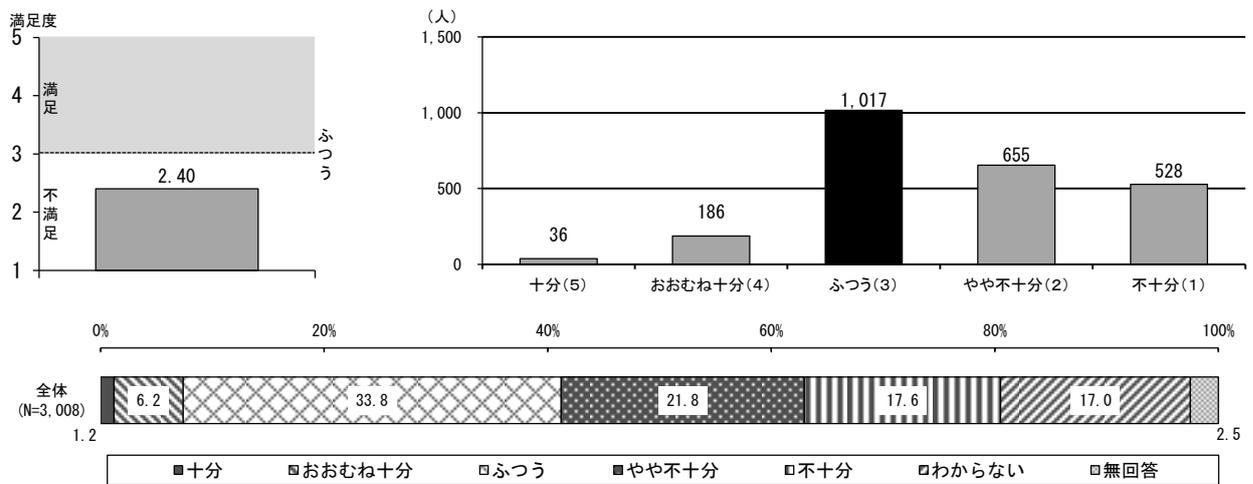
(4) 戦略4 秋田の魅力が際立つ人・もの交流拡大戦略について
 ア 地域の力を結集した「総合的な誘客力」の強化

問1-17 国内外から観光誘客が進んでいる。

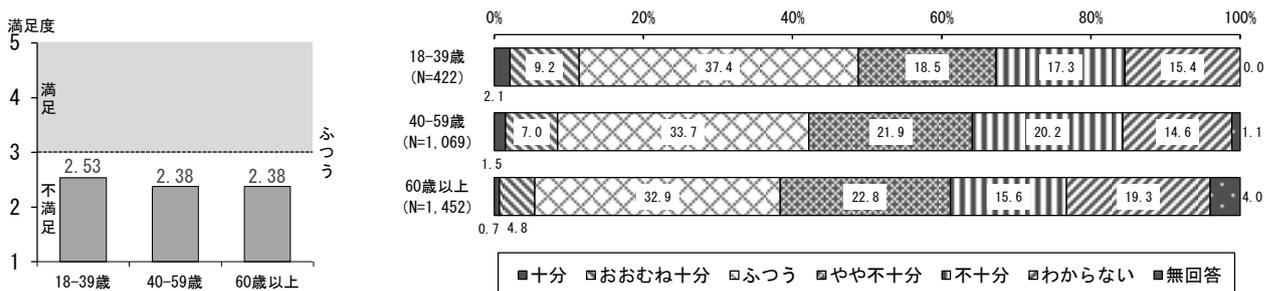
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.40で、「ふつう」の3より0.60低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は7.4%、「ふつう」は33.8%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は39.4%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は41.2%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く2.53であり、不満を感じていない人の割合は48.7%であった。一方、「40～59歳」及び「60歳以上」の満足度は2.38であり、不満を感じていない人の割合は、それぞれ42.2%、38.4%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,183人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、313人(26.5%)から回答があった。

回答の一部

- 自然や食べ物など、秋田の魅力的な部分はあるのに、観光地も廃れているし、欠品が多く新鮮さにも欠けるなど、がっかりする部分が多い。もっと魅力を伝えられる宣伝と、利用しやすい環境を整備すべき。(女性/40歳代/秋田地域)
- 一つの観光地だけで一回の旅行を満足できるような場所はないので、いくつかの場所が連携して取り組んでほしい。(男性/50歳代/雄勝地域)
- 観光客の多くがご年配の方なので、インフルエンサーやYouTuberなどの力を借りれば若者の観光客も増えると思います。(女性/20歳代/秋田地域)

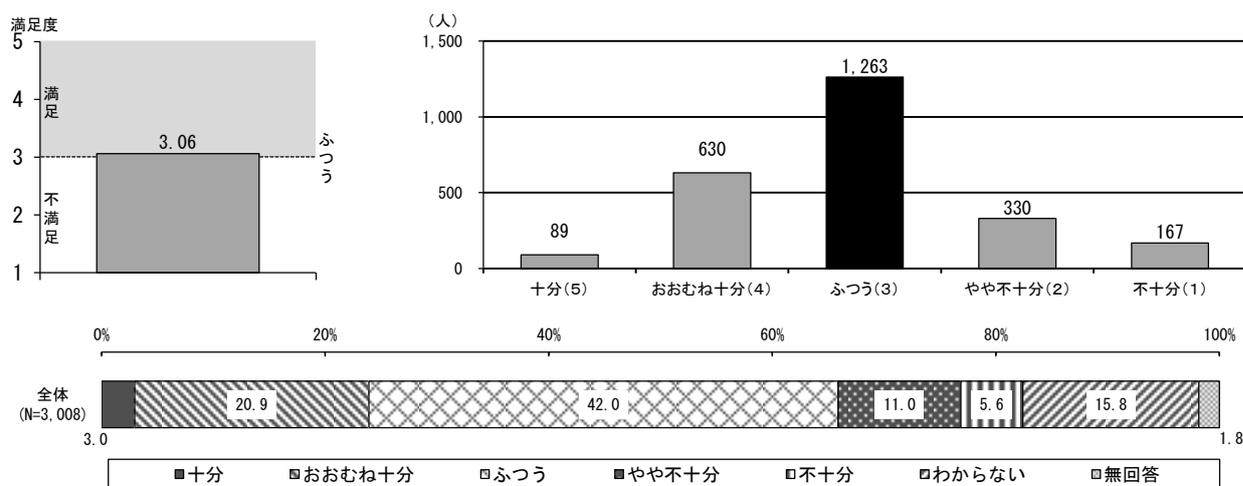
イ 「食」がリードする秋田の活性化と誘客の推進

問 1-18 日本酒や発酵食品など、秋田の食品が国内外の市場で盛んに流通している。

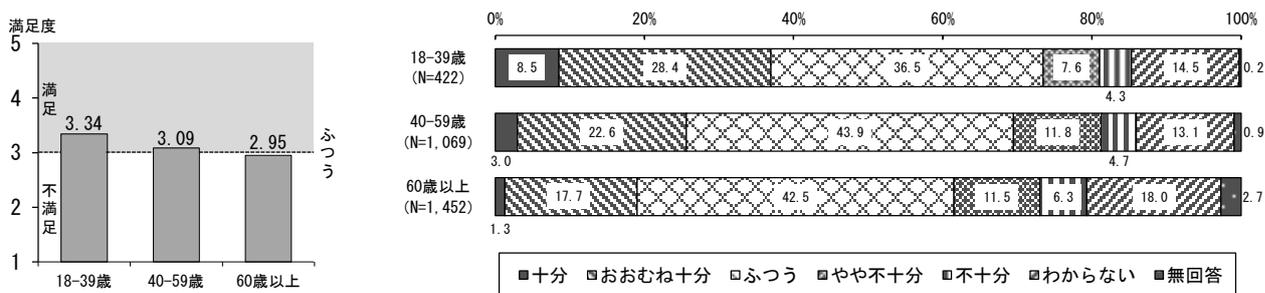
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は3.06で、「ふつう」の3より0.06高かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は23.9%、「ふつう」は42.0%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は16.6%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は65.9%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く3.34であり、不満を感じていない人の割合は73.4%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.95であり、不満を感じていない人の割合は61.5%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した497人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、103人(20.7%)から回答があった。

回答の一部

- 品質を上げていくと同時に、“ブランド”として大きく捉えてもらえるような宣伝の機会をたくさんつくることできると良いと思う。(女性/30歳代/北秋田地域)
- インターネットを活用し、もっと海外にPRするべき。(男性/50歳代/仙北地域)
- 日本酒はかなり力をつけてきましたが、発酵食品まで範囲を広げると他県の動きに押されている感じがするので、強みの日本酒を軸に製造・卸・小売・飲食が一体となった取組が必要だと思います。(男性/60歳代/秋田地域)

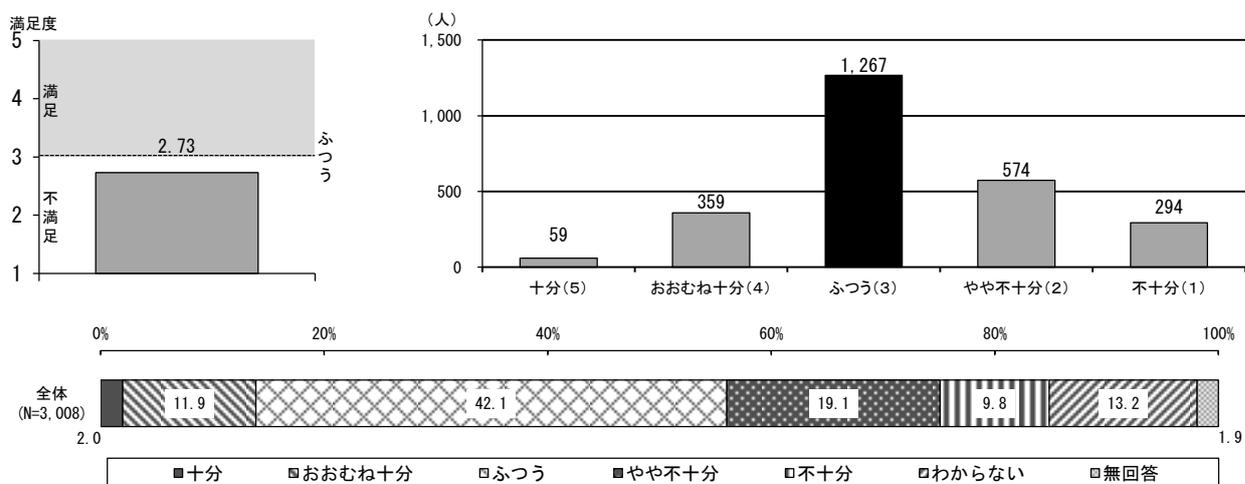
ウ 文化の発信力強化と文化による地域の元気創出

問 1-19 国内外に秋田ならではの文化の魅力が伝えられている。

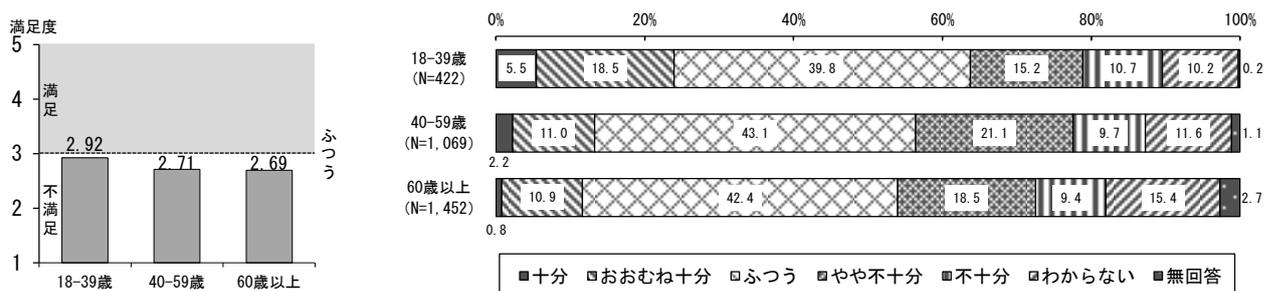
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.73で、「ふつう」の3より0.27低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は13.9%、「ふつう」は42.1%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は28.9%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は56.0%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く2.92であり、不満を感じていない人の割合は63.8%であった。一方、「60歳以上」の満足度は2.69であり、不満を感じていない人の割合は54.1%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した868人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、154人(17.7%)から回答があった。

回答の一部

- もっとSNSを利用して若い世代にアピールしたらいい。(女性/40歳代/平鹿地域)
- 後継者を育て、新しい風を入れてください。今のままではマンネリです。(女性/50歳代/秋田地域)
- 秋田県民が秋田の自然、文化を知らなすぎ。自信を持ってアピールできていない。(女性/60歳代/秋田地域)

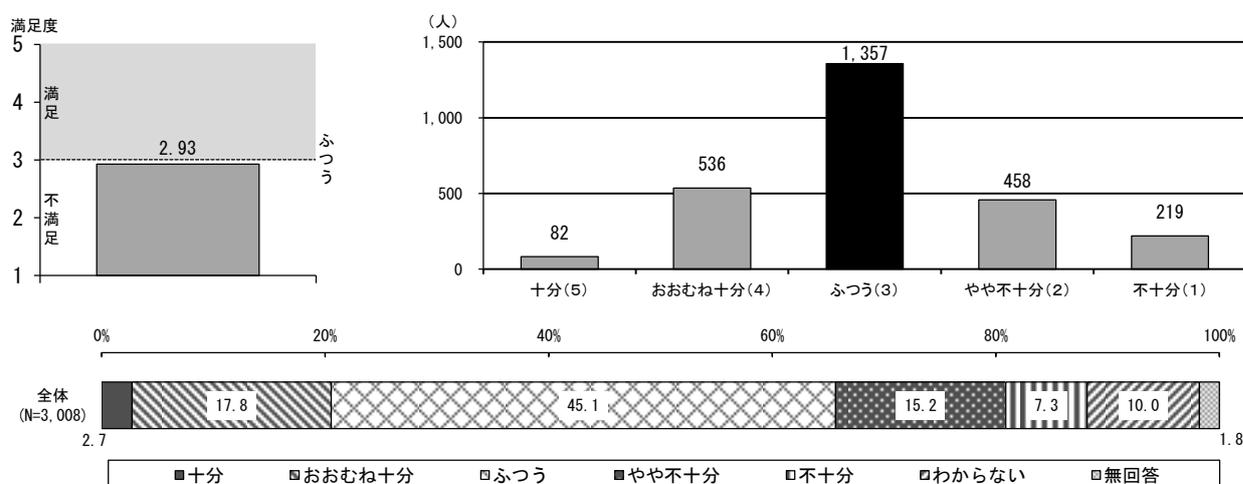
エ 「スポーツ立県あきた」の推進とスポーツによる交流人口の拡大

問 1-20 スポーツに関連する様々な活動が盛んに行われ、地域に活気がもたらされている。

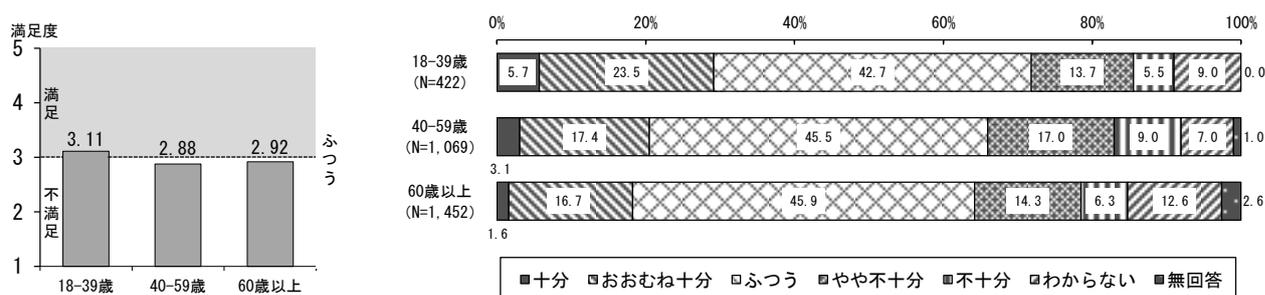
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.93で、「ふつう」の3より0.07低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は20.5%、「ふつう」は45.1%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は22.5%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は65.6%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く3.11であり、不満を感じていない人の割合は71.9%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.88であり、不満を感じていない人の割合は66.0%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した677人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、154人(22.7%)から回答があった。

回答の一部

- 幼児から大学までのアスリートを育てる環境の整備が遅れている。秋田には指導者がたくさんいるが活用できていない。(男性/60歳代/仙北地域)
- 個人のスポーツは習慣であり子どもの頃から親しむことが大切。そのためには様々なスポーツクラブを充実させて、子どもの頃から親しむのがよい。(男性/70歳以上/秋田地域)
- サッカーやバスケットなど、特定のスポーツだけでなく、その他様々なスポーツに触れることができるイベントが行われたらよいと思う。(女性/40歳代/秋田地域)

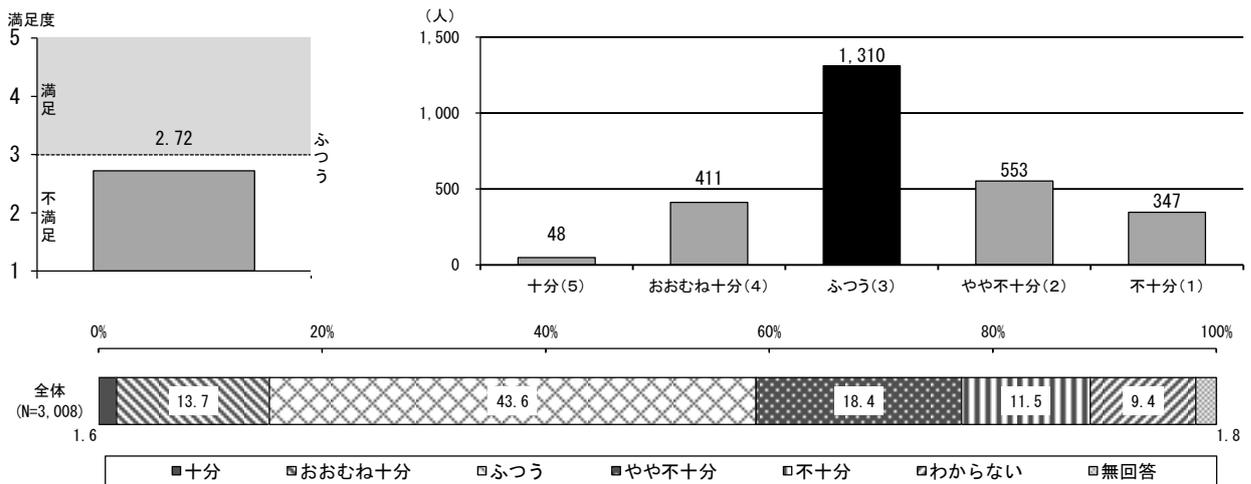
オ 県土の骨格を形成する道路ネットワークの整備

問 1-21 地域間の交流や生活を支える県内の道路ネットワークが整備されている。

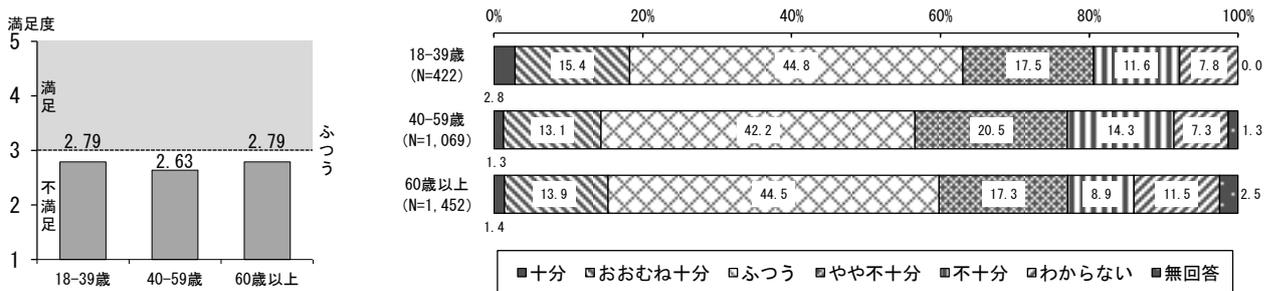
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.72で、「ふつう」の3より0.28低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は15.3%、「ふつう」は43.6%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は29.9%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は58.9%であった。



年代別では、「18～39歳」及び「60歳以上」の満足度が高く2.79であり、不満を感じていない人の割合は、それぞれ63.0%、59.8%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.63であり、不満を感じていない人の割合は56.6%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した900人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、196人(21.8%)から回答があった。

回答の一部

- 既にある道路（高速道路を含む）の維持管理が、他県に比べてあまりにも悪すぎる（凸凹等）。（男性／60歳代／由利地域）
- 秋田県の地理的な環境や車社会であることを考えると、道路交通網はもっと迅速に整備してほしいと思います。（男性／40歳代／秋田地域）
- 高速道路はかなり供用されてきたが、県内間を繋ぐ主要な生活道路の整備や改修に力を入れてほしい（冬季安全対策、バイパス化等）。（男性／40歳代／秋田地域）

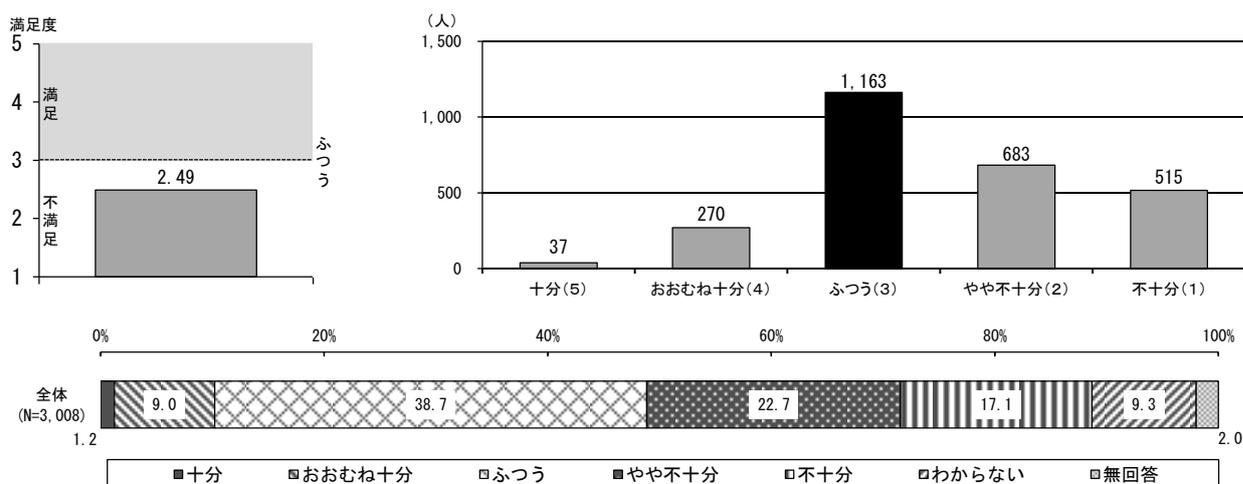
カ 交流の持続的拡大を支える交通ネットワークの構築

問 1-22 鉄道や航空、地域交通など利便性の高い交通ネットワークが整備されている。

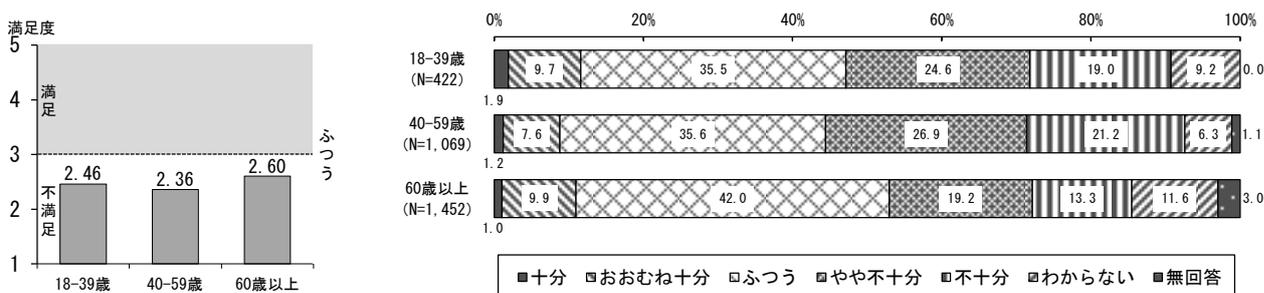
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.49で、「ふつう」の3より0.51低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は10.2%、「ふつう」は38.7%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は39.8%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は48.9%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度が最も高く2.60であり、不満を感じていない人の割合は52.9%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.36であり、不満を感じていない人の割合は44.4%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,198人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、288人(24.0%)から回答があった。

回答の一部

- 県内市町村間の公共交通機関の利便性が悪く、自家用車を利用した移動を行わざるを得ない。(男性/50歳代/由利地域)
- 本数の少なさと便の偏りが気になる。東京以外の都市とのアクセスも良くないと思う。(女性/30歳代/山本地域)
- 秋田新幹線で秋田-盛岡間の時間がかかることなど、利便性が高いとは言い切れないと思う。(男性/40歳代/秋田地域)

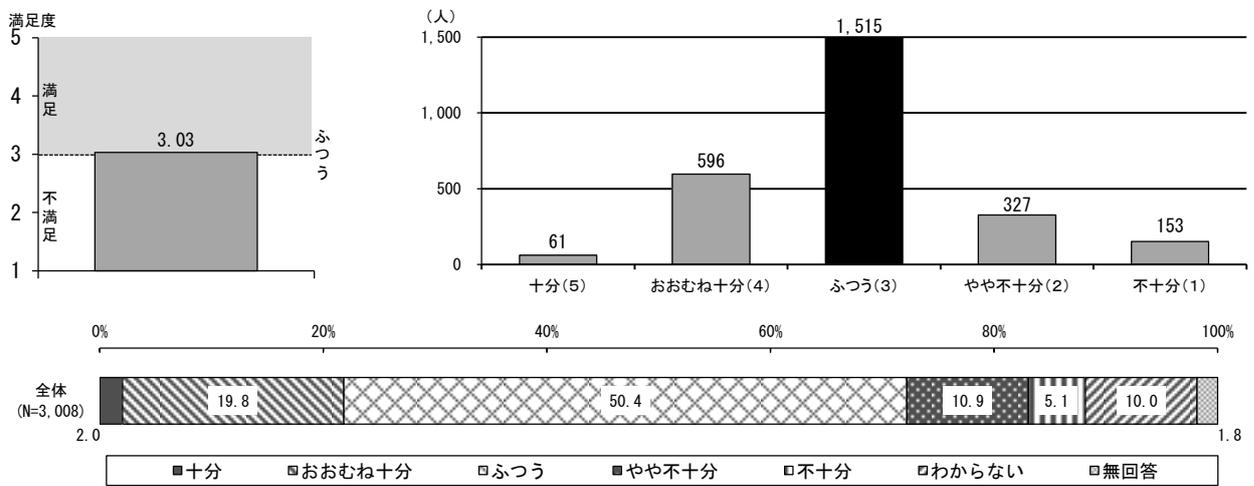
(5) 戦略5 誰もが元気で活躍できる健康長寿・地域共生社会戦略について
 ア 健康寿命日本一への挑戦

問 1-23 食事やたばこなど、これまでの生活習慣を見直し、健康づくりに取り組む県民の意識が高まってきている。

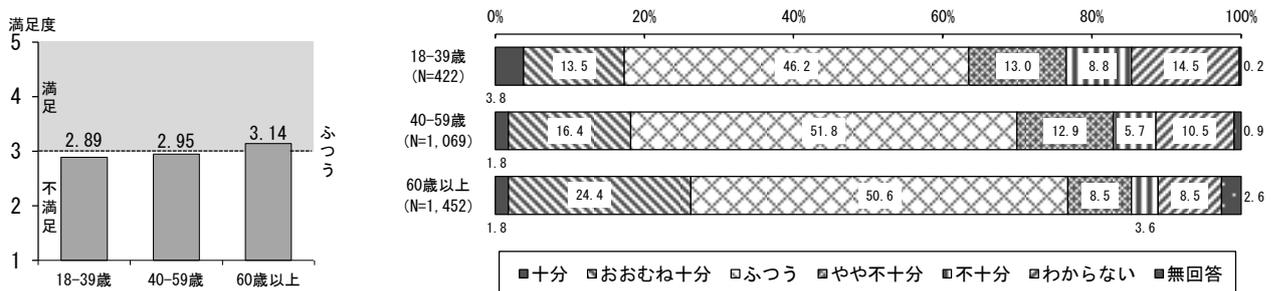
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は3.03で、「ふつう」の3より0.03高かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は21.8%、「ふつう」は50.4%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は16.0%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は72.2%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度が最も高く3.14であり、不満を感じていない人の割合は76.8%であった。一方、「18～39歳」の満足度は2.89であり、不満を感じていない人の割合は63.5%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した480人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、99人(20.6%)から回答があった。

回答の一部

- 減塩については周囲をみても積極的に取り組む人もなく、たばこの健康被害ほどの認知度が低いように思います。県の特産品も塩っぱいものが多い。たばここと違い、人に迷惑をかけるものでもないので、個々の意識に訴え続けるしかないと思います。(男性/50歳代/秋田地域)
- 飲食店の殆どが禁煙でありがたいが、出入口に喫煙場所を設けられると出入りする度に不快な思いをする。受動喫煙とならないよう配慮することに県として取り組んでほしい。(女性/40歳代/山本地域)
- CMはよく見るが、もっと様々な取組がないとなかなか意識は変わらないと思う。(男性/30歳代/秋田地域)

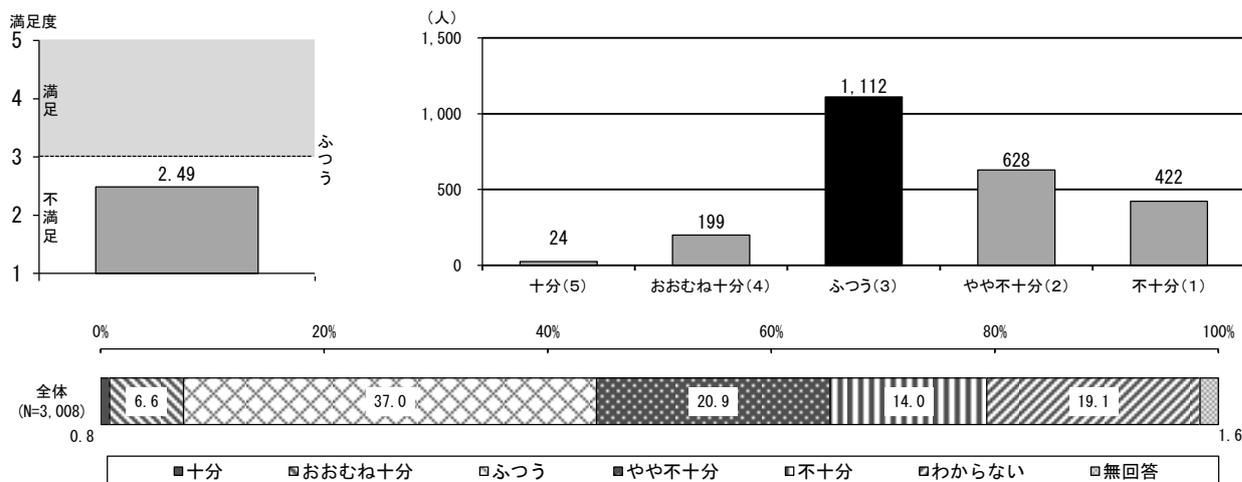
イ 心の健康づくりと自殺予防対策

問 1-24 誰も自殺に追い込まれることのないよう、悩みを抱えた方が相談しやすい環境が整っている。

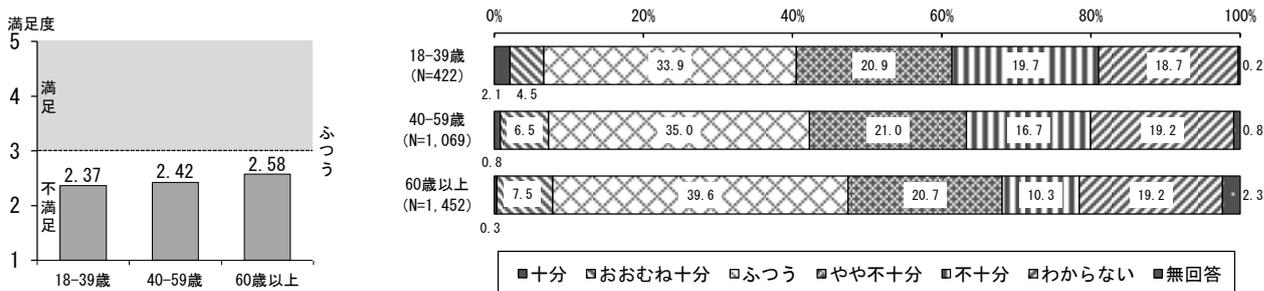
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.49で、「ふつう」の3より0.51低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は7.4%、「ふつう」は37.0%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は34.9%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は44.4%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度が最も高く2.58であり、不満を感じていない人の割合は47.4%であった。一方、「18～39歳」の満足度は2.37であり、不満を感じていない人の割合は40.5%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,050人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、232人(22.1%)から回答があった。

回答の一部

- 悩み相談コールセンターなど特定の場所の環境は整っているように思いますが、本当に必要なのはやはり当事者のいる学校、職場内の環境整備や相談対応の仕方だと思うので、そこを見直していくべきだと思います。(女性/20歳代/平鹿地域)
- 周りに感じさせることなく自分の中に抱え込んでしまう前に「苦しい」と口に出して言える環境と、専門的なカウンセリングにつなげられる仕組みが必要です。(女性/40歳代/山本地域)
- 相談する機関はあると思いますが、その手前で周りの人たちが気付くことが重要なので、相談に行く手前の環境づくりのための教育、周知が必要だと思います。(男性/50歳代/仙北地域)

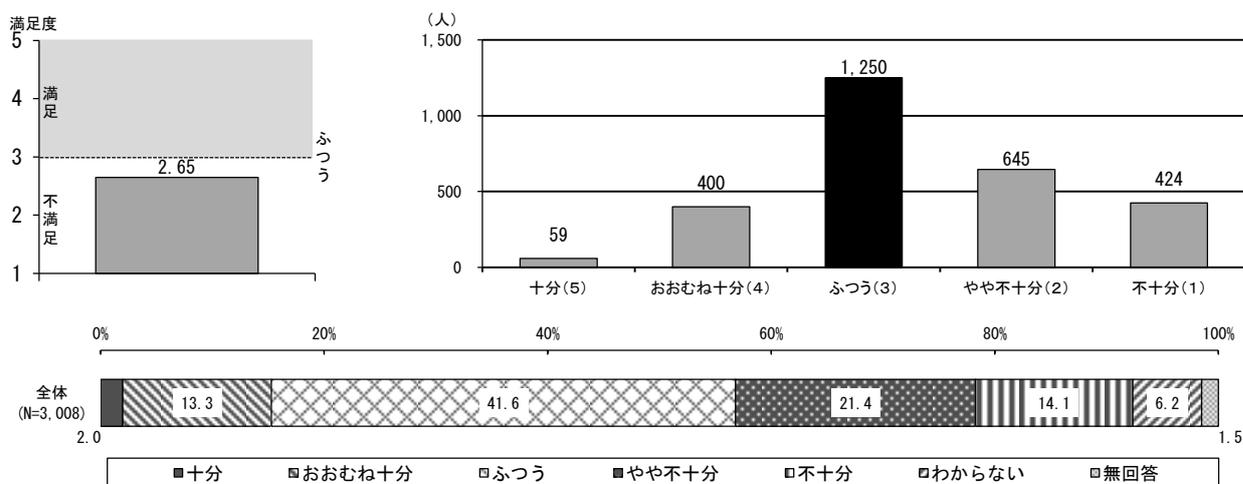
ウ 医療ニーズに対応した医療提供体制の整備

問 1-25 どこに住んでいても、安心して医療を受けられる体制が整っている。

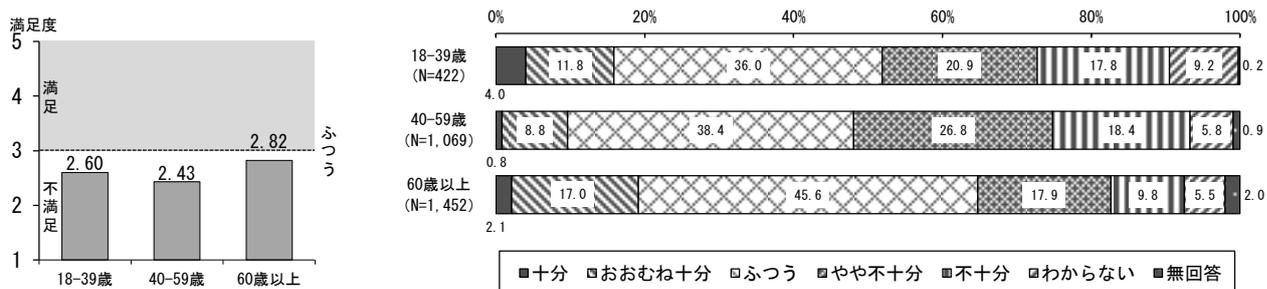
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.65で、「ふつう」の3より0.35低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は15.3%、「ふつう」は41.6%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は35.5%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は56.9%であった。



年代別では、「60歳以上」の満足度が最も高く2.82であり、不満を感じていない人の割合は64.7%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.43であり、不満を感じていない人の割合は48.0%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した1,069人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、281人(26.3%)から回答があった。

回答の一部

- 全国的な傾向だが、医療施設・医療従事者は都市部では充足している反面、郡部では不足している。県内でも地域によってはお産が出来ない状態であるなど病院・医師不足は深刻だと思う。医師会等と連携し、特に郡部の医療体制強化に取り組む必要があると思う。(男性/40歳代/秋田地域)
- 診療科目、専門医の不在など、地域間の医療格差がやはりあります。(女性/40歳代/山本地域)
- 開業医を増やすための政策が必要。開業医は減少し、高齢化している。開業医が少ないため、本来入院診療を中心に担うはずの病院で外来を受けざるを得ないため、入院に手が回らず悪循環である。(男性/30歳代/北秋田地域)

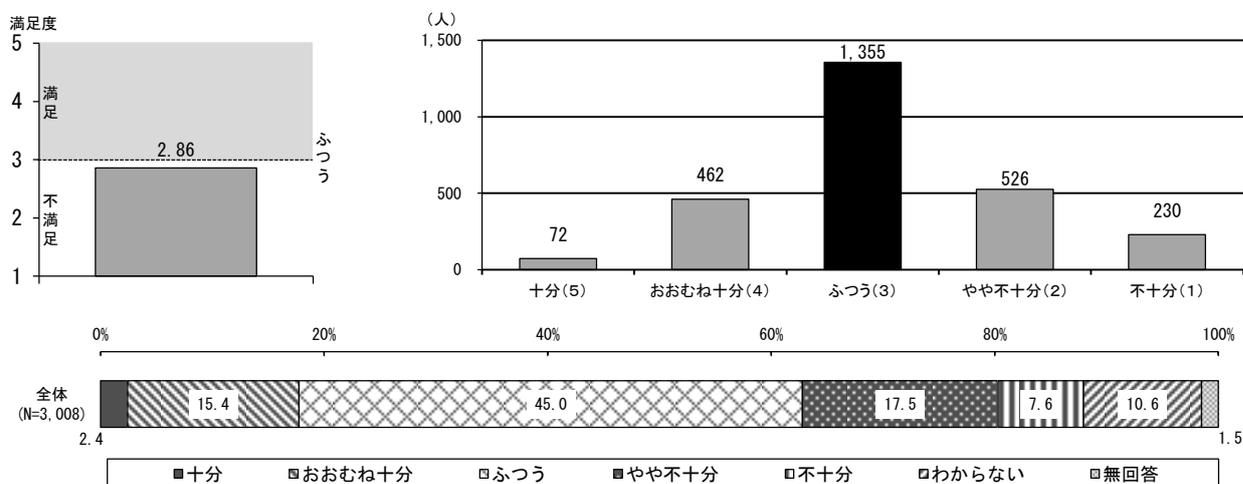
エ 高齢者や障害者等が安全・安心に暮らせる福祉の充実

問 1-26 高齢者や障害がある方などが、住み慣れた地域でニーズに合った介護・福祉サービスを受けることができる。

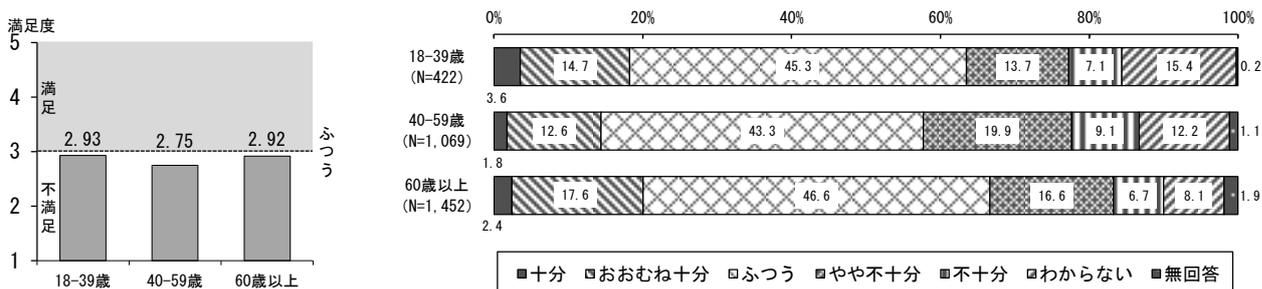
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.86で、「ふつう」の3より0.14低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は17.8%、「ふつう」は45.0%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は25.1%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は62.8%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く2.93であり、不満を感じていない人の割合は63.6%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.75であり、不満を感じていない人の割合は57.7%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した756人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、160人(21.2%)から回答があった。

回答の一部

- 障害のある子どもが小さい頃から支援を受けやすくなるようにもっと取り組んでほしい。(女性/30歳代/北秋田地域)
- 介護職員の人数が不足していると思う。待遇の改善や育成を県が主体となって強く実行すべき。(女性/60歳代/秋田地域)
- 介護福祉サービスがどこも混んでいて、住み慣れた地域をやむを得ず離れて、空いている他の地域のサービスを利用する人が多くなってきている。(女性/20歳代/北秋田地域)

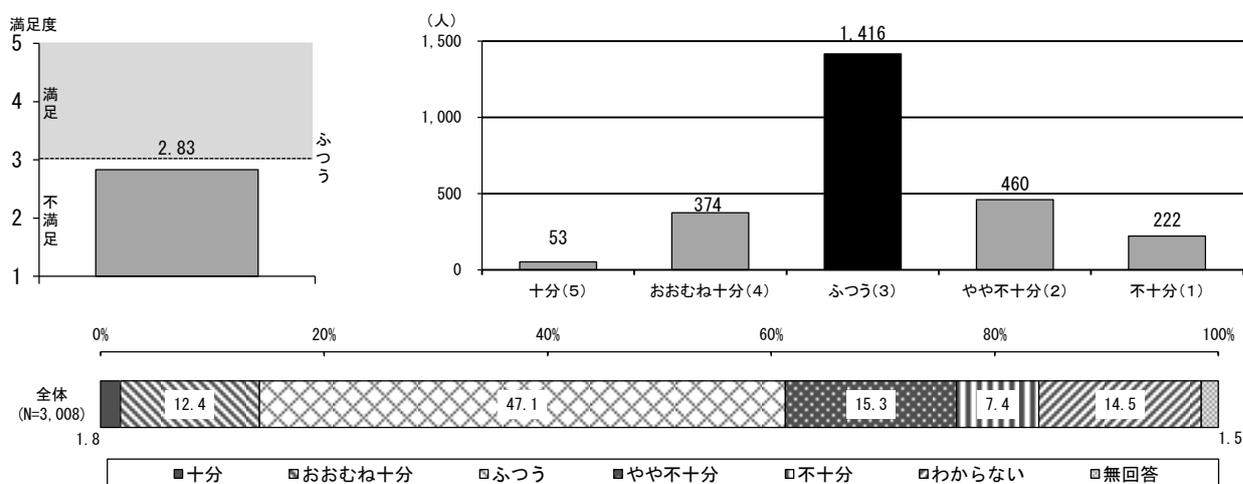
オ 次代を担う子どもの育成

問 1-27 全ての子どもが生まれ育った環境にかかわらず、健やかに育まれる支援体制が整っている。

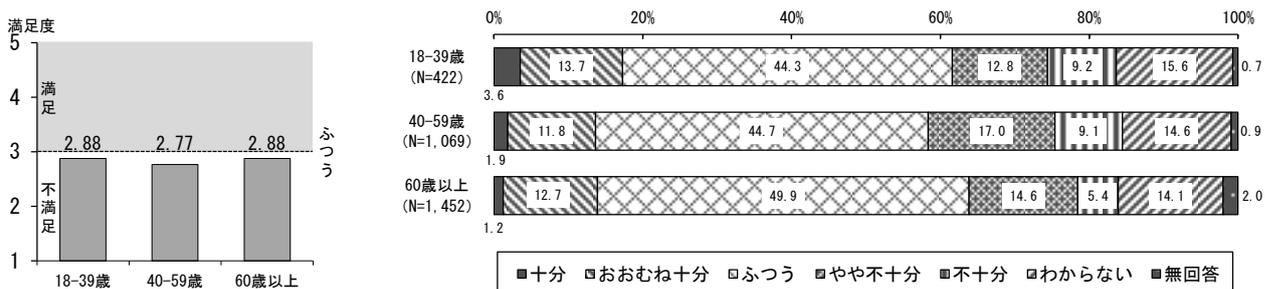
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.83で、「ふつう」の3より0.17低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は14.2%、「ふつう」は47.1%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は22.7%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は61.3%であった。



年代別では、「18～39歳」及び「60歳以上」の満足度が高く2.88であり、不満を感じていない人の割合は、それぞれ61.6%、63.8%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.77であり、不満を感じていない人の割合は58.4%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した682人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、130人(19.1%)から回答があった。

回答の一部

- 所得の低い家庭の多くは、子どもを産んで安心して育てられる環境にない。(男性/40歳代/平鹿地域)
- 登下校に1時間かかる地域の子と5分の子が同じ生活水準で学習などできるわけがない。リモートを有効活用すべき。(女性/20歳代/由利地域)
- 児童虐待の認知について、児童相談所の職員では限界があるので警察との連携の強化や職員の権限強化をすべき。(男性/70歳以上/秋田地域)

(6) 戦略6 ふるさとの未来を拓く人づくり戦略について

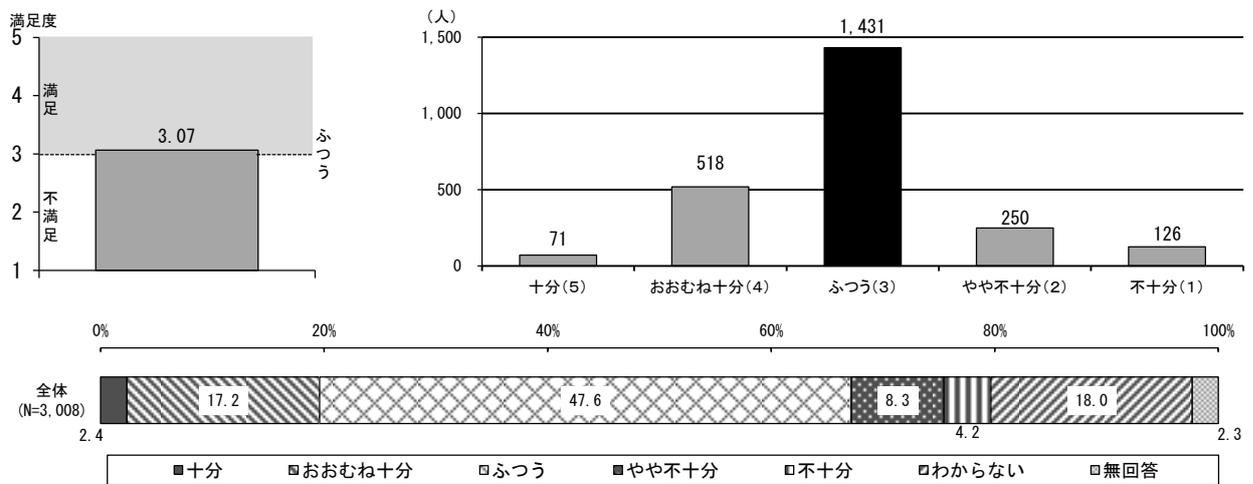
ア 自らの未来を主体的に切り拓き、秋田を支える気概に満ちた人材の育成

問1-28 学校教育を通じて、ふるさと秋田を愛し支える心が育まれている。

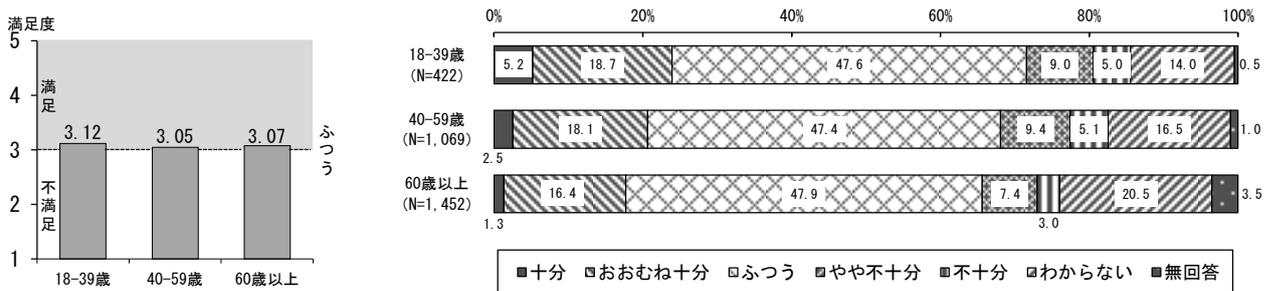
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は3.07で、「ふつう」の3より0.07高かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は19.6%、「ふつう」は47.6%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は12.5%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は67.2%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く3.12であり、不満を感じていない人の割合は71.5%であった。一方、「40～59歳」の満足度は3.05であり、不満を感じていない人の割合は68.0%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した376人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、75人(19.9%)から回答があった。

回答の一部

- 秋田がどのような歴史を歩んできたのか、どのような文化、特産物を持っているのか、そして他県と比べてどこが優れているのかを学ぶ必要があると思う。(男性/20歳代/平鹿地域)
- ふるさと教育は素晴らしいと思うが、大学に進学してもなかなか秋田に帰ってこない子が多い。(男性/40歳代/山本地域)
- 秋田を好きな子どもに育てれば人口流出を抑えられているのではないのでしょうか。秋田の何が良い？と子どもに聞いても大多数が「自然」と回答するようではダメだと思います。(男性/40歳代/由利地域)

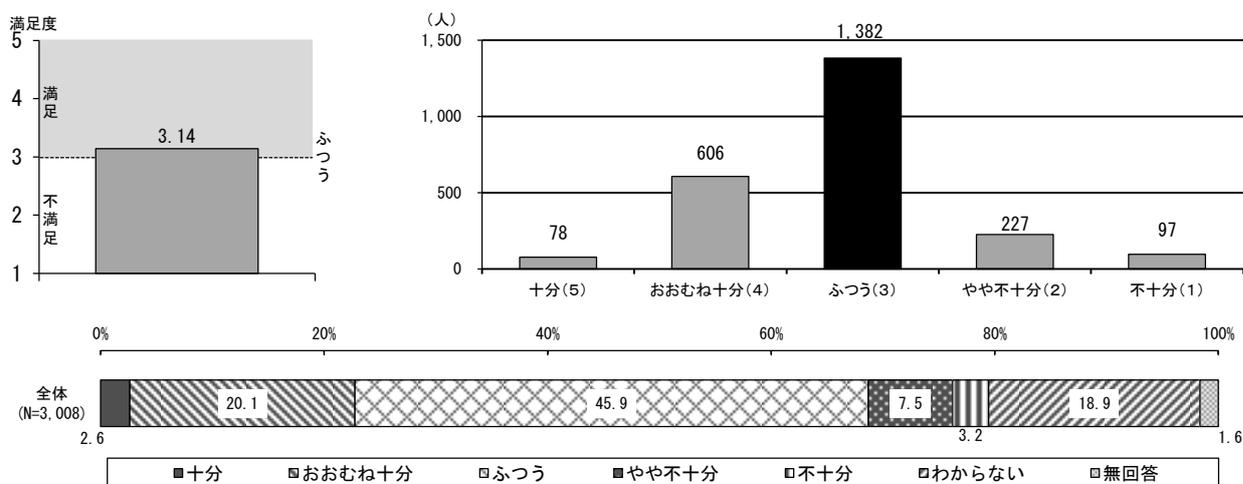
イ 子ども一人一人に応じた教育の充実と確かな学力の定着

問 1-29 学校教育を通じて、意欲的に学ぼうとする態度や、自ら考え、判断し、表現する力が育まれている。

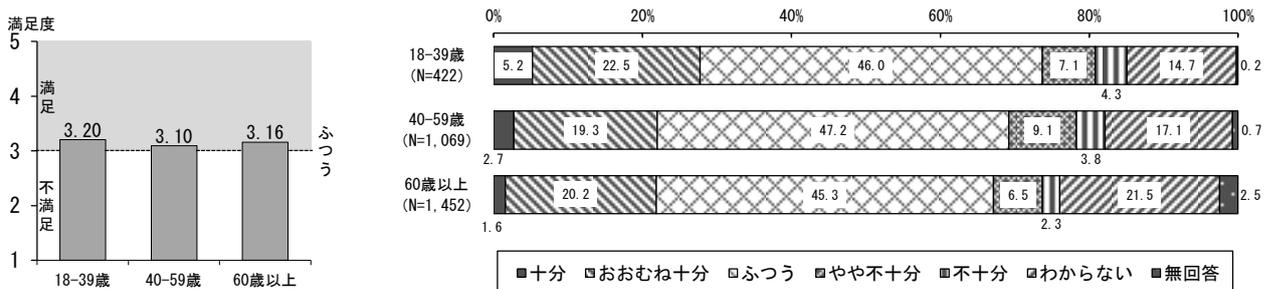
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は3.14で、「ふつう」の3より0.14高かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は22.7%、「ふつう」は45.9%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は10.7%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は68.6%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く3.20であり、不満を感じていない人の割合は73.7%であった。一方、「40～59歳」の満足度は3.10であり、不満を感じていない人の割合は69.2%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した324人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、66人(20.4%)から回答があった。

回答の一部

- 基礎知識をしっかり身につけてこそその意欲であり、自らの考えや判断だと思う。学校は分からないから学びに行く場なのです。「わかりません。」と言えない子どもにも目を向けてほしい。(女性/70歳以上/北秋田地域)
- 周囲の大人が望む答えを察して表現するのではなく、自分で考え自分の言葉で表現できるよう、その子のストックを増やしてあげることが教育だと思います。(女性/40歳代/山本地域)
- 県民性なのか教育のせいなのか分からないが、意欲的に学ぼうとする態度や自己表現力が足りないように思う。(男性/50歳代/仙北地域)

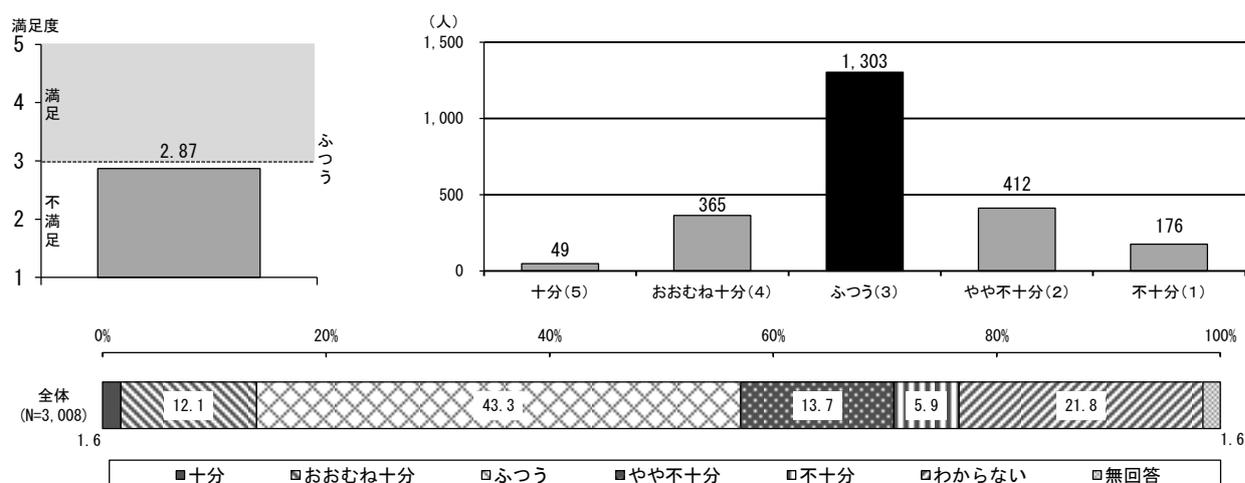
ウ 世界で活躍できるグローバル人材の育成

問 1-30 学校教育を通じて、外国文化を理解しようとする態度や、英語でコミュニケーションをとる能力が育まれている。

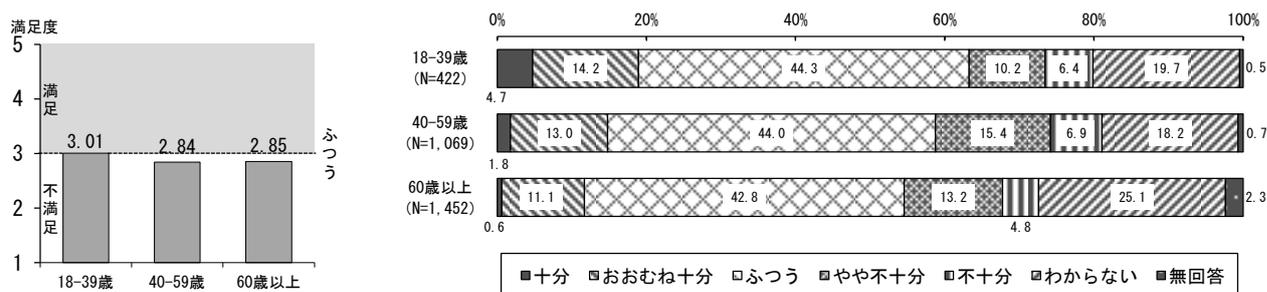
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.87で、「ふつう」の3より0.13低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は13.7%、「ふつう」は43.3%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は19.6%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は57.0%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く3.01であり、不満を感じていない人の割合は63.2%であった。一方、「40歳～59歳」の満足度は2.84であり、不満を感じていない人の割合は58.8%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した588人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、86人(14.6%)から回答があった。

回答の一部

- キャンプなどがあるようだが、場所が遠く利用しづらい。授業でできたらよいのではと思う。(女性/40歳代/北秋田地域)
- 日本語を理解し、表現・議論することで、はじめて英語でもコミュニケーションをとることができると思うので、国語教育にも力を入れてほしい。(男性/60歳代/由利地域)
- 英語だけでなく多言語を自由に学べる環境が必要と考えます。(女性/20歳代/由利地域)

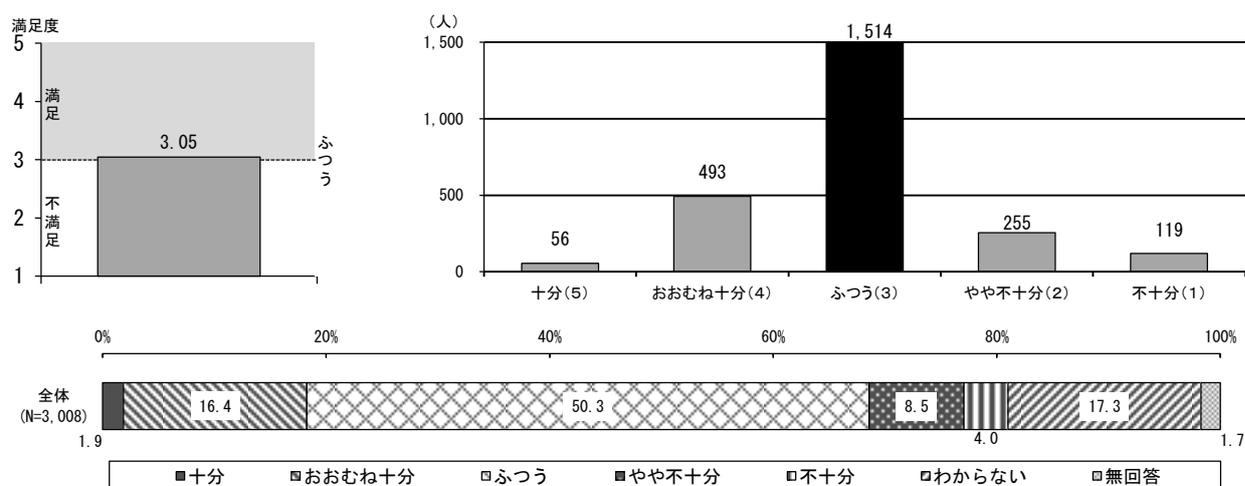
エ 豊かな人間性と健やかな体の育成

問 1-31 学校教育を通じて、他人への思いやりなどの豊かな人間性と健やかな体が育まれている。

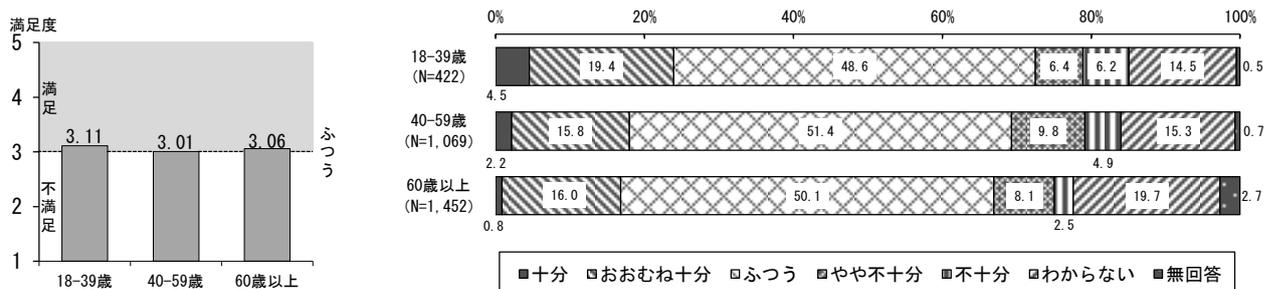
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は3.05で、「ふつう」の3より0.05高かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は18.3%、「ふつう」は50.3%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は12.5%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は68.6%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く3.11であり、不満を感じていない人の割合は72.5%であった。一方、「40～59歳」の満足度は3.01であり、不満を感じていない人の割合は69.4%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した374人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、80人(21.4%)から回答があった。

回答の一部

- 他人への思いやり、豊かな人間性、健やかな体を育むことは家庭、地域、友人など日常の全てに関わることであり、学校教育はその一部を担っているにすぎません。(男性/60歳代/由利地域)
- 体育の授業が運動を素直に楽しめるようなカリキュラムではなかったと感じる。また、自分の学校ではカウンセラーが常駐していたが、あまり利用されていないようだった。気軽に利用できる仕組みや意識づくりができれば素晴らしい。(男性/30歳代/秋田地域)
- 身体は大きくなっているかもしれないが、体力や筋力、運動能力は見えて残念なことが多い。他者への気配りや協調性を持った子もいるが、そうでない子も多にいる。それを身をもって学ぶ機会が昔より少ない。(男性/40歳代/鹿角地域)

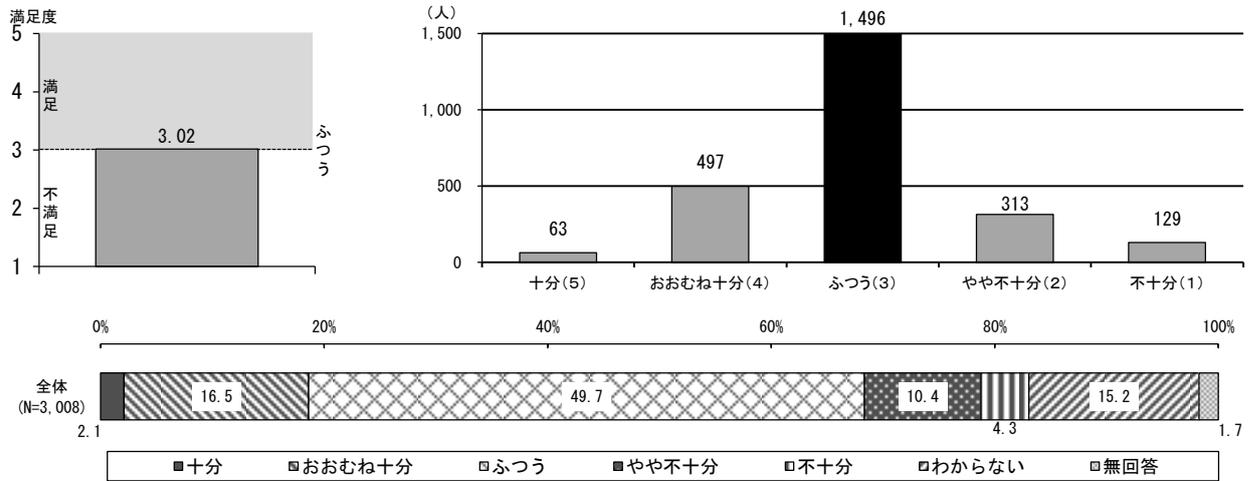
オ 子どもの成長を支える魅力的で良質な学びの場づくり

問 1-32 学校・家庭・地域が連携し、社会全体で子どもたちの成長を支えていく体制が整備されている。

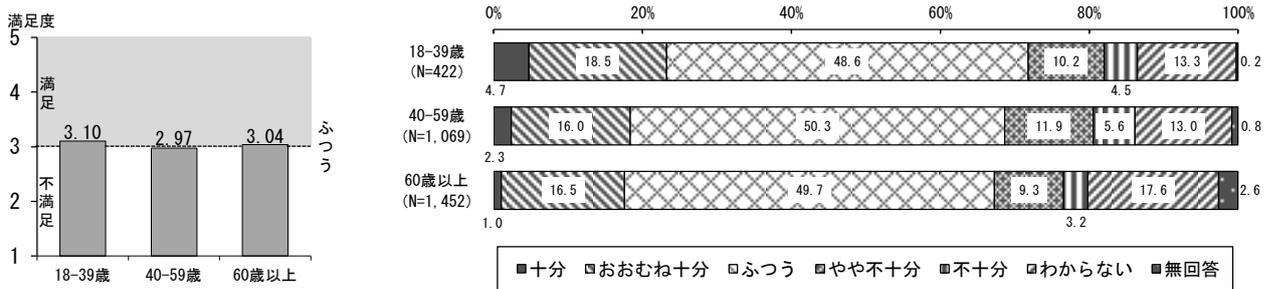
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は3.02で、「ふつう」の3より0.02高かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は18.6%、「ふつう」は49.7%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は14.7%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は68.3%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く3.10であり、不満を感じていない人の割合は71.8%であった。一方、「40歳～59歳」の満足度は2.97であり、不満を感じていない人の割合は68.6%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した442人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、84人(19.0%)から回答があった。

回答の一部

- 地域とのかかわりが以前より少なくなっていると思う。(女性/50歳代/由利地域)
- 学校と家庭は結びつきが強いように思われるが、学校と地域のつながりが弱いように思う。地域住民全体が子ども達と関わることができる機会があると良いと思う。(女性/30歳代/北秋田地域)
- 最近子どもに挨拶をしても不審者扱いされかねないので、どこまで他人の子どもに関わっていいのかわかりません。その意味で、子どもを守る体制が崩壊しつつあるのではないのでしょうか。(男性/50歳代/仙北地域)

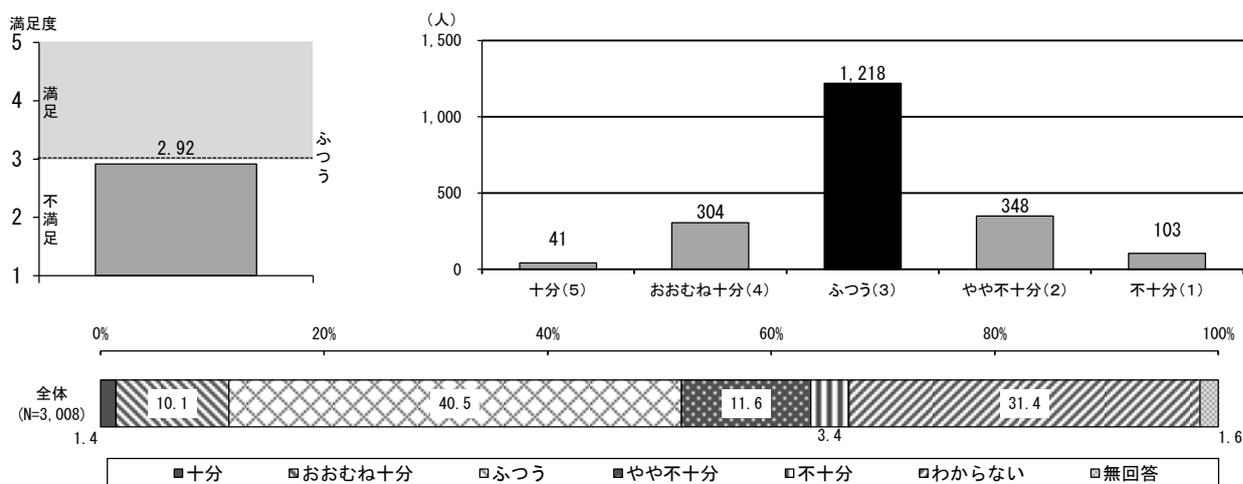
カ 地域社会と産業の活性化に資する高等教育機関の振興

問 1-33 県内の大学等で、地域の活性化につながる教育・研究・社会貢献活動が行われている。

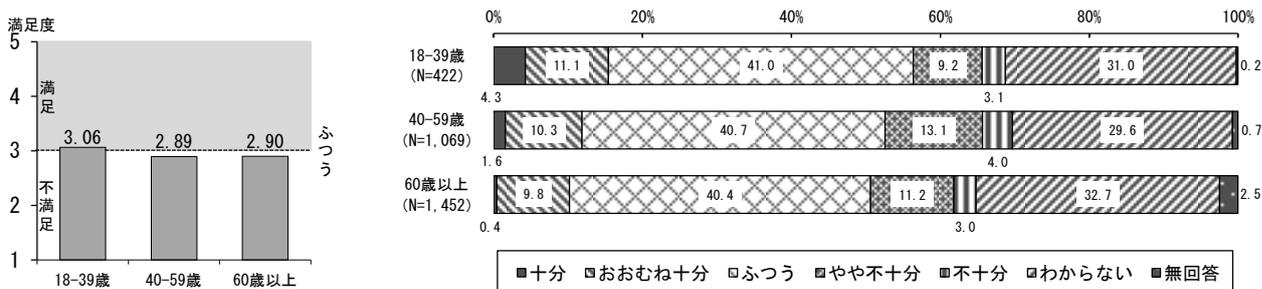
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.92で、「ふつう」の3より0.08低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は11.5%、「ふつう」は40.5%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は15.0%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は52.0%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く3.06であり、不満を感じていない人の割合は56.4%であった。一方、「40歳～59歳」の満足度は2.89であり、不満を感じていない人の割合は52.6%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した451人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、71人(15.7%)から回答があった。

回答の一部

- 以前よりもいろいろな活動が行われるようになってきたと思いますが、そもそも大学の数が多くないために、若者の県外流出が起こってしまうことが残念です。(男性/40歳代/秋田地域)
- 具体的にどのような研究や社会貢献活動が行われているのか分からない。(男性/40歳代/山本地域)
- 県内の大学等はほとんどが秋田市にあるため、地域活性化という意味では不十分。(男性/50歳代/仙北地域)

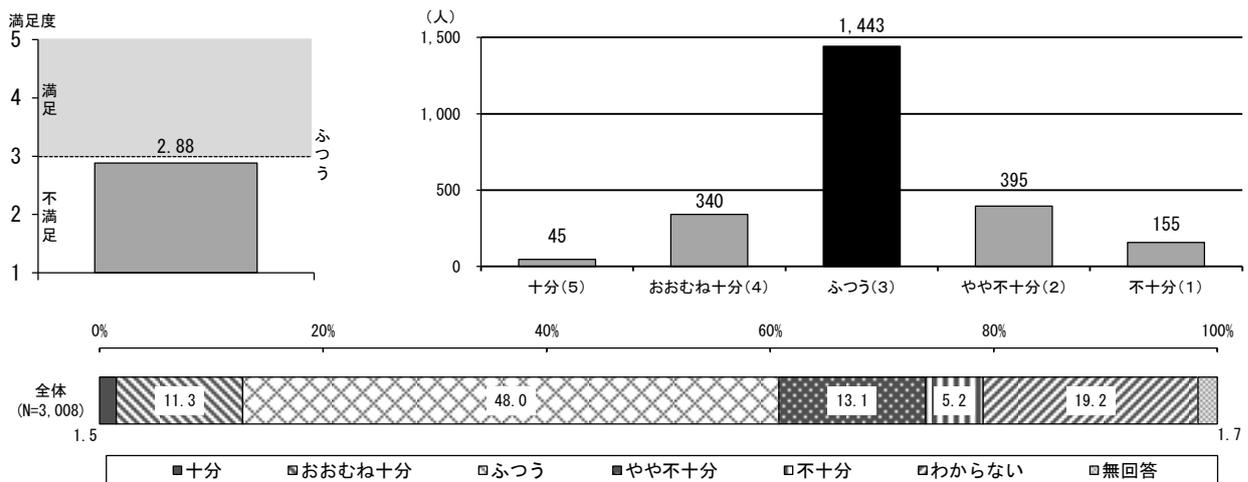
キ 地域を元気にする住民参加の学びの場と芸術・文化に親しむ機会の提供

問 1-34 県民の多様な生涯学習の機会や芸術文化に触れる機会が提供されている。

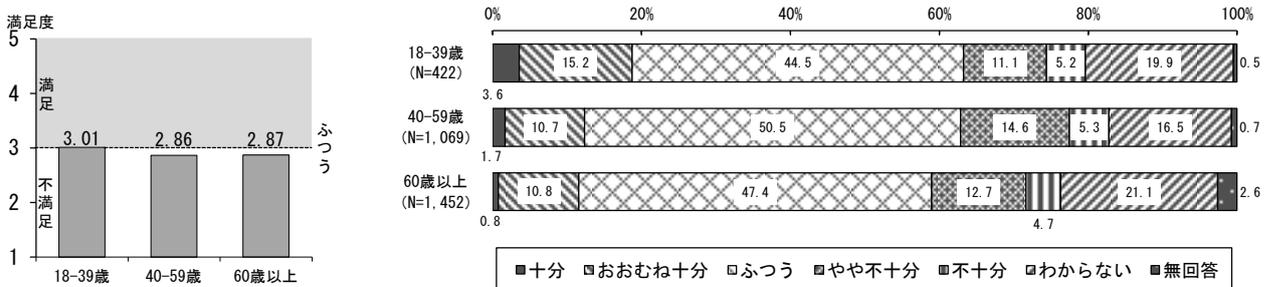
(a) 満足度の状況

5段階評価の満足度の平均値は2.88で、「ふつう」の3より0.12低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は12.8%、「ふつう」は48.0%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は18.3%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は60.8%であった。



年代別では、「18～39歳」の満足度が最も高く3.01であり、不満を感じていない人の割合は63.3%であった。一方、「40～59歳」の満足度は2.86であり、不満を感じていない人の割合は62.9%であった。



(b) 「不十分」「やや不十分」の理由

「不十分」と「やや不十分」を選択した550人に、理由や県に求める取組を自由記述形式で質問したところ、80人(14.5%)から回答があった。

回答の一部

- 県の主要な文化施設が秋田市に集中し過ぎている。(男性/70歳以上/平鹿地域)
- 文化や芸術を担い、広く発信しようとする気持ちや意気込みが少し足りないように思う。(女性/30歳代/北秋田地域)
- 学びの場が提供されていても、参加できる機会を増やさなければ意味がないように思います。コロナ禍で施設利用が減っているようですが、ニーズの変化に対応できているのでしょうか。(男性/50歳代/秋田地域)

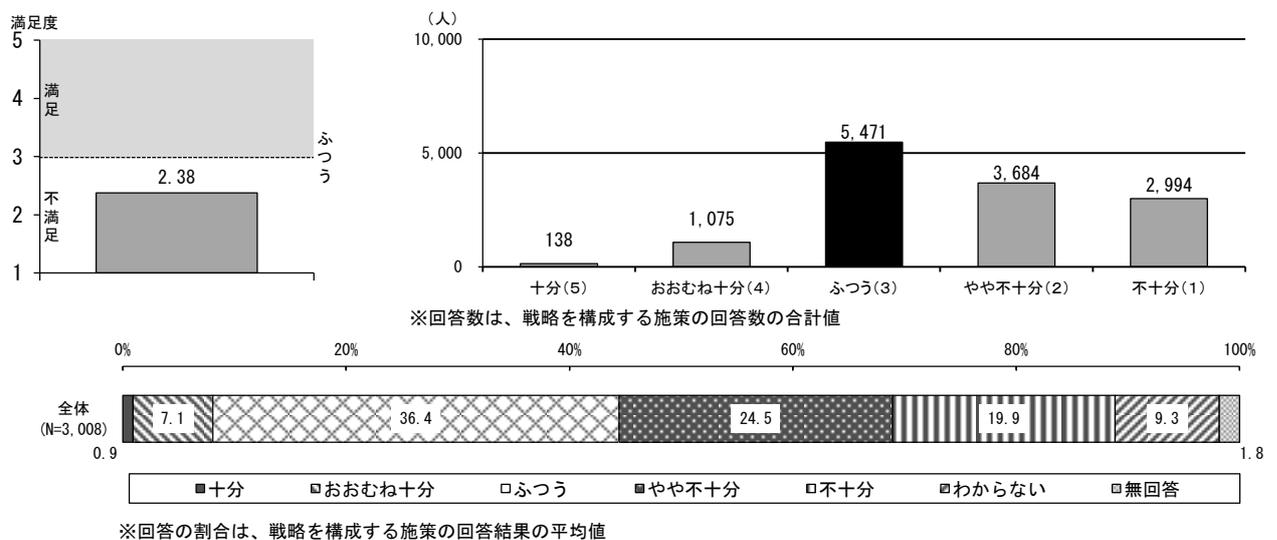
2 (参考) 各戦略の施策に関連する事柄についての満足度の平均値

「1 各戦略の施策に関連する事柄についての満足度」について、戦略ごとに平均値を計算した結果は次のとおりである。

戦略1 秋田の未来につながるふさと定着回帰戦略（問1-1～問1-5）

5段階評価の満足度の平均値は2.38で、「ふつう」の3より0.62低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

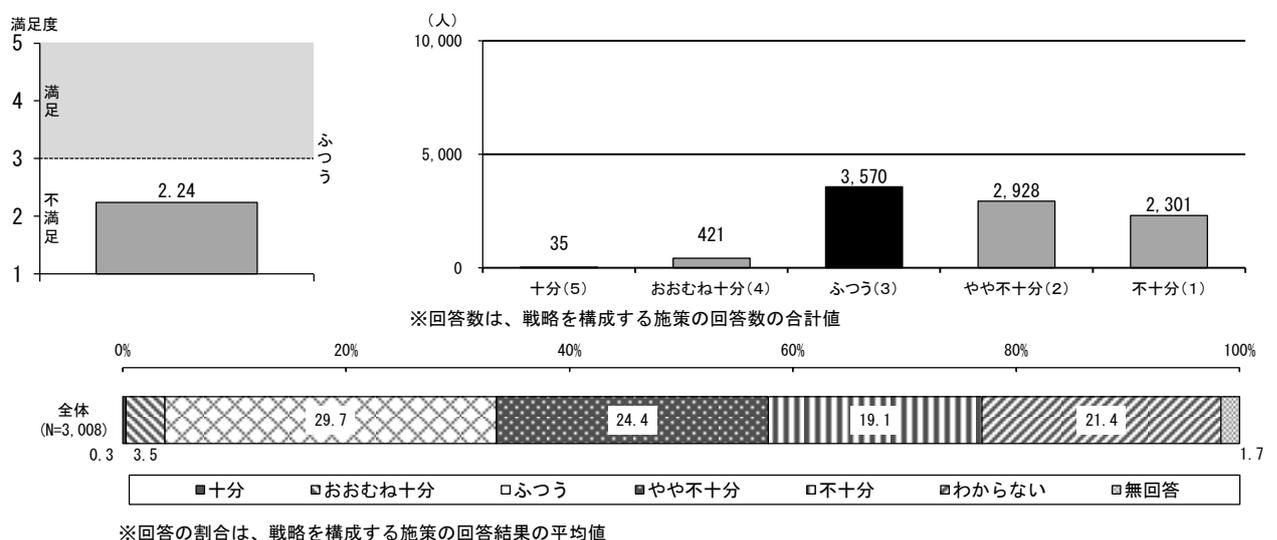
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は8.0%、「ふつう」は36.4%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は44.4%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は44.4%であった。



戦略2 社会の変革へ果敢に挑む産業振興戦略（問1-6～問1-9）

5段階評価の満足度の平均値は2.24で、「ふつう」の3より0.76低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

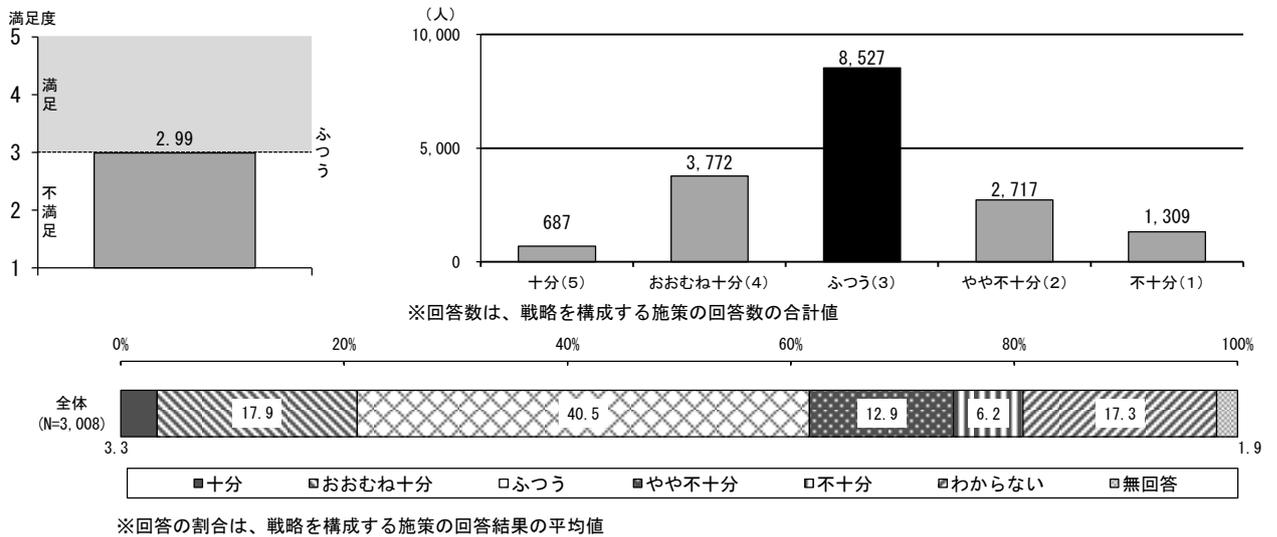
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は3.8%、「ふつう」は29.7%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は43.5%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は33.5%であった。



戦略3 新時代を勝ち抜く攻めの農林水産戦略（問1-10～問1-16）

5段階評価の満足度の平均値は2.99で、「ふつう」の3より0.01低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

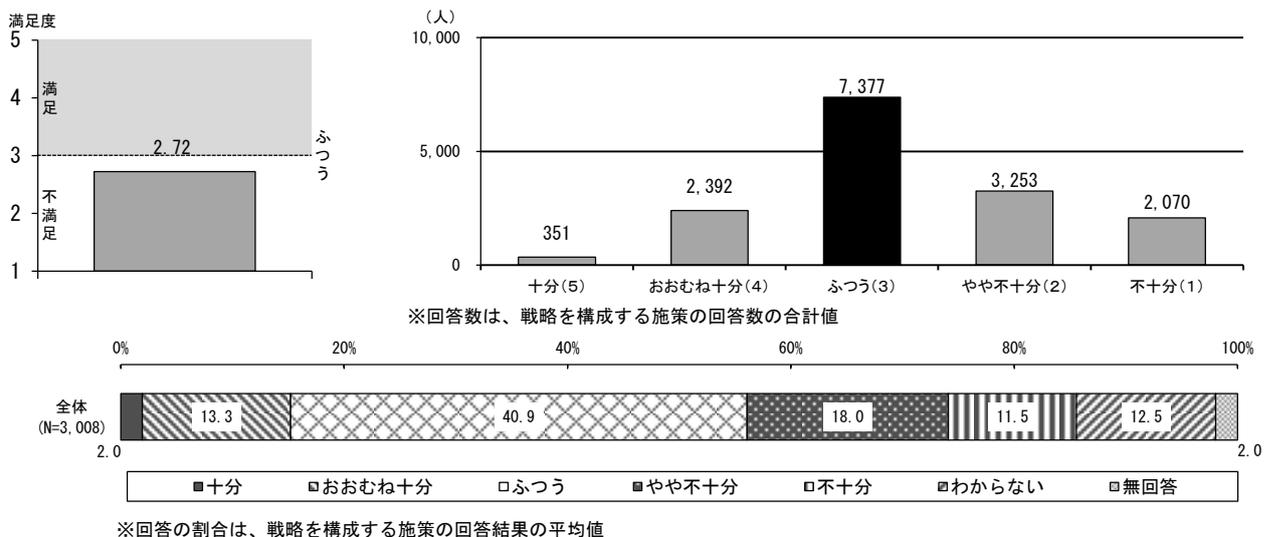
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は21.2%、「ふつう」は40.5%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は19.1%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は61.7%であった。



戦略4 秋田の魅力が際立つ 人・もの交流拡大戦略（問1-17～問1-22）

5段階評価の満足度の平均値は2.72で、「ふつう」の3より0.28低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

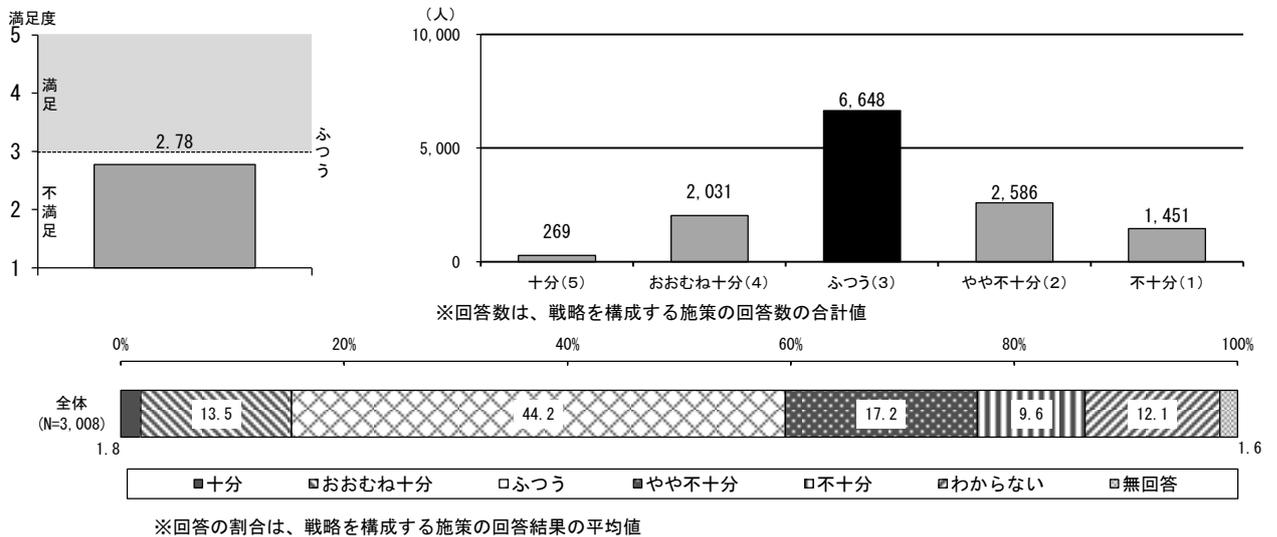
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は15.3%、「ふつう」は40.9%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は29.5%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は56.2%であった。



戦略5 誰もが元気で活躍できる健康長寿・地域共生社会戦略（問1-23～問1-27）

5段階評価の満足度の平均値は2.78で、「ふつう」の3より0.22低かった。回答では「ふつう」が最も多かった。

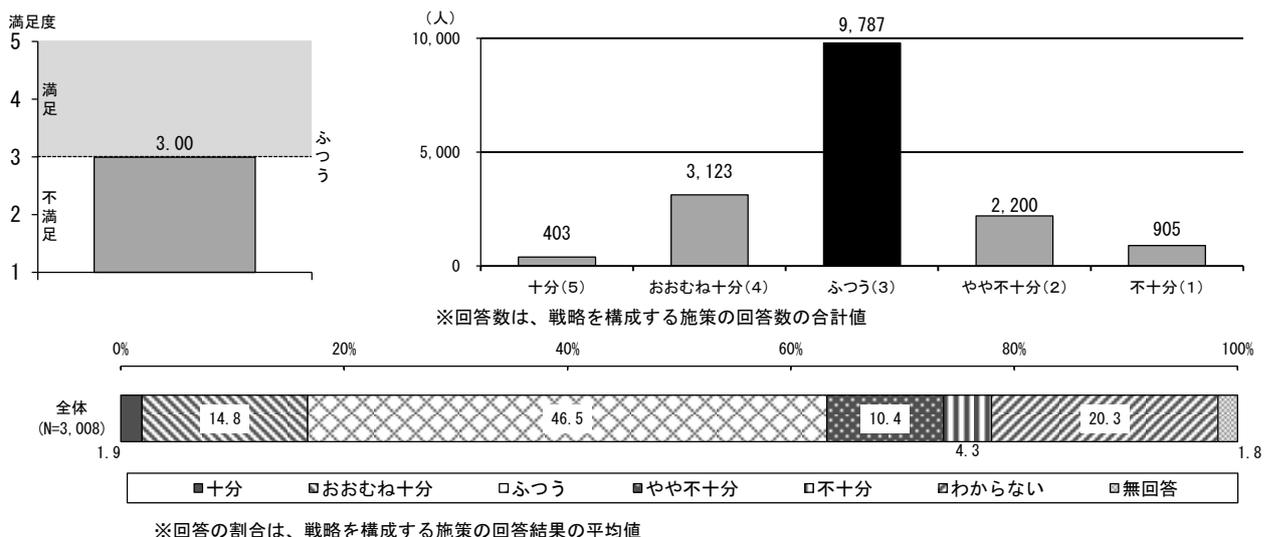
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は15.3%、「ふつう」は44.2%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は26.8%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は59.5%であった。



戦略6 ふるさとの未来を拓く人づくり戦略（問1-28～問1-34）

5段階評価の満足度の平均値は3.00で、「ふつう」の3と同じであった。回答では「ふつう」が最も多かった。

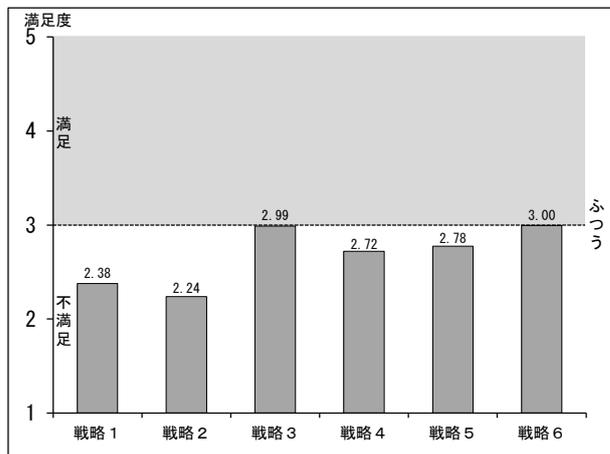
「十分」と「おおむね十分」を合わせた割合は16.7%、「ふつう」は46.5%、「不十分」と「やや不十分」を合わせた割合は14.7%であった。また、「十分」・「おおむね十分」であると感じている人と「ふつう」を合わせた割合（不満を感じていない人の割合）は63.2%であった。



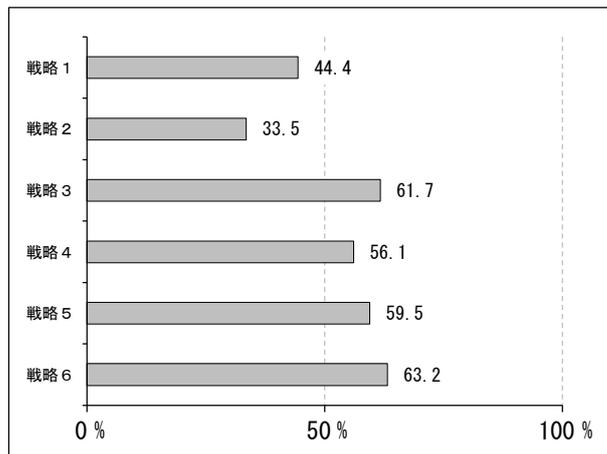
満足度の平均値が最も高かったのは「戦略6 ふるさとの未来を拓く人づくり戦略」の3.00で、不満を感じていない人の割合は63.2%であった。次いで、「戦略3 新時代を勝ち抜く攻めの農林水産戦略」の2.99で、不満を感じていない人の割合は61.7%であった。

満足度の平均値が最も低かったのは、「戦略2 社会の変革へ果敢に挑む産業振興戦略」の2.24で、不満を感じていない人の割合は33.5%であった。

〔満足度の平均値〕



〔不満を感じていない人の割合の平均値〕



※「満足度の平均値」「不満を感じていない人の割合の平均値」とも、戦略を構成する施策の回答結果の平均値であり、各戦略そのものの満足度、割合ではない。

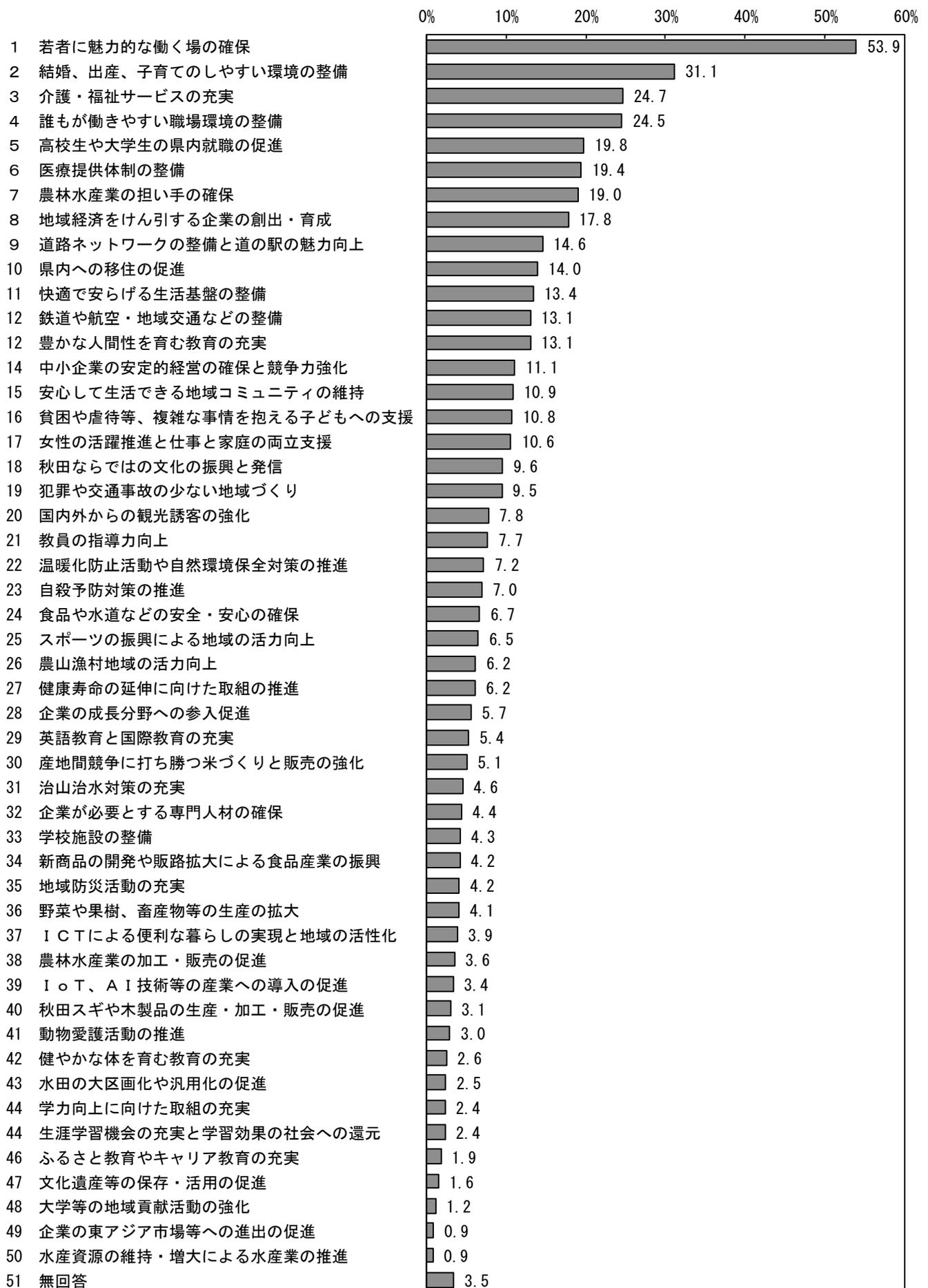
第2章 県政の重要課題について

重要課題として県に力を入れてほしいこと（問2）

県では、現在、新たな県政運営の指針の策定作業を進めているところです。今後の県政を推進していく上で、あなたが重要課題として県に力を入れてほしいことは何ですか。5つまで選択して番号を記入してください。

【全体】

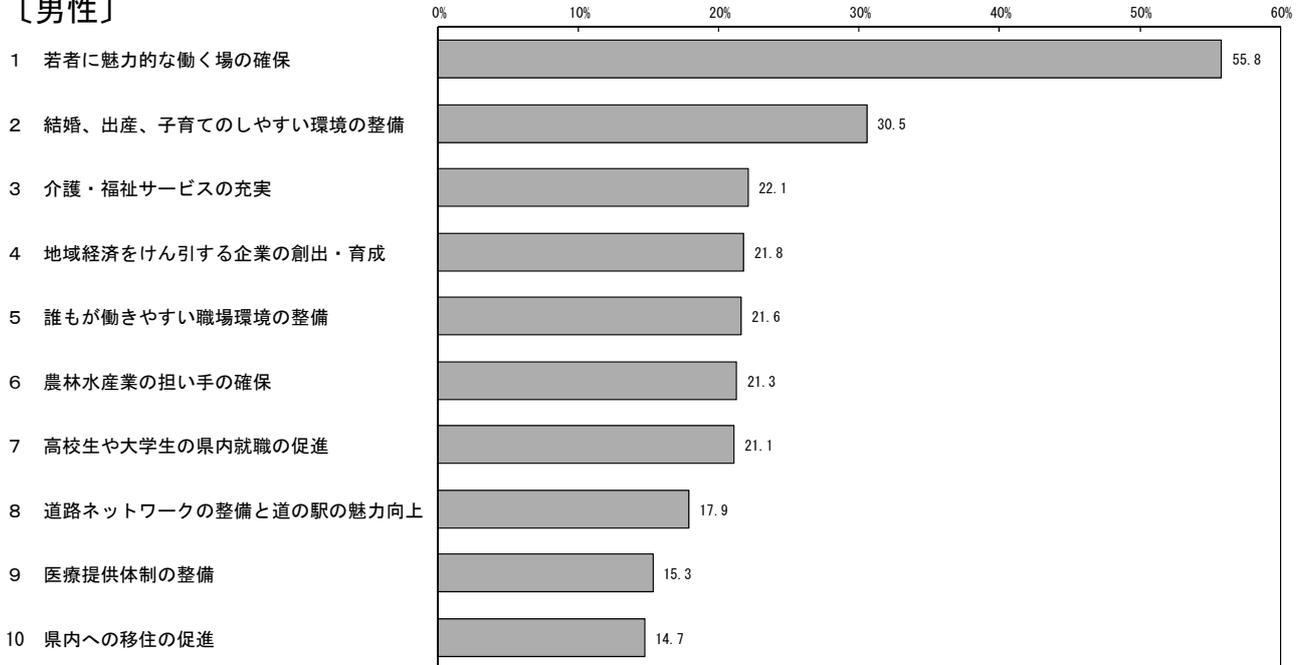
「若者に魅力的な働く場の確保」の割合が53.9%と最も高く、「結婚、出産、子育てのしやすい環境の整備」の31.1%、「介護・福祉サービスの充実」の24.7%、「誰もが働きやすい職場環境の整備」の24.5%、「高校生や大学生の県内就職の促進」の19.8%と続いている。



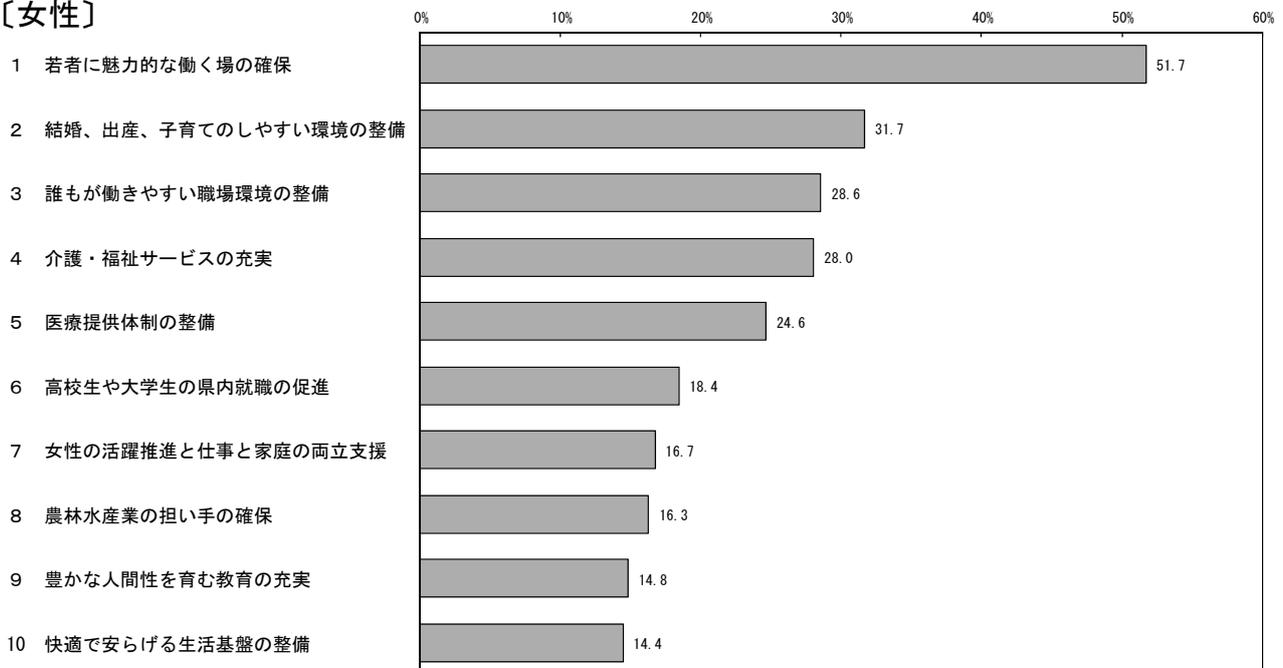
【性別】

上位 10 項目のうち7項目は男女で共通しているが、男女で異なる項目として、「地域経済をけん引する企業の創出・育成」、「道路ネットワークの整備と道の駅の魅力向上」、「県内への移住の促進」がそれぞれ男性の4位、8位、10位となっている。また、「女性の活躍推進と仕事と家庭の両立支援」、「豊かな人間性を育む教育の充実」、「快適で安らげる生活基盤の整備」がそれぞれ女性の7位、9位、10位となっている。

〔男性〕



〔女性〕

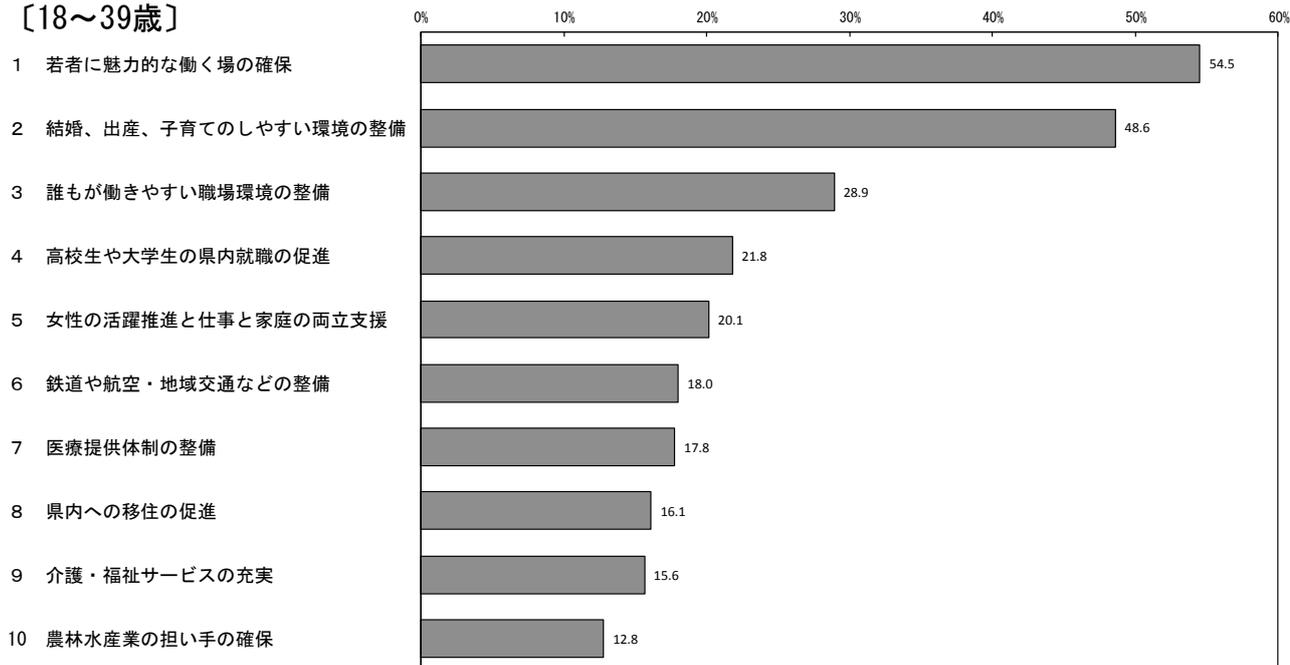


【年代別】

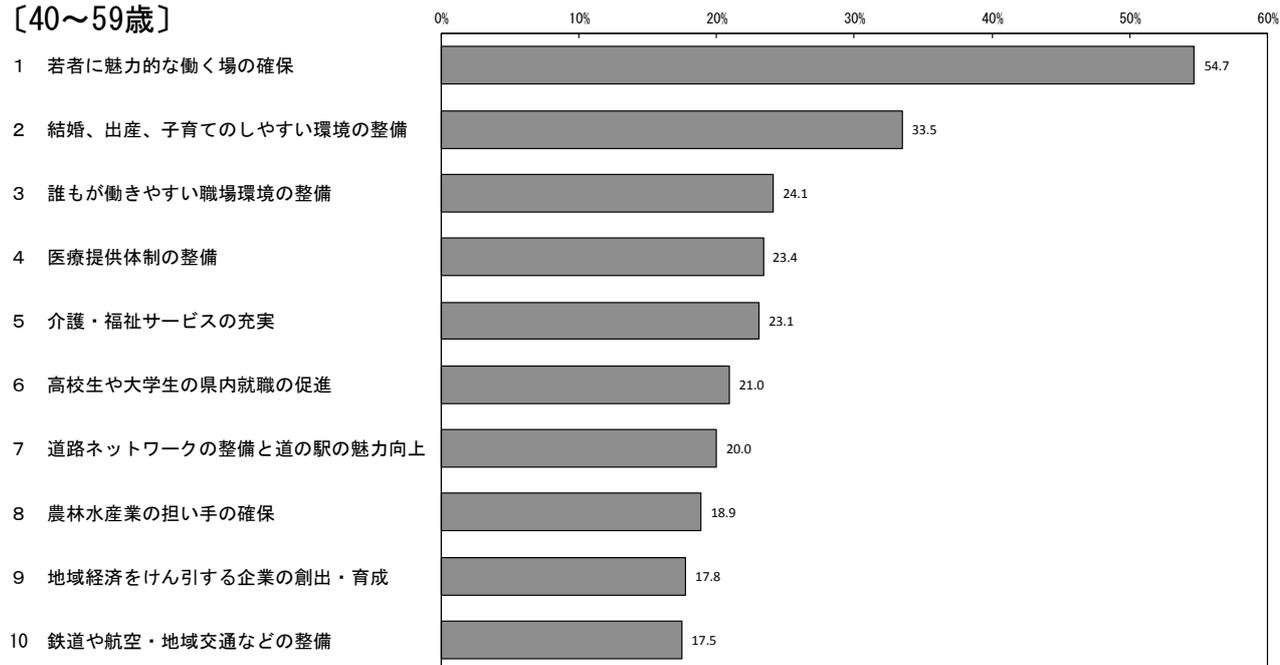
全年代共通で「若者に魅力的な働く場の確保」、「結婚、出産、子育てのしやすい環境の整備」、「誰もが働きやすい職場環境の整備」が上位となっている。また、年代が上がるにつれて、「介護・福祉サービスの充実」の順位が上位となっている。

18～39歳と40～59歳では、60歳以上でない「鉄道や航空・地域交通などの整備」が上位10項目に入っている。他の年代にない項目として、18～39歳では、「女性の活躍推進と仕事と家庭の両立支援」が5位、「県内への移住の促進」が8位、40～59歳では、「道路ネットワークの整備と道の駅の魅力向上」が7位、60歳以上では、「豊かな人間性を育む教育の充実」が9位、「快適で安らげる生活基盤の整備」が10位となっている。

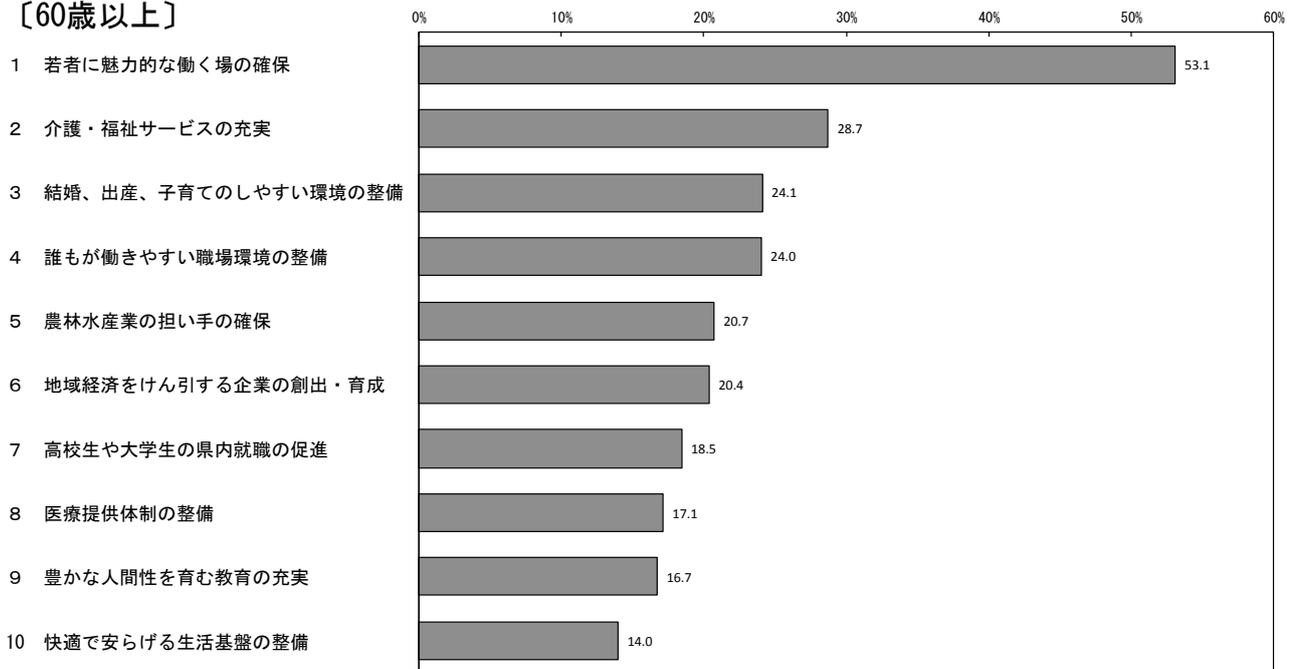
〔18～39歳〕



〔40～59歳〕



〔60歳以上〕



第3章 県の特定期間について

特定の課題に関する意識（問3）

1 県の広報活動について

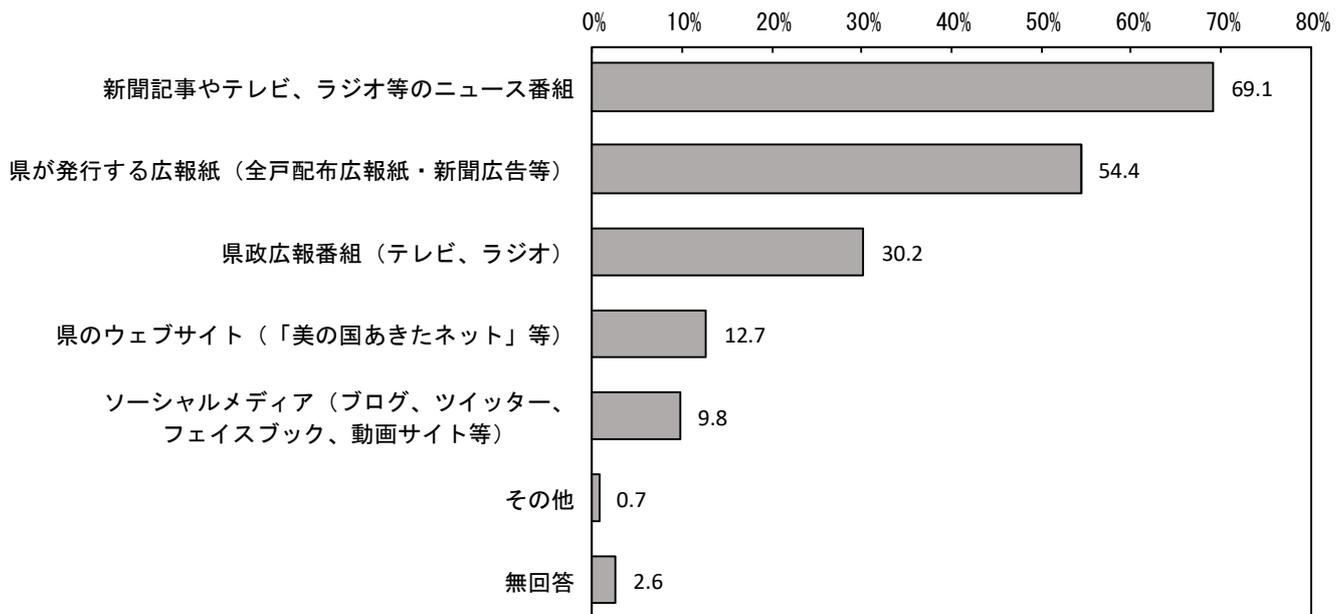
（1）県が発信する情報の取得方法

① あなたは、県の施策・事業等を何から知ることが多いですか（〇はいくつでも）。

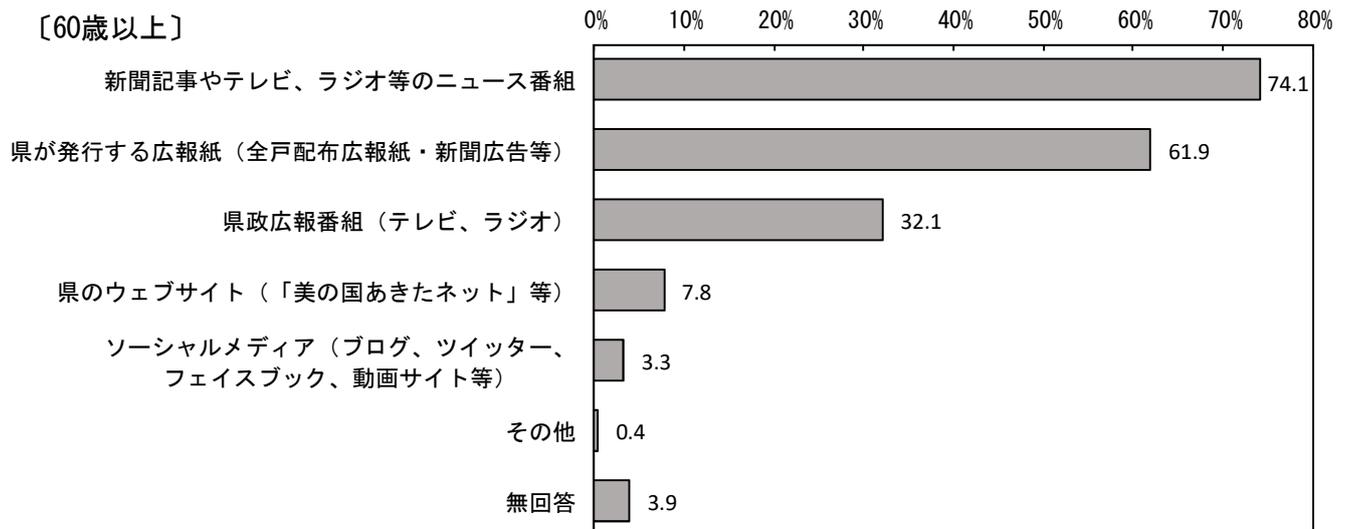
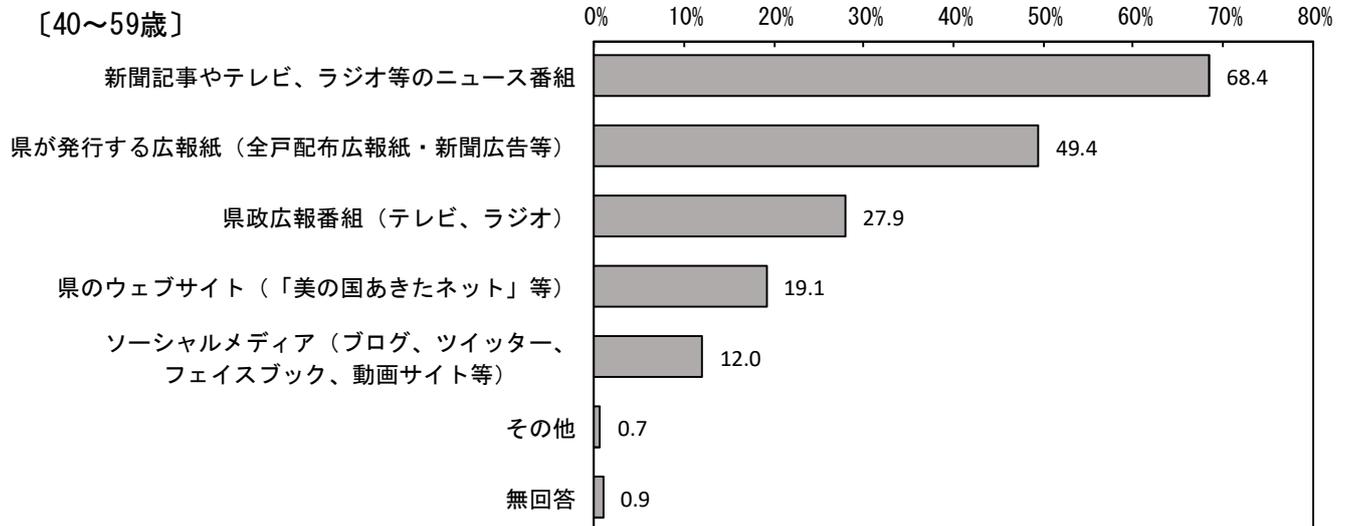
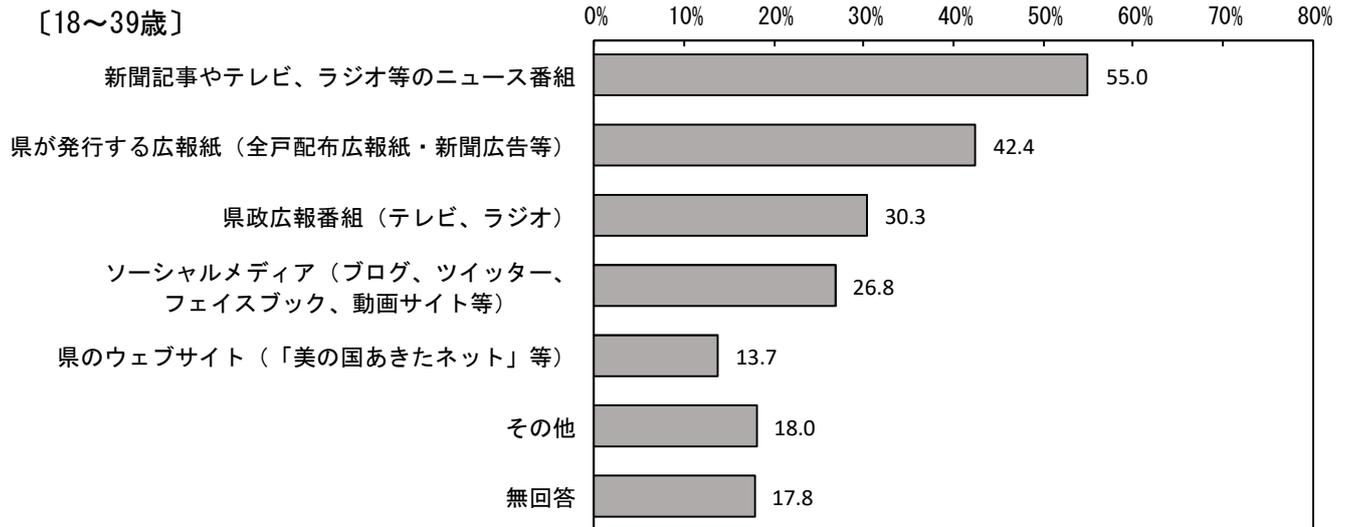
全体では、「新聞記事やテレビ、ラジオ等のニュース番組」の割合が69.1%と最も高く、「県が発行する広報紙」の54.4%、「県政広報番組」の30.2%と続いている。

年代別では、全年代共通で「新聞記事やテレビ、ラジオ等のニュース番組」の割合が最も高い。また、「ソーシャルメディア」の割合は、18～39歳で26.8%と最も高いのに対し、60歳以上で3.3%と最も低い。

【全体】



【年代別】



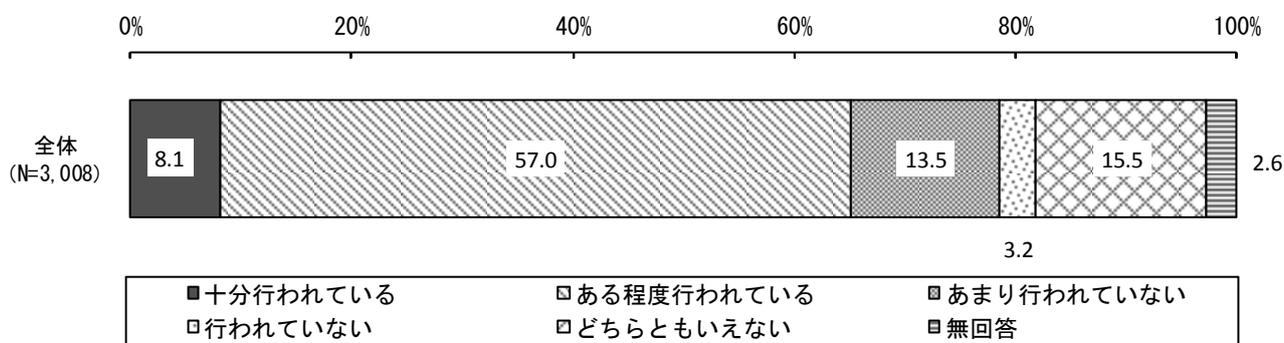
(2) 広報活動の現状評価

② あなたは、広報紙やウェブサイト、テレビ、ラジオ等による広報活動は十分に行われていると思いますか（○は1つ）。

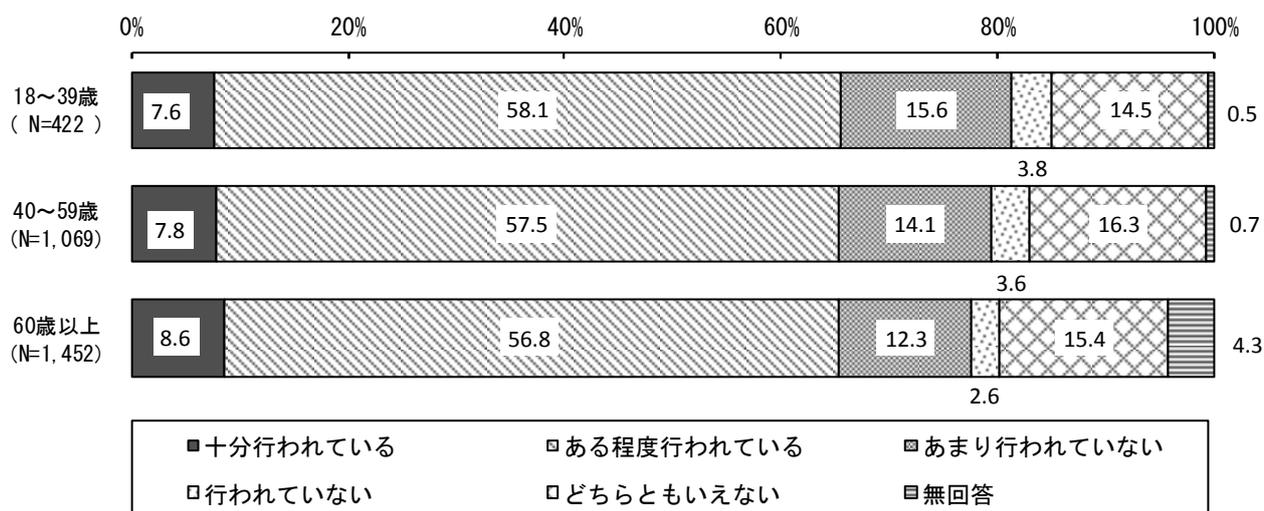
全体では、「十分行われている」と「ある程度行われている」を合わせた割合は 65.1%で、「あまり行われていない」と「行われていない」を合わせた割合 16.7%よりも高い。

年代別では、「十分行われている」と「ある程度行われている」を合わせた割合は、18～39歳で 65.7%と最も高い。「あまり行われていない」と「行われていない」を合わせた割合も、18～39歳で 19.4%と最も高い。

【全体】



【年代別】



2 家庭での防災活動について

(1) 家庭での災害時に備えた備蓄状況

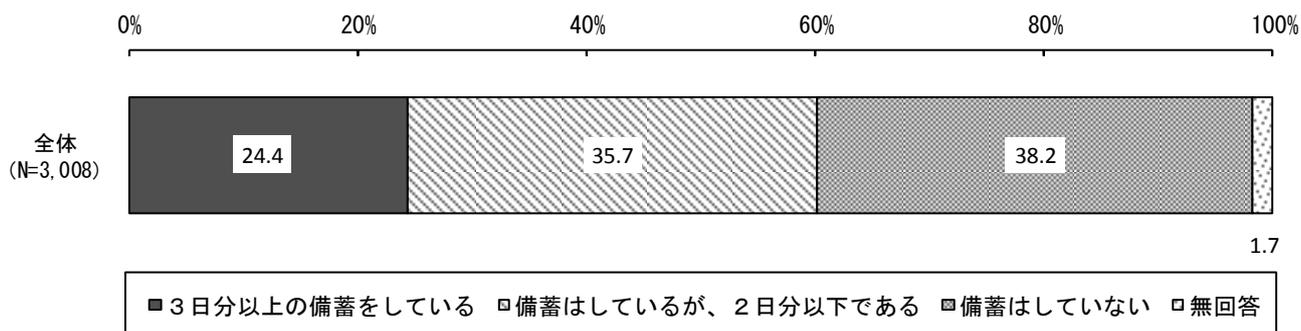
① あなたの家庭では、災害時の備えとして、水・食料等の備蓄（※）（家族人数×3日分）をしていますか（○は1つ）。

※備蓄には、普段から家庭で使うために購入・保管している冷蔵庫内の食料品等や、災害時にも活用できるペットボトル飲料水やカップラーメン、缶詰なども含まれます。

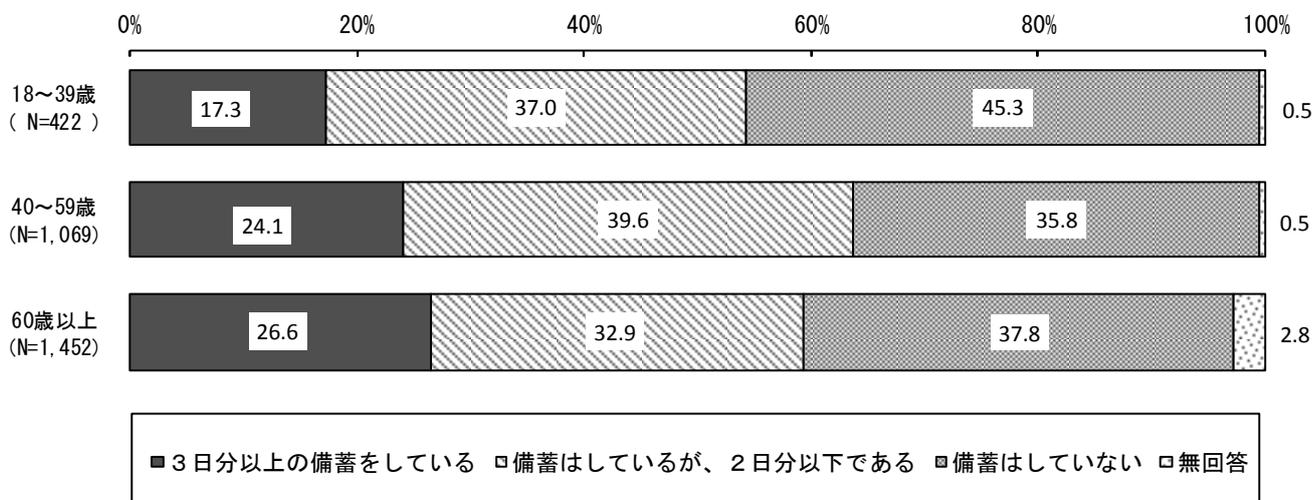
全体では、「3日分以上の備蓄をしている」と「備蓄はしているが、2日分以下である」を合わせた割合は60.1%で、「備蓄はしていない」の割合38.2%よりも高い。

年代別では、「3日分以上の備蓄をしている」と「備蓄はしているが、2日分以下である」を合わせた割合は、40～59歳で63.7%と最も高い。「備蓄はしていない」の割合は、18～39歳で45.3%と最も高い。

【全体】



【年代別】



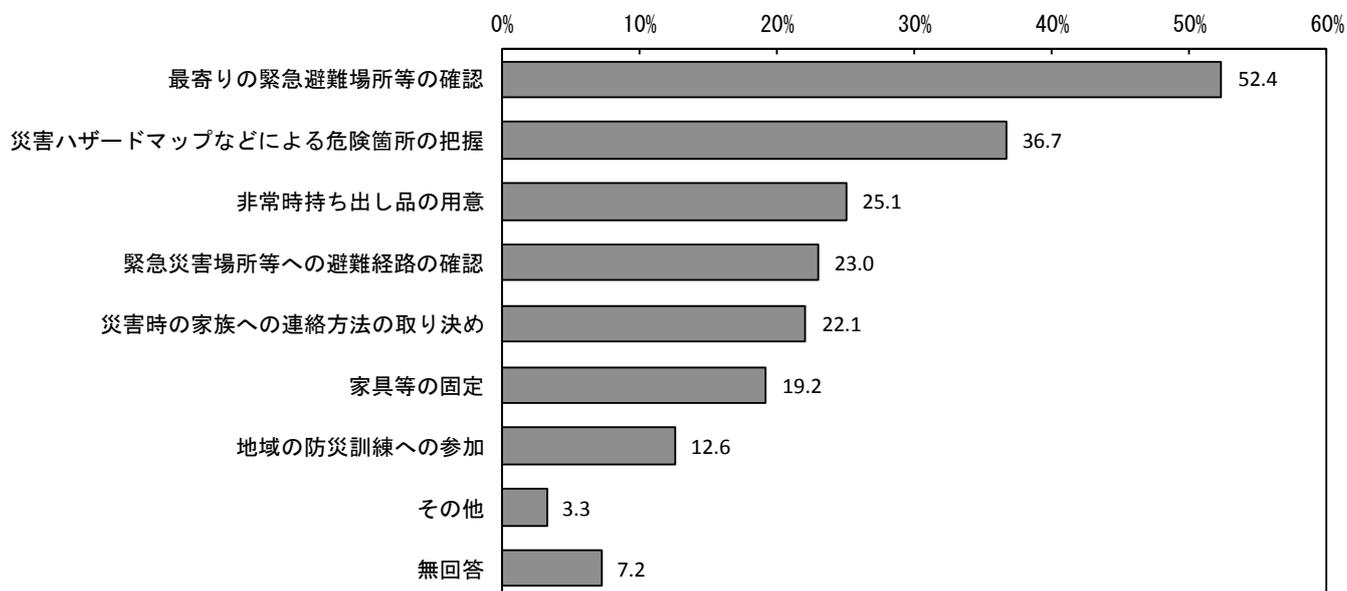
(2) 災害に備えた家庭での防災活動の状況

② あなたは、災害に備えて日頃どのような防災活動を行っていますか（〇はいくつでも）。

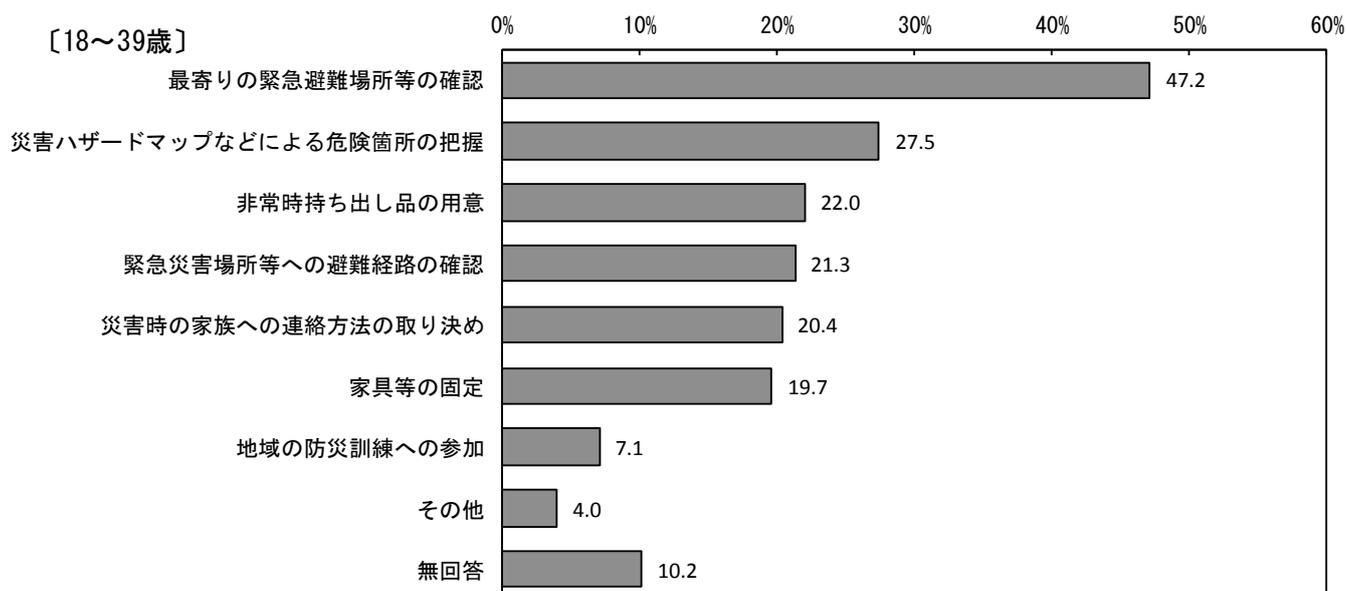
全体では、「最寄りの緊急避難場所等の確認」の割合が 52.4%と最も高く、「災害ハザードマップなどによる危険箇所の把握」の 36.7%、「非常時持ち出し品の用意」の 25.1%、「緊急災害場所等への避難経路の確認」の 23.0%と続いている。

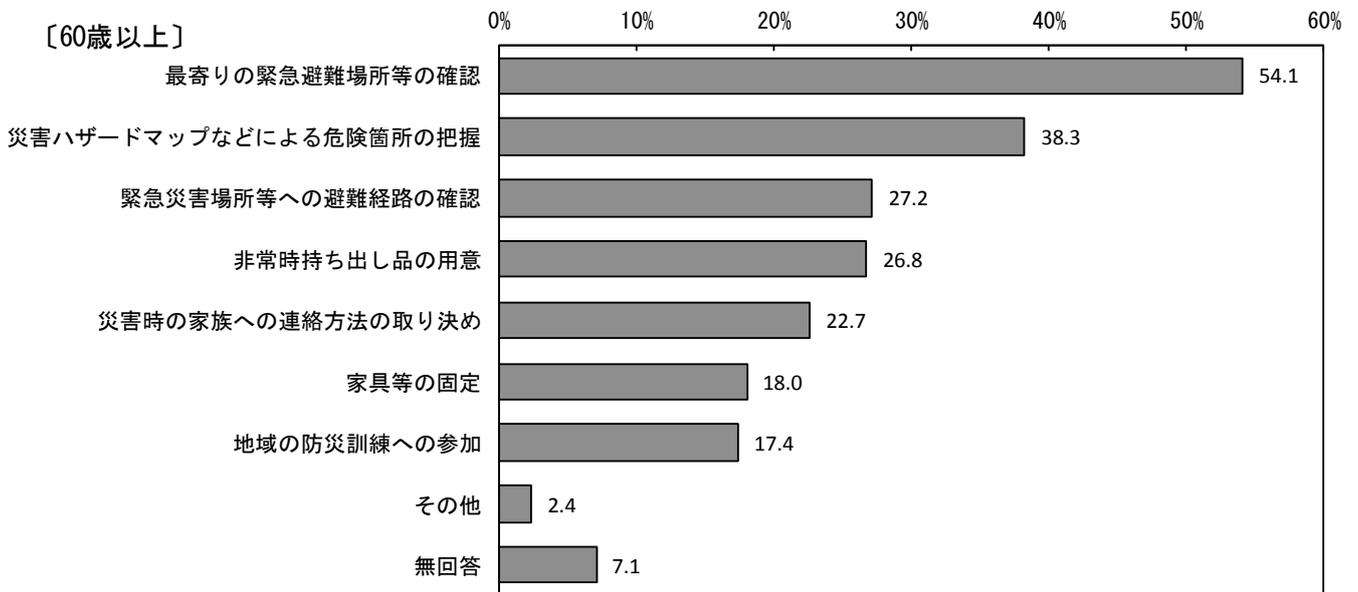
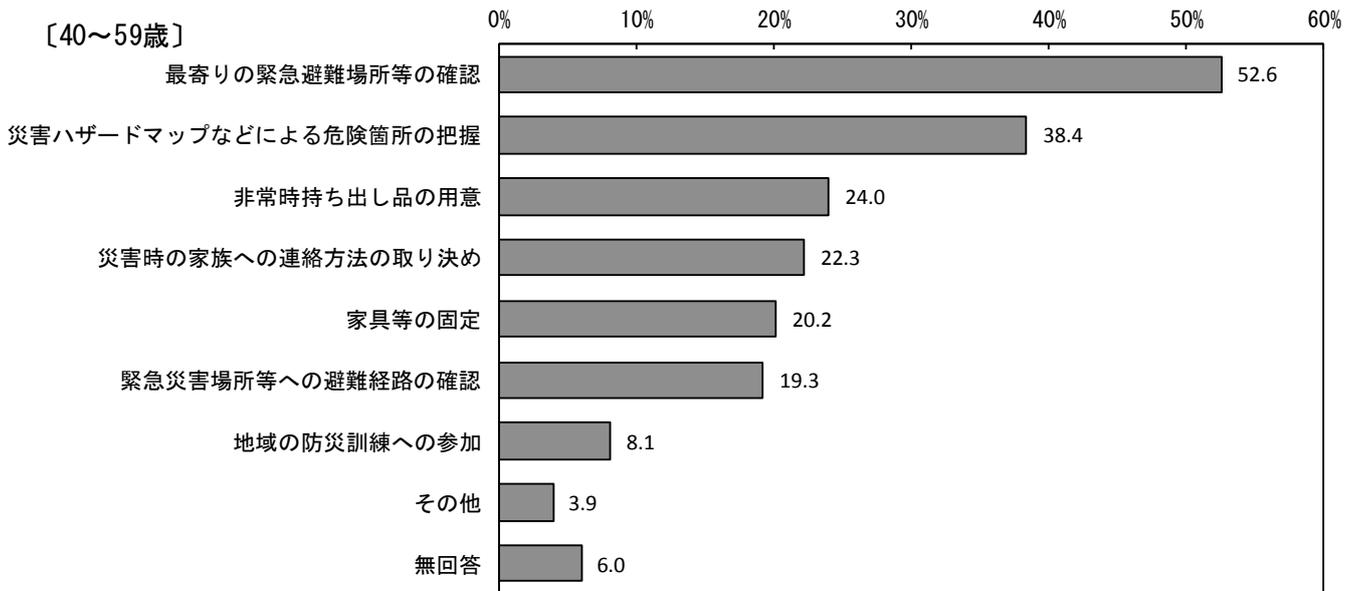
年代別では、「最寄りの緊急避難場所等の確認」の割合は、60 歳以上で 54.1%と最も高いのに対し、18～39 歳で 47.2%と最も低い。また、「災害ハザードマップなどによる危険箇所の把握」の割合は、40～59 歳で 38.4%と最も高いのに対し、18～39 歳で 27.5%と最も低い。

【全体】



【年代別】





3 読書活動について

(1) 読書への興味

① あなたは読書（※）が好きですか（○は1つ）。

※読書には、新聞及び雑誌（電子媒体の記事（注1）を含む。）のほか、子どもへの読み聞かせ、オーディオブック（注2）も含まれます。

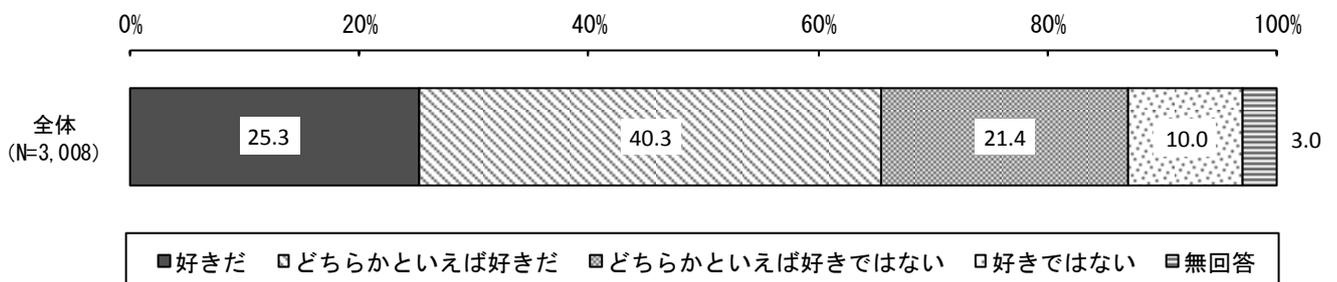
（注1）電子媒体の記事とは、新聞社や出版社等がインターネット上に掲載しているニュースや雑誌記事等のことです。

（注2）オーディオブックとは、書籍を朗読したものを録音したCDやカセット、インターネット上で提供されている音声コンテンツのことです。

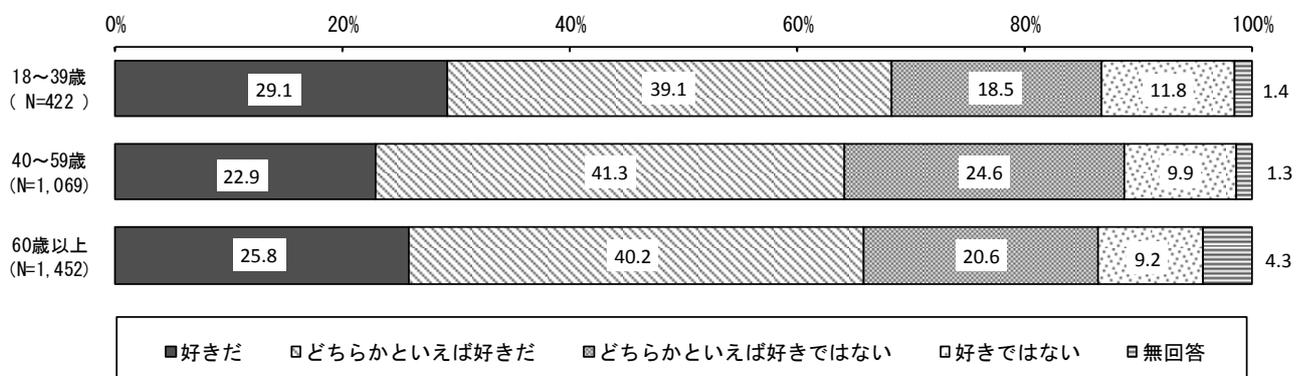
全体では、「好きだ」と「どちらかといえば好きだ」を合わせた割合（読書を好きと感じている人の割合）は65.6%で、「好きではない」と「どちらかといえば好きではない」を合わせた割合31.4%よりも高い。

年代別では、読書を好きと感じている人の割合は、18～39歳で68.2%と最も高い。「好きではない」と「どちらかといえば好きではない」を合わせた割合は、40～59歳で34.5%と最も高い。

【全体】



【年代別】



(2) 1日の平均読書時間

② あなたは1日平均(※)どれくらい読書をしていますか(○は1つ)。

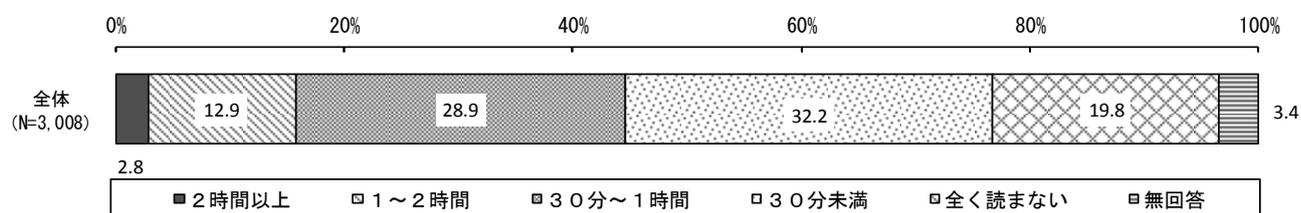
※子どもへの読み聞かせ時間も含まれます。

※休日まとめ読みの場合は、1日平均に置き換えてください。

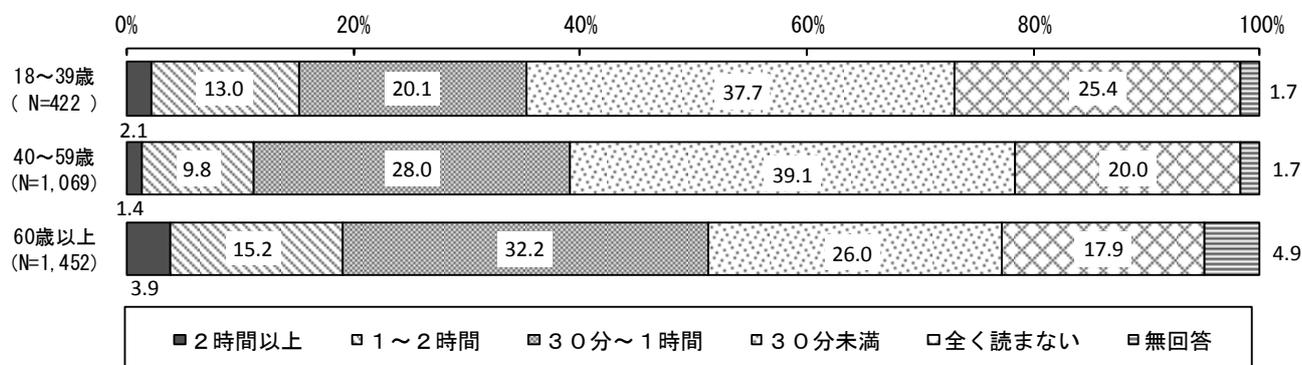
全体では、「2時間以上」、「1～2時間」及び「30分～1時間」を合わせた割合(30分以上読書をする人の割合)は44.6%となっている。また、「全く読まない」の割合は19.8%となっている。

年代別では、30分以上読書をする人の割合は、60歳以上で51.3%と最も高い。「全く読まない」の割合は、18～39歳で25.4%と最も高い。

【全体】



【年代別】



4 農業への就業について

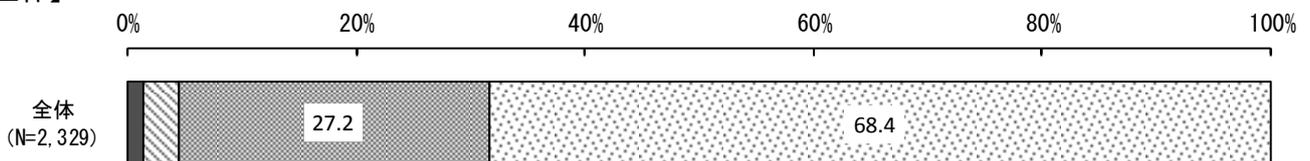
(1) 農業への就業についての興味

① 現在、農業へ就業していない方にお聞きします。あなたは、農業への就業について、どのように考えていますか（〇は1つ）。

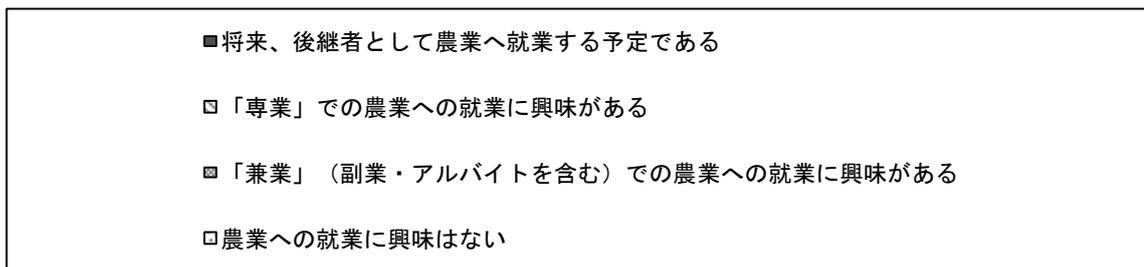
全体では、「農業への就業に興味はない」の割合が 68.4%と最も高く、「専業での農業への就業に興味がある」と「兼業(副業・アルバイトを含む)での農業への就業に興味がある」を合わせた割合 30.3%よりも高い。また、「将来、後継者として農業へ就業する予定である」の割合は 1.3%となっている。

年代別では、「専業での農業への就業に興味がある」と「兼業(副業・アルバイトを含む)での農業への就業に興味がある」を合わせた割合は、40～59歳で 34.3%と最も高い。「農業への就業に興味はない」の割合は、60歳以上で 72.1%と最も高い。

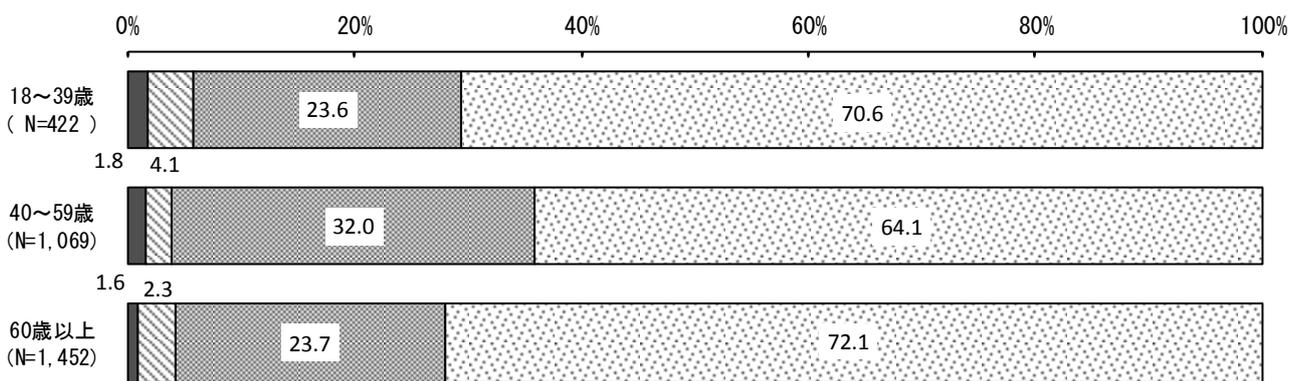
【全体】



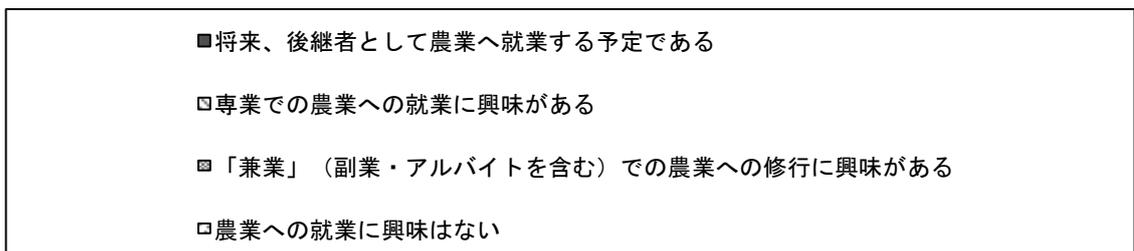
※無回答は含まない



【年代別】



※無回答は含まない



(2) 農業へ就業するとした場合、希望する勤務形態

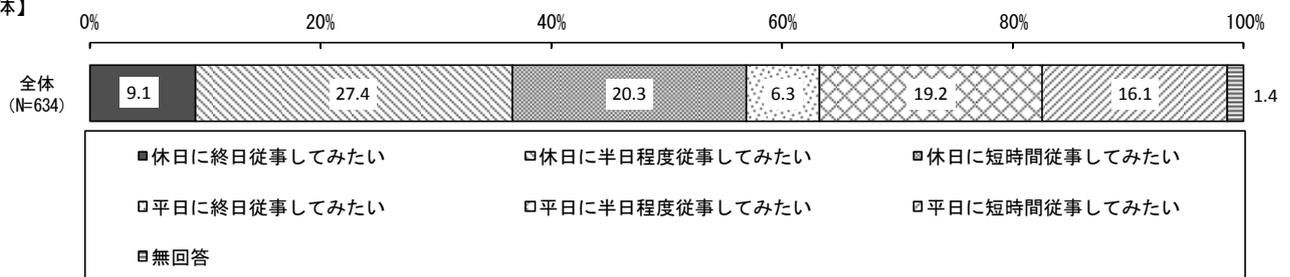
② ①で「兼業（副業・アルバイトを含む）での農業への就業に興味がある」を選んだ方にお聞きします。あなたが実際に農業へ就業するとした場合、どのような勤務形態で従事してみたいですか（〇は1つ）。

全体では、「休日に半日程度従事してみたい」の割合が27.4%と最も高く、「休日に短時間従事してみたい」の20.3%、「平日に半日程度従事してみたい」の19.2%と続いている。

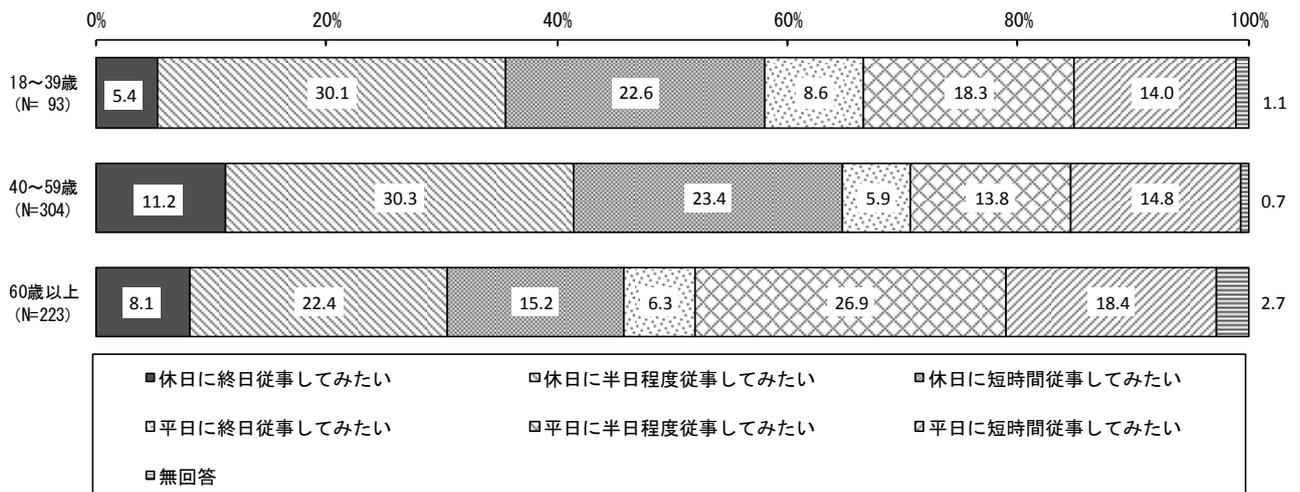
年代別では、「休日に半日程度従事してみたい」の割合は、40～59歳で30.3%と最も高い。「平日に半日程度従事してみたい」の割合は、60歳以上で26.9%と最も高い。

【全体】

【全体】



【年代別】



5 がん対策について

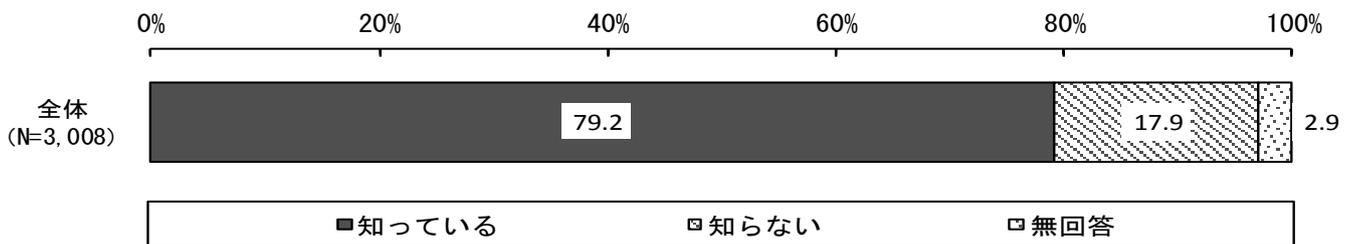
(1) 日本人のがん発症率に関する認知度

① あなたは、日本人の2人に1人はがんになることを知っていますか（どちらかに○）。

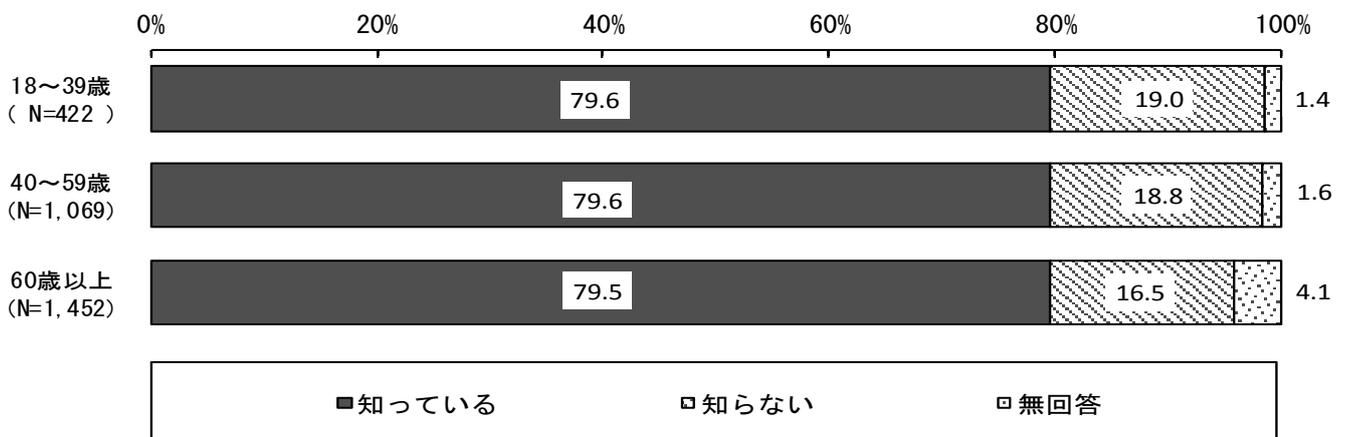
全体では、「知っている」の割合は79.2%で、「知らない」の割合は17.9%となっている。

年代別では、「知っている」の割合は、18～39歳と40～59歳で79.6%、60歳以上で79.5%とほぼ等しい。

【全体】



【年代別】



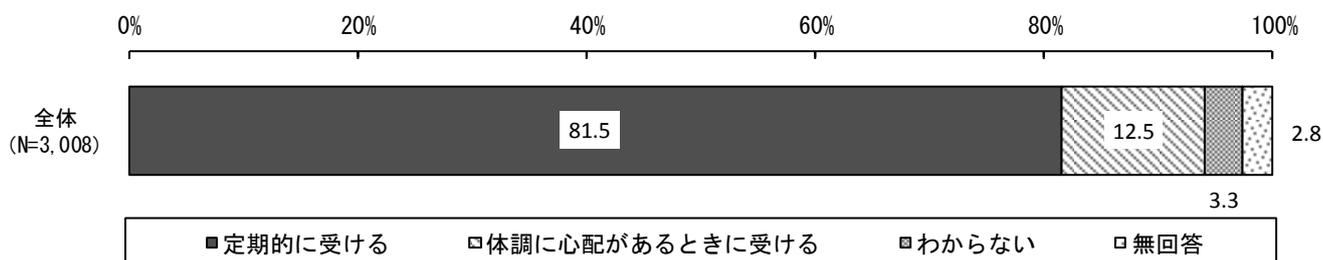
(2) がん検診の受診時期に対する考え方

② あなたは、がんを早期に発見するためにはがん検診をどのように受ければよいと思いますか
(〇は1つ)。

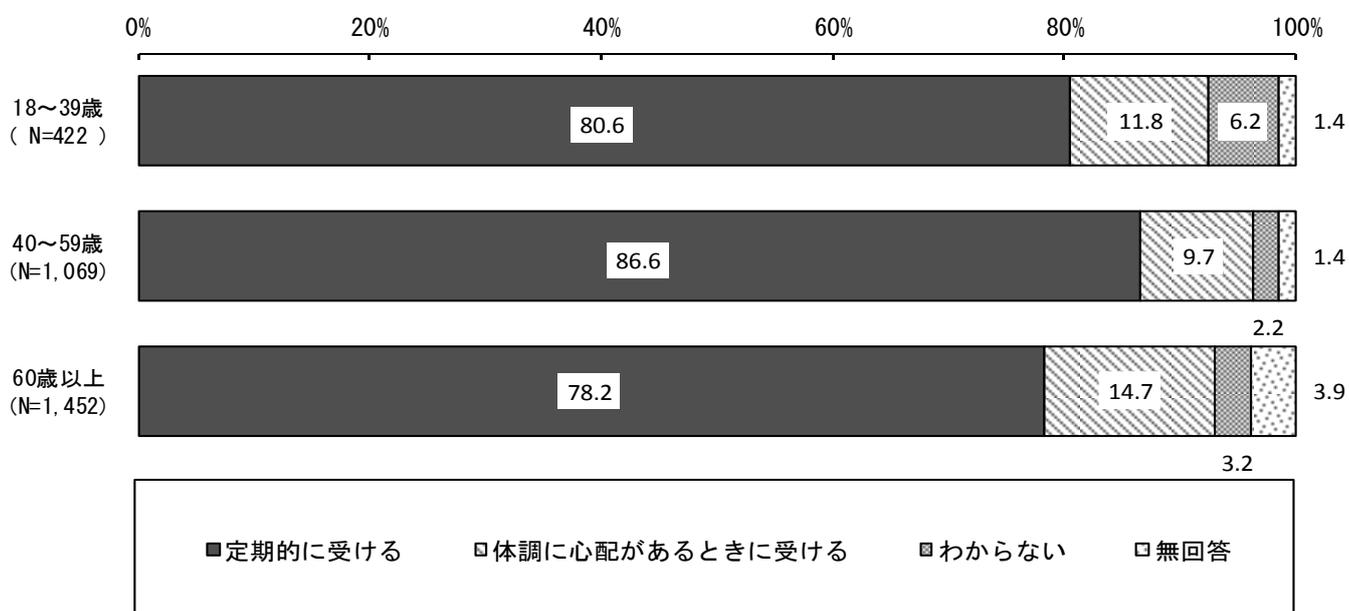
全体では、「定期的に受ける」の割合は81.5%で、「体調に心配があるときに受ける」の割合は12.5%となっている。

年代別では、「定期的に受ける」の割合は、40～59歳で86.6%と最も高い。

【全体】



【年代別】



6 社会活動・地域活動について

社会活動・地域活動への取組の頻度

① あなたが、ここ1年間に仕事以外の何らかの「社会活動・地域活動」(※)に取り組んだ頻度で、もっとも当てはまるものはどれですか(○は1つ)。

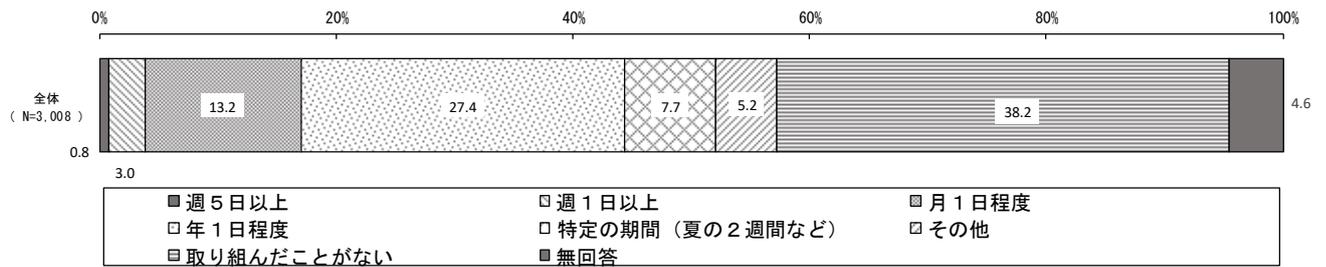
※「社会活動・地域活動」の具体例

地域の公園の花壇の手入れ、町内一斉清掃への参加、河川のごみ拾い、子育て支援、子ども会活動、まちづくりフェスティバル、祭り・伝統芸能の担い手、高齢者宅の除雪の手伝い等

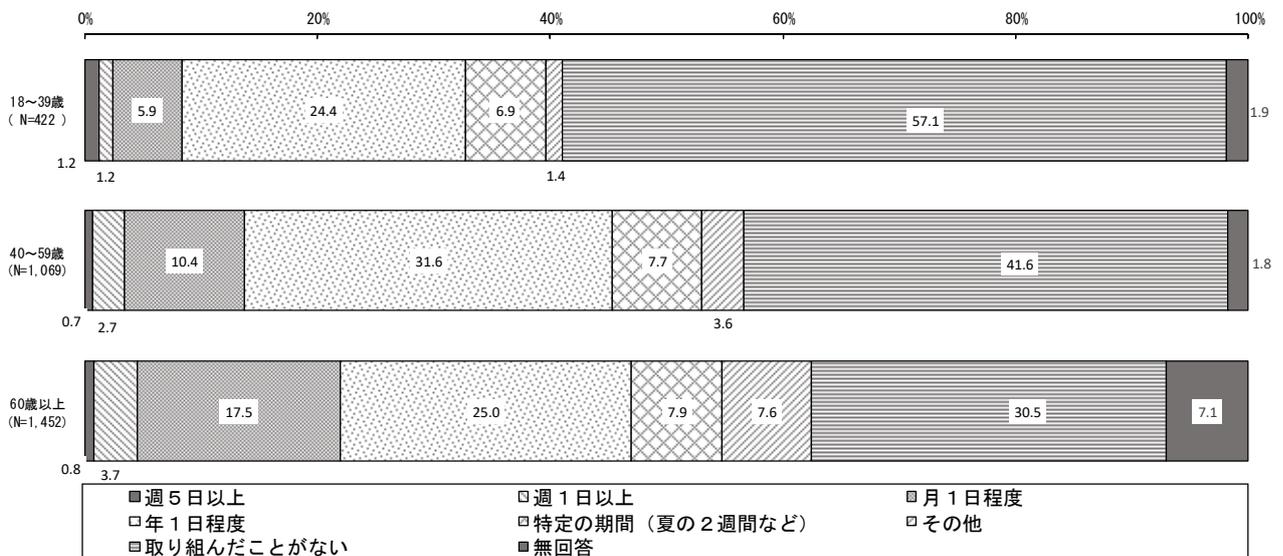
全体では、「取り組んだことがない」の割合が38.2%と最も高く、「年1日程度」の27.4%、「月1日程度」の13.2%と続いている。

年代別では、「取り組んだことがない」の割合は、18～39歳で57.1%と最も高く、60歳以上で30.5%と最も低い。

【全体】



【年代別】



7 自転車の安全で適正な利用について

自転車損害賠償責任保険への加入状況

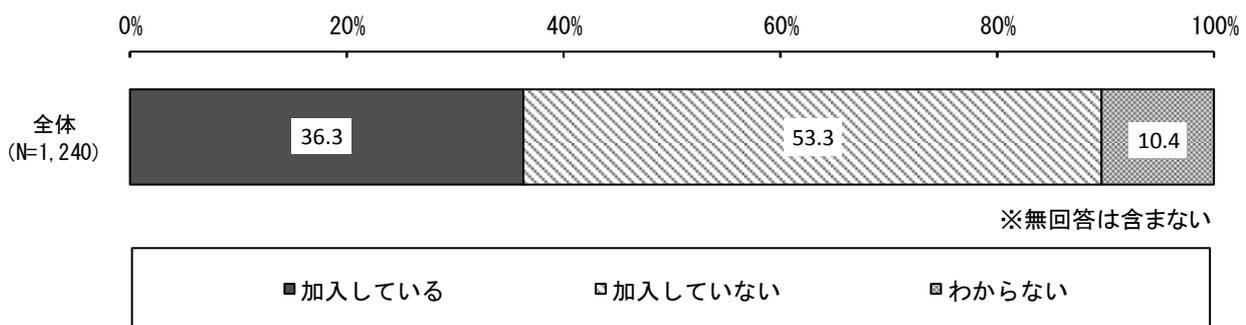
① 自転車を利用している人にお聞きします。あなたは「自転車損害賠償責任保険等（※）」に加入していますか（○は1つ）。

※自転車を運転中の事故により、他人にケガを負わせてしまった場合に備える保険。

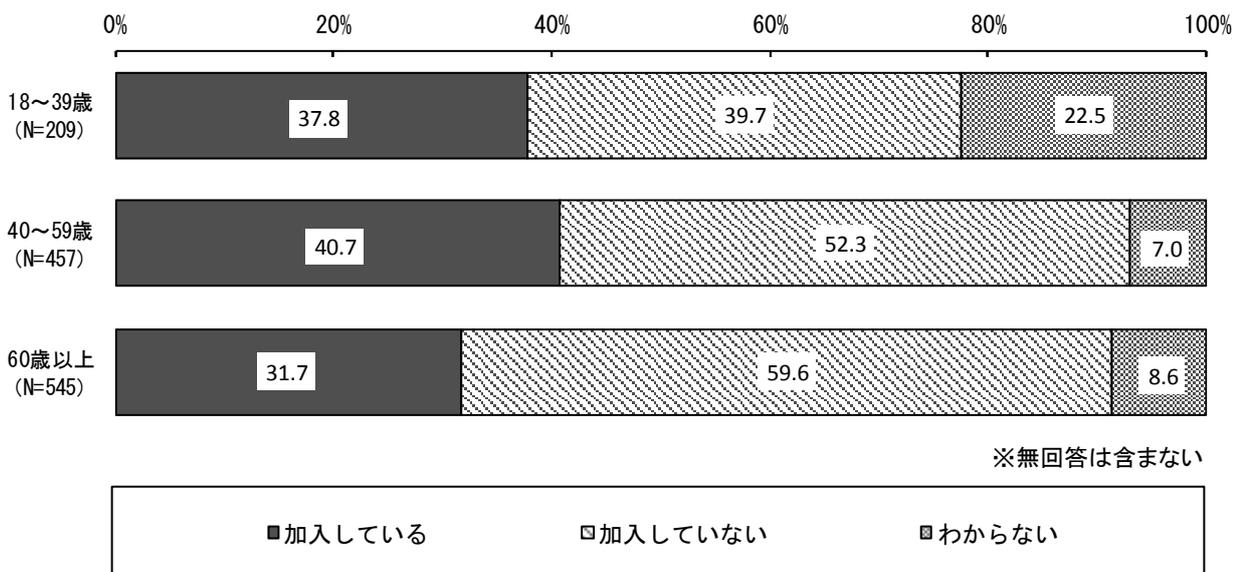
※自転車保険単独のものや、自動車保険・火災保険・傷害保険の特約、共済、職場の団体保険などがあります。

全体では、「加入している」の割合は36.3%で、「加入していない」の割合は53.3%となっている。
年代別では、「加入している」の割合は、40～59歳で40.7%と最も高い。「加入していない」の割合は、60歳以上で59.6%と最も高い。

【全体】



【年代別】



8 男女共同参画について

「男は仕事、女は家庭」の考え方

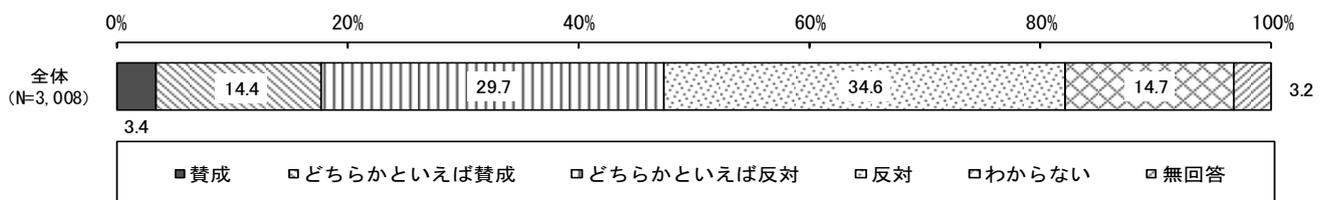
① 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはこれについてどう思いますか
(○は1つ)。

全体では、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた割合は17.8%で、「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせた割合64.3%よりも低い。

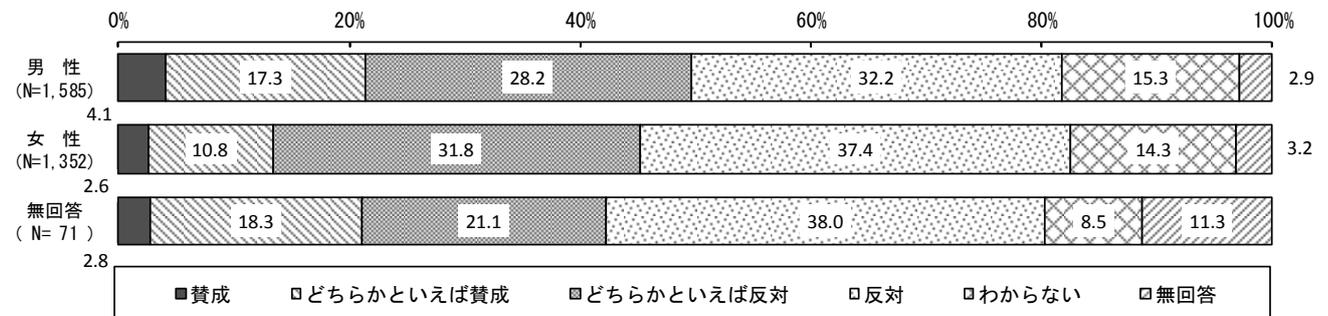
性別では、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた割合は、男性が女性より高く、「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせた割合は、女性が男性より高い。

年代別では、「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた割合は、60歳以上で21.6%と最も高い。「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせた割合は、18～39歳で70.8%と最も高い。

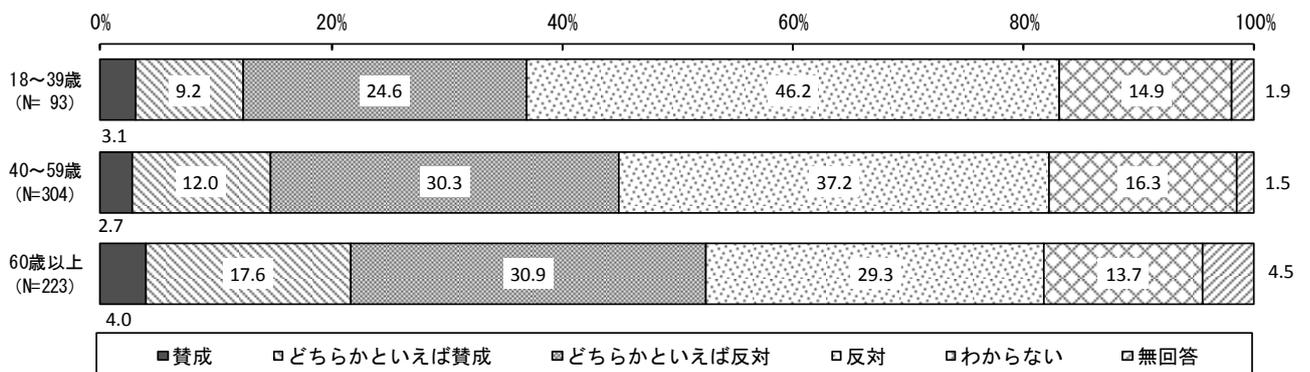
【全体】



【性別】



【年代別】



9 温暖化防止対策について

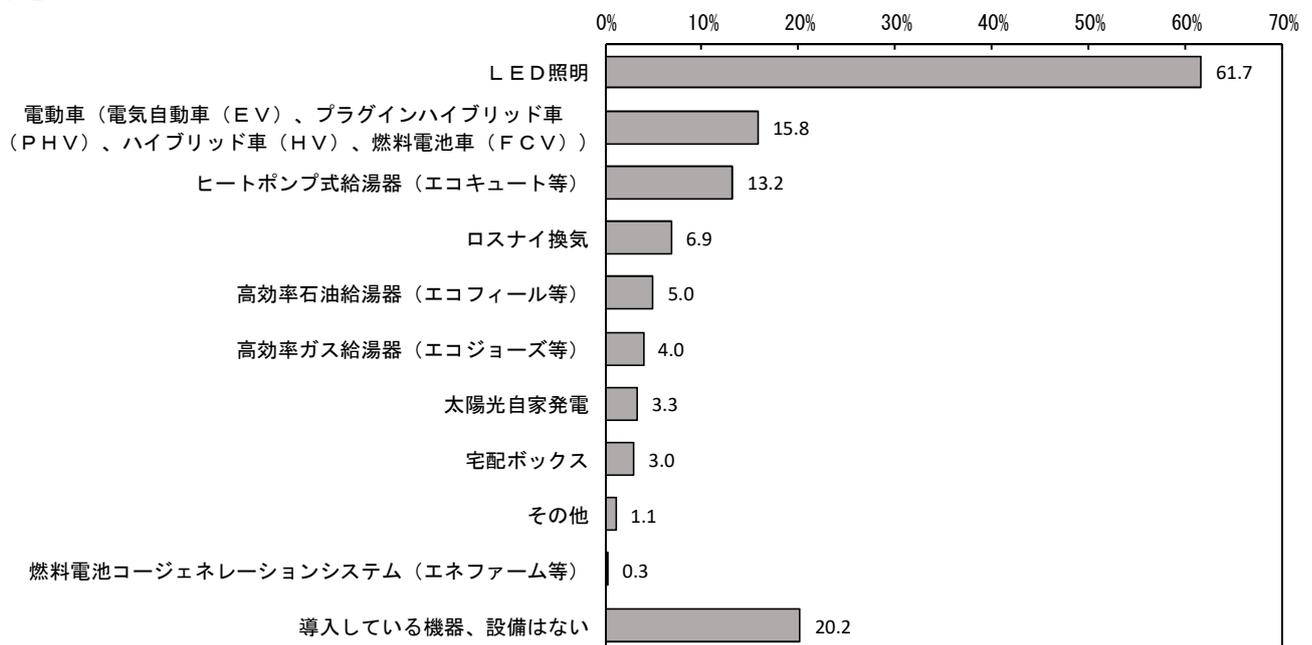
温暖化防止に貢献する機器、設備の導入状況

① 現在持ち家にお住まいの方にお聞きします。あなたが現在お住まいの住居に導入している温暖化防止に貢献する機器、設備は何ですか（〇はいくつでも）。

全体では、「LED照明」の割合が61.7%と最も高く、「電動車（電気自動車（EV）、プラグインハイブリッド車（PHV）、ハイブリッド車（HV）、燃料電池車（FCV）」の15.8%、「ヒートポンプ式給湯器（エコキュート等）」の13.2%と続いている。

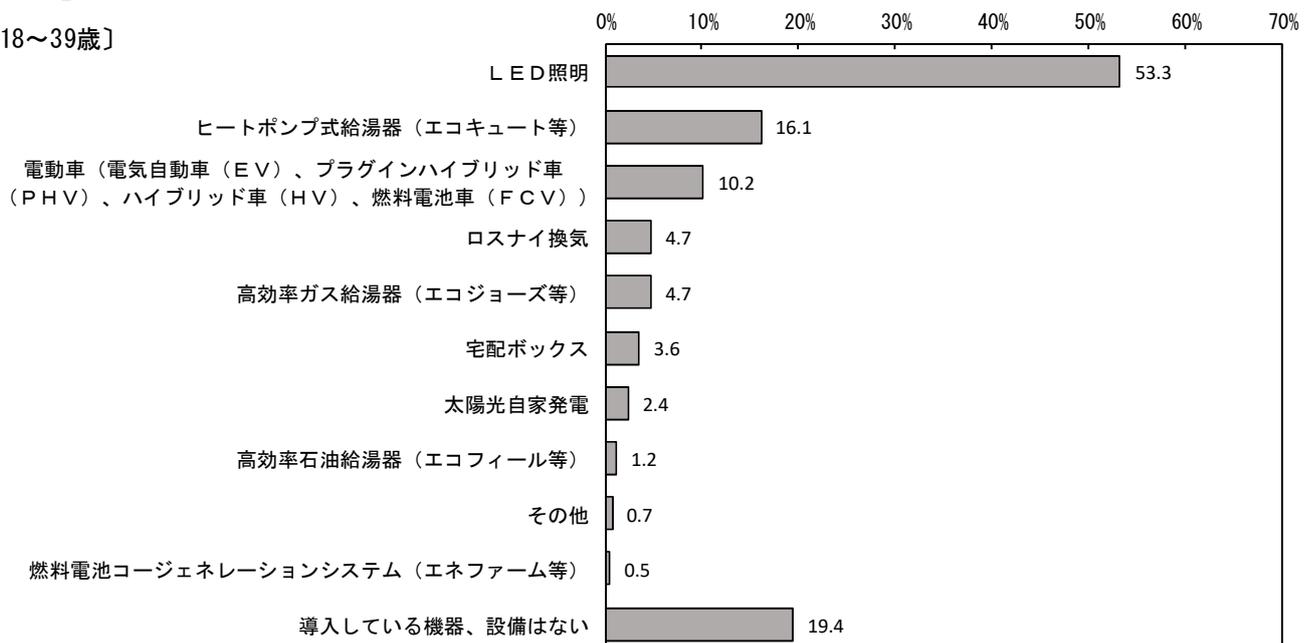
年代別では、全年代共通で「LED照明」の割合が最も高く、「導入している機器、設備はない」の割合は、60歳以上で22.1%と最も高い。

【全体】

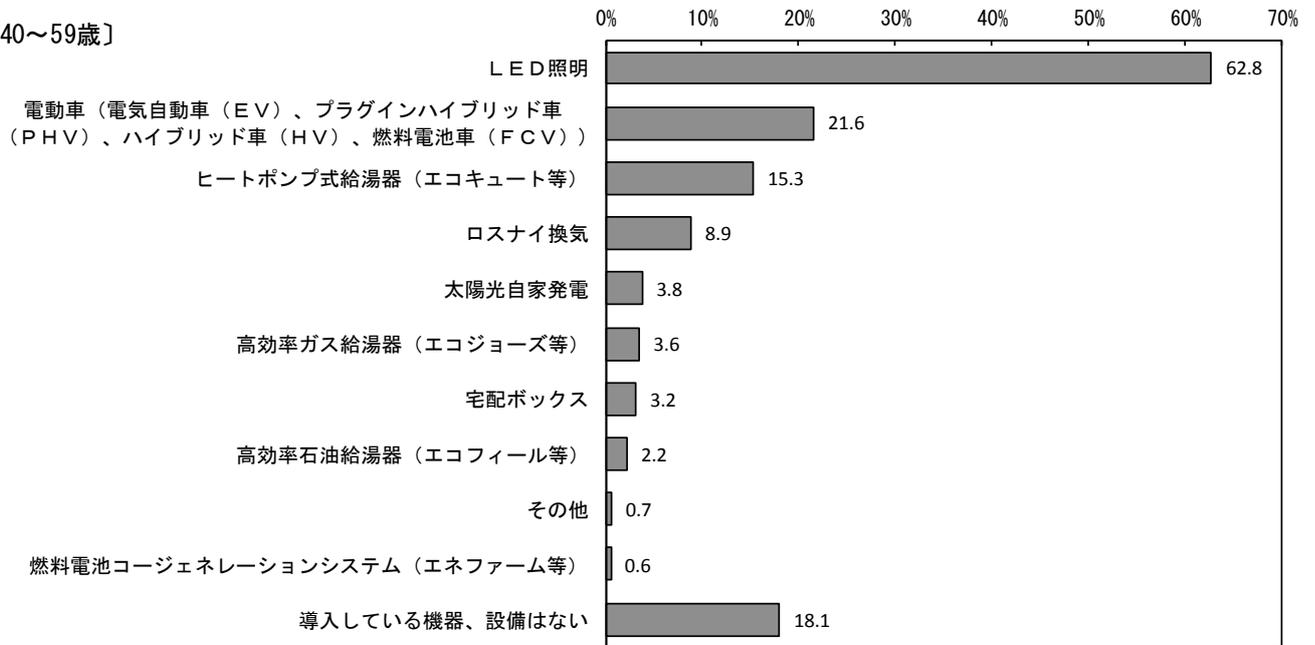


【年代別】

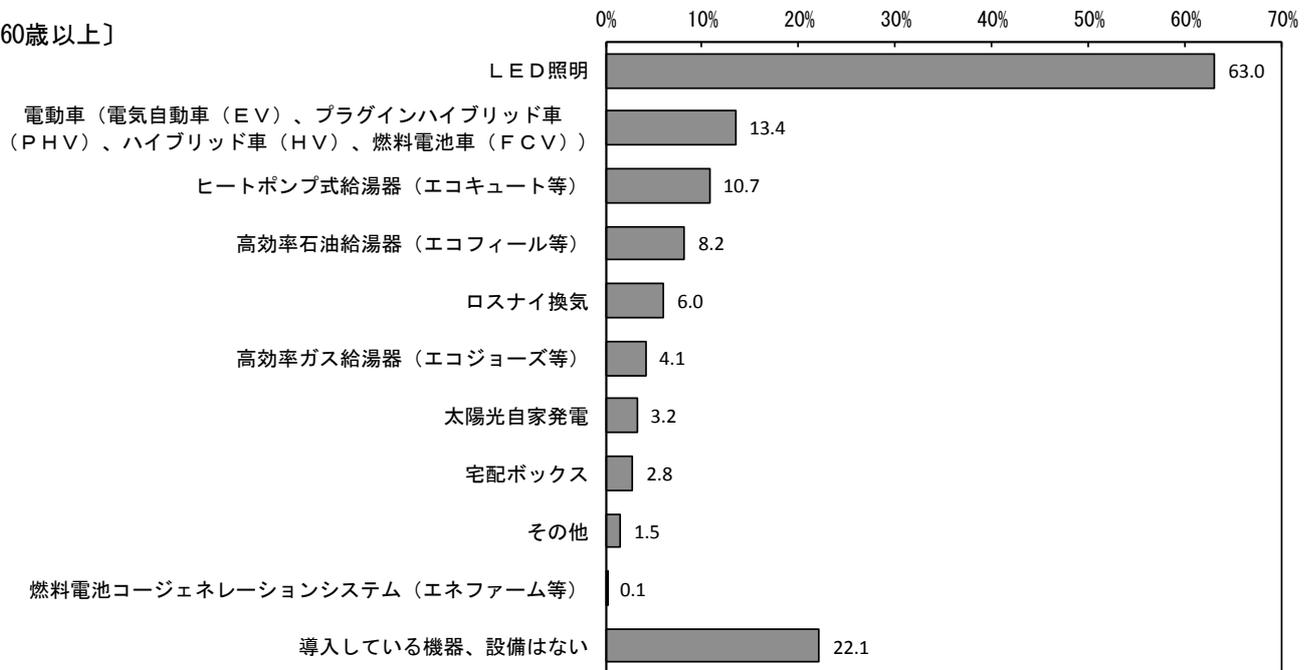
〔18～39歳〕



[40~59歳]



[60歳以上]



10 環境保全活動について

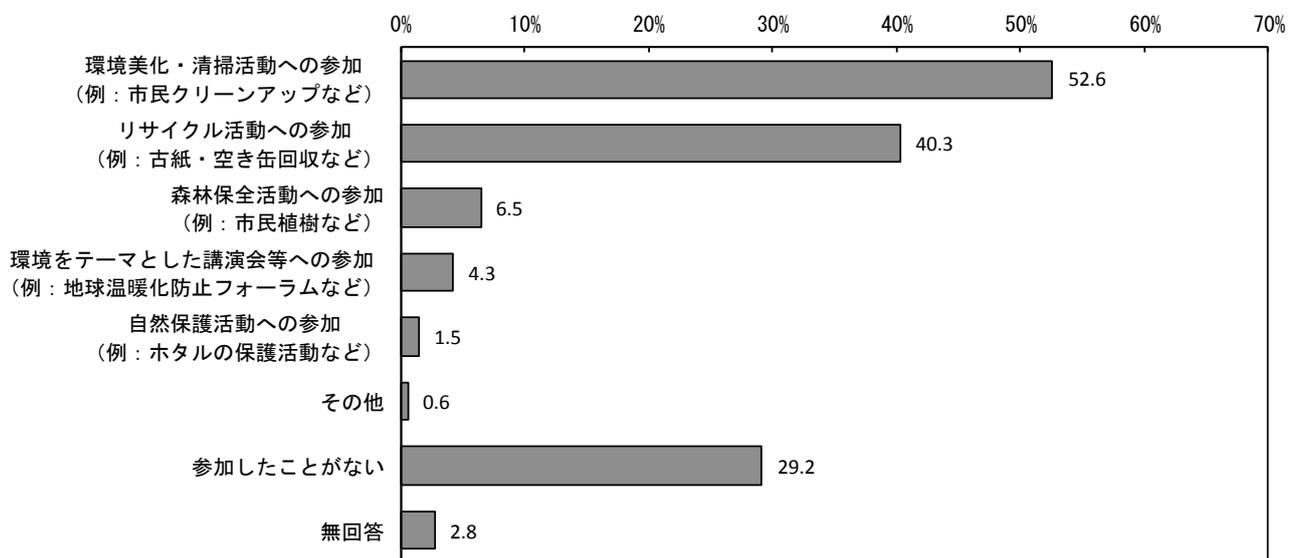
環境保全活動への参加状況

① あなたは、これまで環境保全活動等に参加したことがありますか（〇はいくつでも）。

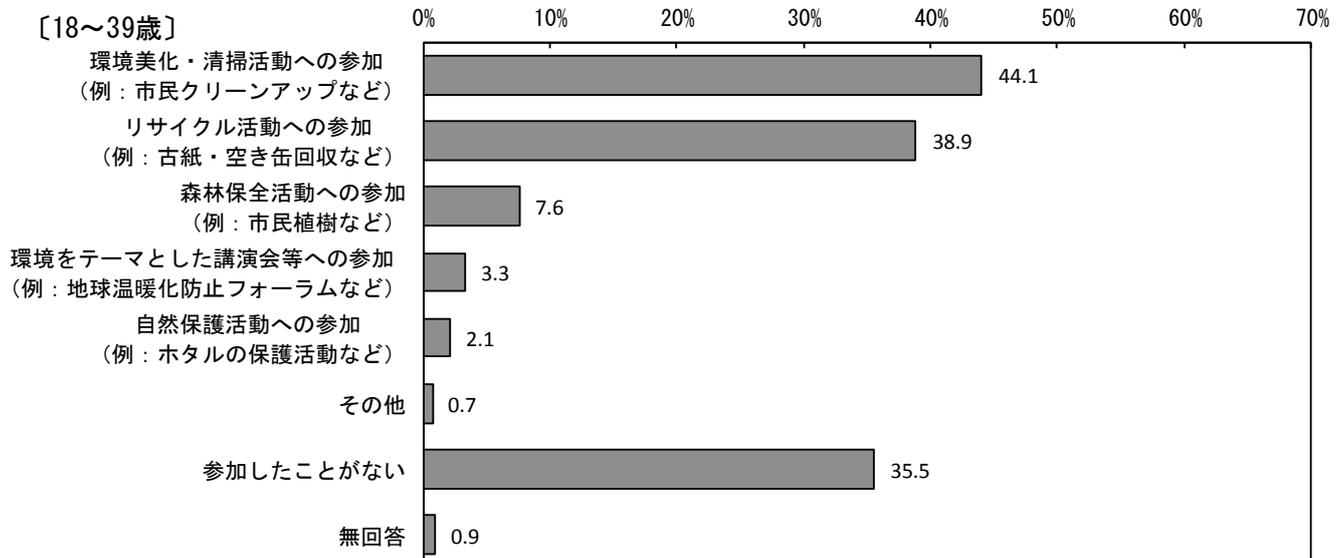
全体では、「環境美化・清掃活動への参加」の割合が 52.6%と最も高く、「リサイクル活動への参加」の 40.3%、「参加したことがない」の 29.2%、「森林保全活動への参加」の 6.5%と続いている。

年代別では、全年代共通で「環境美化・清掃活動への参加」の割合が最も高く、「リサイクル活動への参加」がそれに続いている。また、年代が低くなるにつれて、「参加したことがない」の割合が高くなっている。

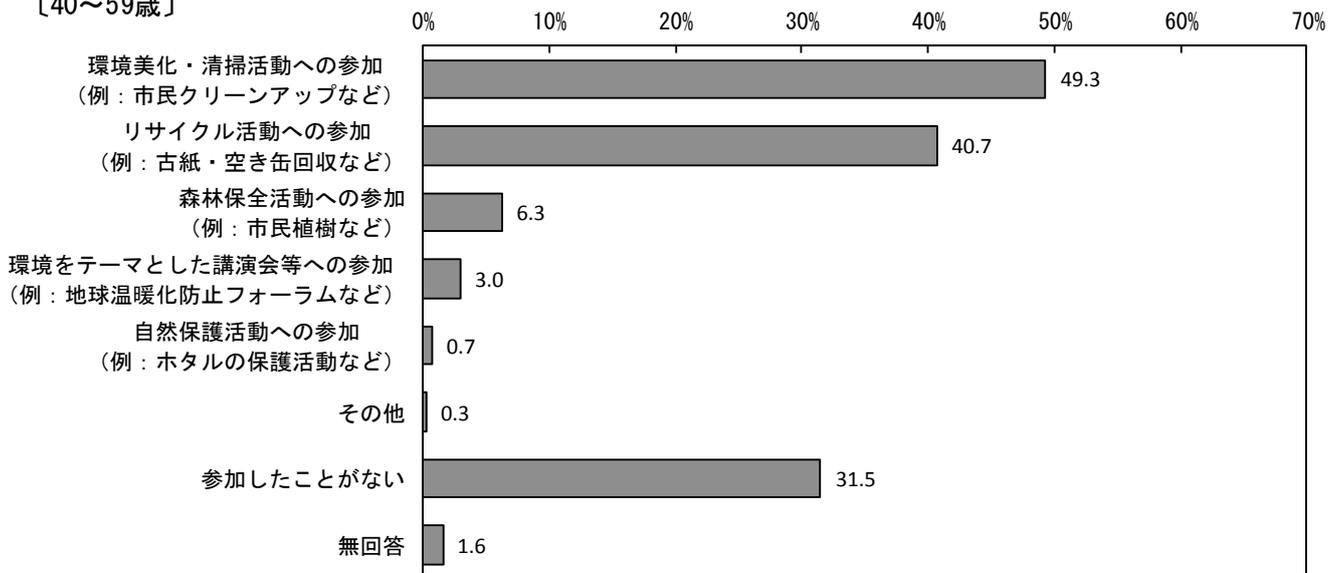
【全体】



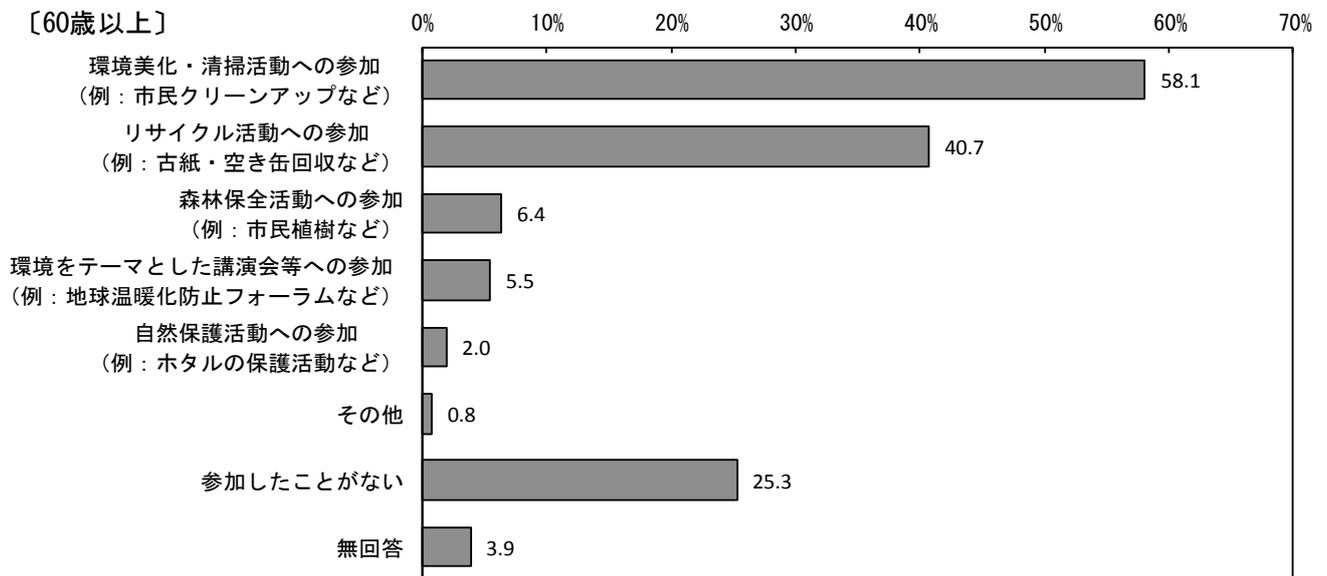
【年代別】



[40~59歳]



[60歳以上]



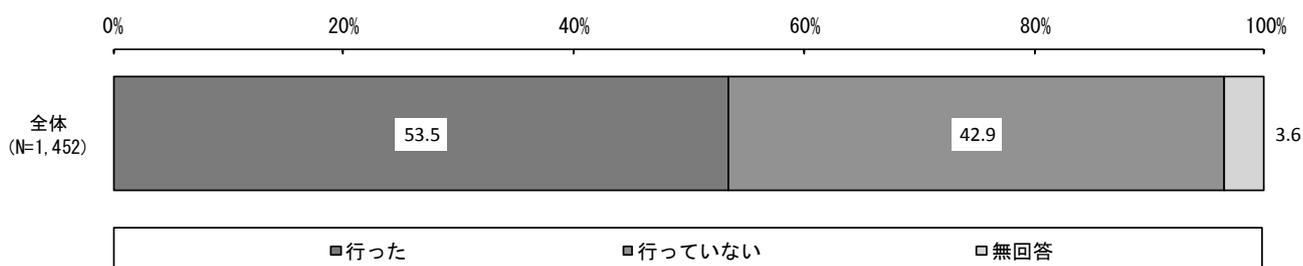
11 高齢者の社会参加について

60歳以上の方の仕事や社会活動等への参加状況（令和2年度）

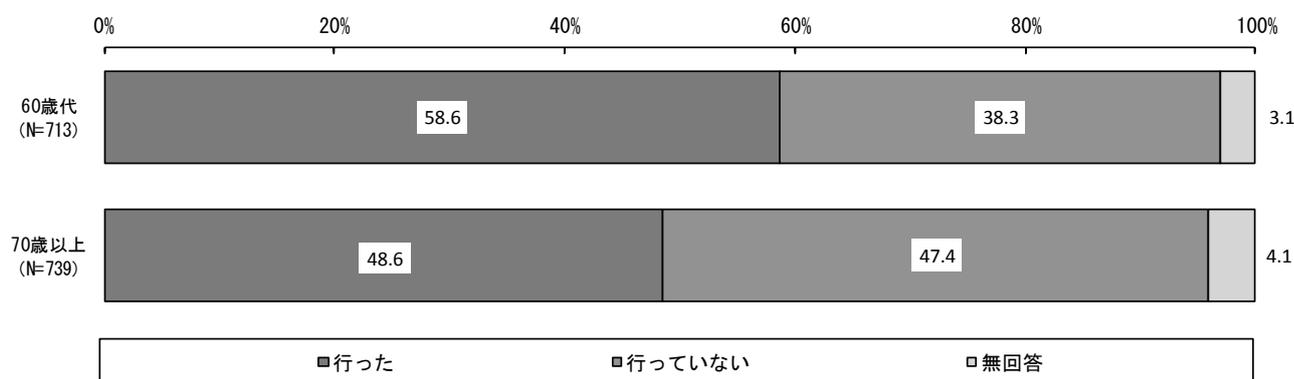
① 60歳以上の方にお聞きします。あなたは、令和2年度に仕事や社会活動等（趣味や健康づくり、生涯学習を含む。）を行いましたか（どちらかに○）。

全体では、「行った」の割合は53.5%で、「行っていない」の割合は42.9%となっている。
年代別では、「行った」の割合は、60歳代で58.6%と70歳以上より高くなっている。

【全体】



【年代別】



12 差別等について

(1) 差別等を感じる機会の有無

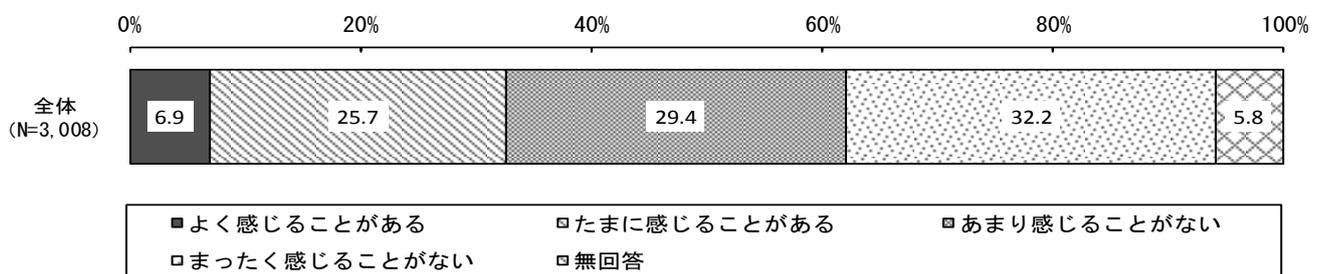
① あなたは、ご自身や身の回りで、差別等を感じるがありますか（○は1つ）。

全体では、「まったく感じることはない」の割合が 32.2%と最も高く、「よく感じることもある」の割合は 6.9%となっている。

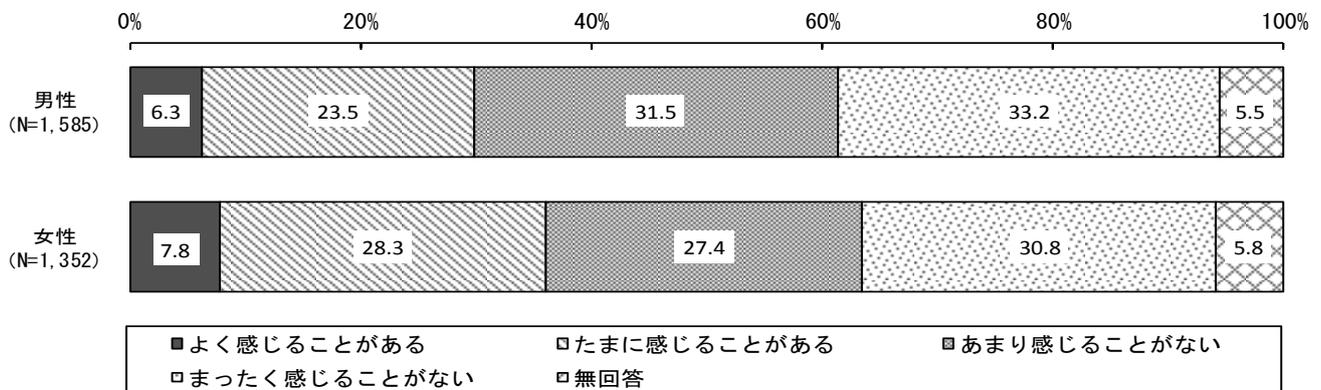
性別では、「まったく感じることはない」の割合が、男性で 33.2%、女性で 30.8%とともに最も高く、「よく感じることもある」の割合は、女性で 7.8%と男性よりも高くなっている。

年代別では、年代が低くなるにつれて、「よく感じることもある」の割合が高くなっている。

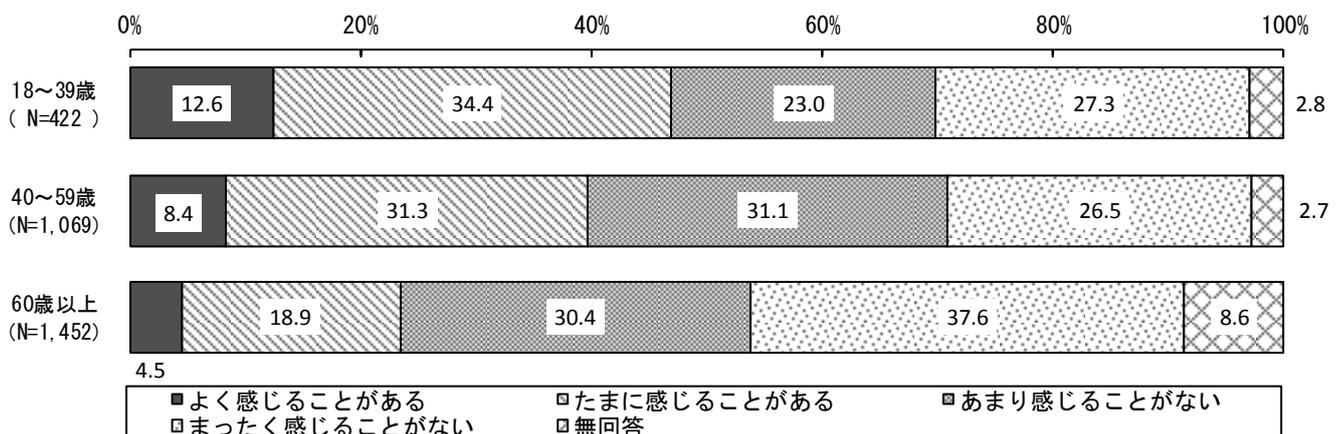
【全体】



【性別】



【年代別】



(2) 感じる差別等の種類

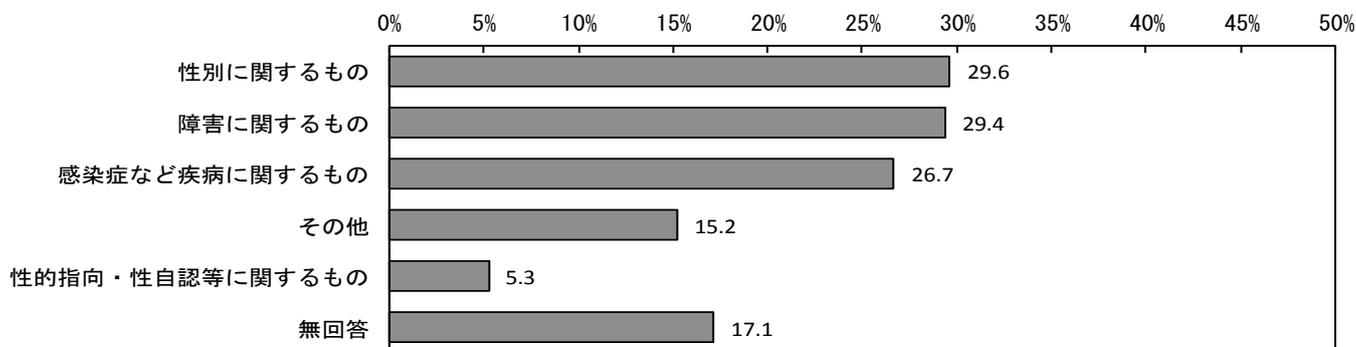
② ①で「よく感じることもある」、「たまに感じることもある」、「あまり感じることはない」を選んだ方にお聞きします。どのような差別等を感じるがありますか（〇はいくつでも）。

全体では、「性別に関するもの」の割合が29.6%と最も高く、「障害に関するもの」の29.4%、「感染症など疾病に関するもの」の26.7%と続いている。

性別では、「障害に関するもの」の割合が、男性で30.9%と最も高く、女性では、「性別に関するもの」の割合が37.9%と最も高くなっている。

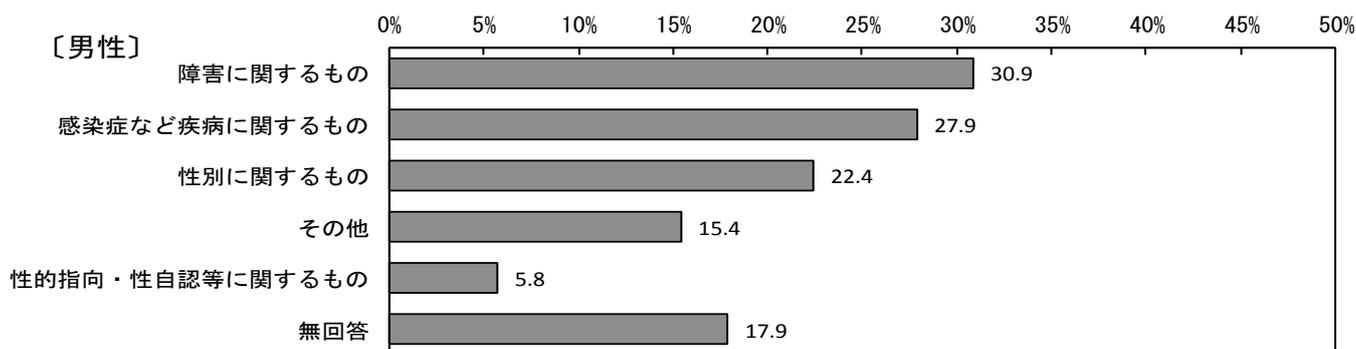
年代別では、「性別に関するもの」の割合は、18～39歳で43.7%、40～59歳で35.0%と最も高く、60歳以上では、「障害に関するもの」の割合が25.7%と最も高くなっている。

【全体】

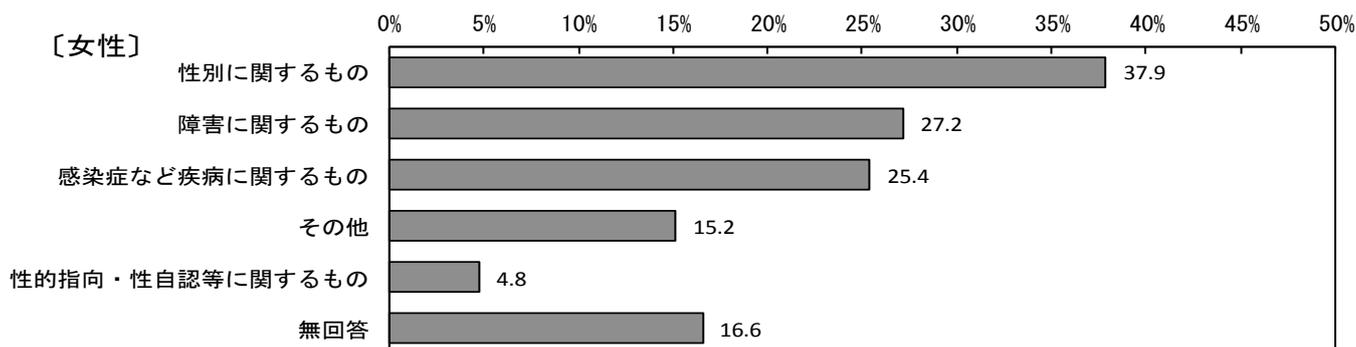


【性別】

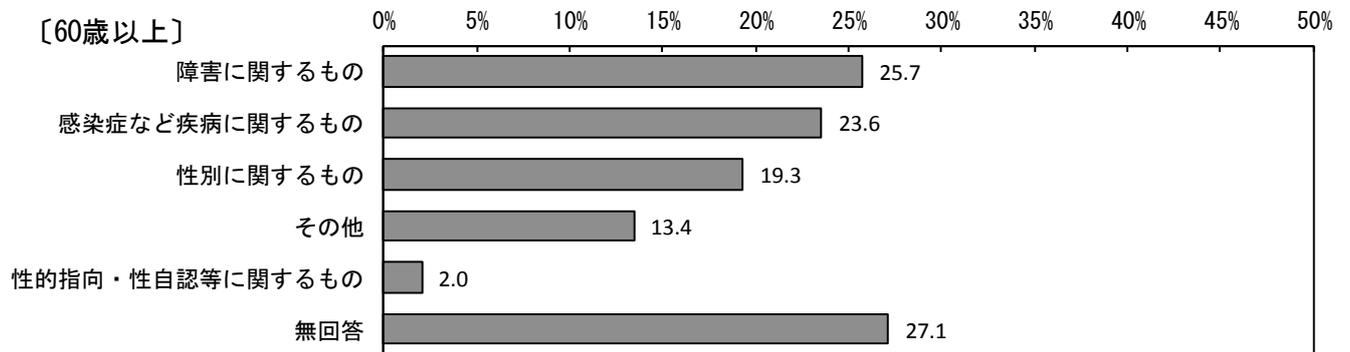
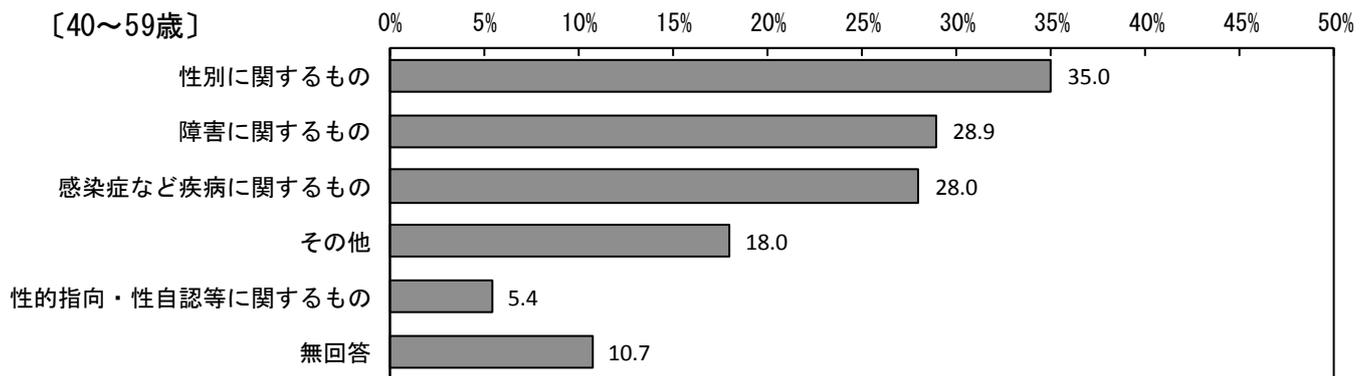
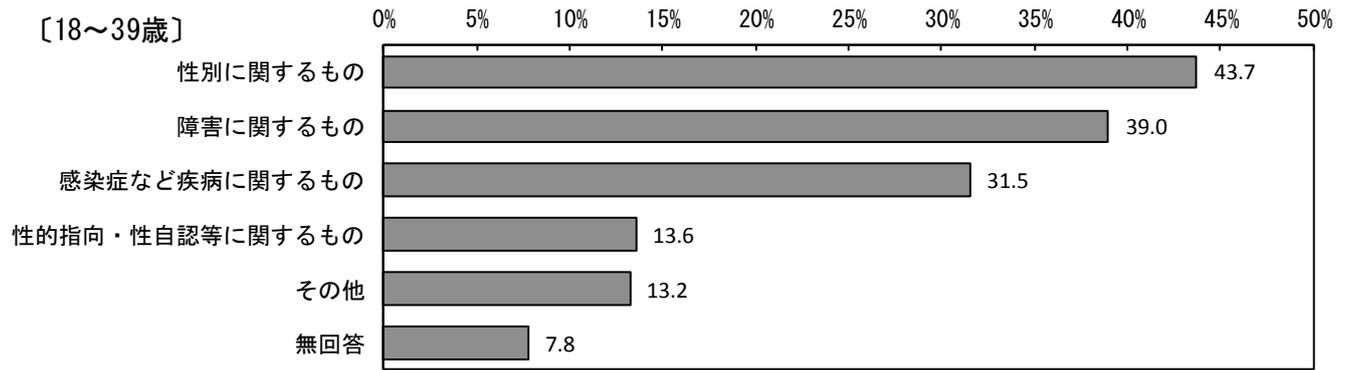
〔男性〕



〔女性〕



【年代別】



第4章 県政への自由意見について

県に力を入れてほしいことや、県が取り組むべきだと思うことについて、何でもお気軽にお聞かせください。(問4)

【集計の方法】

回答は、内容からA～Nの14項目に分類した。同一の回答者が複数の意見を記入している場合には、項目を分けて別意見として扱っている。

1 自由意見の項目別件数

項番	項 目	件数
A	少子化対策・子育て支援・結婚支援に関すること	116
B	移住・定住に関すること	49
C	女性・若者の活躍支援に関すること	68
D	地域社会の維持・活性化に関すること	62
E	商工業・雇用・労働に関すること	172
F	農林水産業に関すること	64
G	観光に関すること	46
H	文化・スポーツに関すること	31
I	道路・交通ネットワークに関すること	89
J	健康・医療・福祉に関すること	116
K	教育に関すること	56
L	県土の保全・防災に関すること	12
M	身近な生活・環境に関すること	56
N	県政全般に対する意見・その他	452
	合 計	1,389

2 主な自由意見

851 人から、1,389 件の意見があった。一部を抜粋して掲載する。誤字等は校正しているため、掲載文は回答の原文とは異なる場合がある。

A 少子化対策・子育て支援・結婚支援に関すること

- 少子化により学校統合が年々増え、地域で子どもの声が聞こえなくなってきた。結婚、出産、子育てへの手厚い支援が必要だと思う。(男性/70 歳以上/秋田地域)
- もっと若者が結婚、出産、子育てのしやすい秋田になってほしい。(男性/60 歳代/山本地域)
- 高齢化社会なのは分かるが、何でも高齢者を優先するのはどうかと思う。若者や子持ちの人たちをもっと優先しないと離れていくし、結婚や子どもを持つ人が増えないと思う。(女性/30 歳代/秋田地域)
- どこの都道府県よりも力を入れた政策を作ってもらわないと、人口減少も少子化も進み続けてしまいます。何年も前からの課題だと思いますが、県民からしてみれば何も変わっていない気がします。1 日でも早く、結果を出していただきたいです。(男性/50 歳代/仙北地域)
- 子どもを望む夫婦に、より手厚い経済的支援を。(女性/40 歳代/山本地域)
- 少子高齢化については、交流の場、出産・育児、教育、就職先、住みよい街づくりなどが関連していると考えます。全部まとめて政策を進めることは難しいと思いますが、一つ一つ丁寧に取り組むことによって、数年、10 数年後の効果に繋げていただければと思います。(男性/40 歳代/秋田地域)
- 少子化・人口減少が進み続け、若者が魅力を感じるものが減るという悪循環を断ち切ってほしい。(女性/40 歳代/平鹿地域)
- 子どもの遊ぶ場（公園など）を多く作ってほしい。(女性/30 歳代/仙北地域)
- 若い人が少なく、結婚を希望してもなかなかできず、この地域も子どもが本当に少ない状況です。このままでは、十何年後は空き家も多くなり集落の存続も難しくなると思います。若い人が地元に残って仕事ができ、結婚して子どもが生まれ活性化した地域になれるよう、各方面から環境づくりをしてほしいと思います。(女性/70 歳以上/仙北地域)
- 結婚や子育てがしやすい県にしてほしい。(女性/50 歳代/雄勝地域)
- 結婚する人が少なければ、子どもも生まれず、少子高齢化が更に進む。子育てをしている家庭でも、給料が少なければ生活していくので精一杯となり、2 人目、3 人目の子どもが欲しいと思っても産み育てていくことができない。子育て世帯への経済的支援を充実してほしい。(女性/50 歳代/平鹿地域)

- 子育て世帯への支援を拡充してほしい。人は減る一方なのに子育てをしているとお金が掛かりすぎて子どもを育てることが難しいと思うことが多々あります。(男性/30歳代/秋田地域)
- 保育所などを手軽に利用できる環境があれば、いろんな可能性があると思う。子どもがいるだけで不自由に感じてしまう。(女性/20歳代/北秋田地域)

B 移住・定住に関すること

- リモートワークやワーケーションの誘致をもっと充実させてほしい。秋田県内に住みながら県外の企業の仕事ができる環境があれば、秋田県に住みたいと思う人はそれなりにいると思います。(女性/30歳代/秋田地域)
- コロナ禍で都会が大変な時こそ、田舎の密にならない環境を全面に打ち出して移住を売り込んでほしい。衣食住と引越などをセットで支援する事業予算を組むべき。アイデアを県から企業に提案して、仕事を生み出してほしい。(女性/30歳代/由利地域)
- 人口減少が著しい秋田県にとって、若い人たちを秋田にとどめておくことや県外へ進学した人が秋田に戻ってきたいと思えるように対策していくことが必要だと思う。(男性/20歳代/由利地域)
- コロナ禍において地方移住の機運が高まっています。秋田の魅力や良さを他の地域の発信力に負けずにアピールし続けていくことが重要ではないかと思います。地域の人が秋田の魅力や良さを理解し、一人ひとりが秋田を宣伝していく取組が必要だと思います。SNSでの発信等を地域に偏りのある形ではなく全县を挙げて取り組んでいけるような活動のサポートを県として行ってほしいものです。(女性/50歳代/秋田地域)
- 県外就職した若い人達が、秋田の魅力を再確認して、今まで勉強したこと、経験したことをふるさと秋田に戻って生かせる職場を確保してほしいです。(女性/60歳代/秋田地域)
- 子どもたちが将来秋田に住みたいと思ってくれるといいなと考えています。私は一度秋田を離れましたが、やっぱり秋田が良いと思い戻ってきたからです。(女性/50歳代/鹿角地域)
- 一度、地元を離れても、また戻ってきたくなるような魅力ある県、市であってほしいです。若者にも魅力が伝わってほしいです。(女性/50歳代/雄勝地域)
- 秋田県の若者がどうして県外へ行ってしまうのか、現役の高校生、大学生にアンケート等をして意見を聞いてほしい。いくら子育てに予算をかけても、県外に行ってしまうのは県の努力も無駄になる。(男性/60歳代/由利地域)

C 女性・若者の活躍支援に関すること

- 若者と女性に秋田に住むことをあまり勧められないのが現状だと思います。(女性／50 歳代／秋田地域)
- 事態が大きく変化している現在、若者や女性の社会参画を県をあげて促してほしい。(女性／60 歳代／北秋田地域)
- 人口減少が多方面で影響を及ぼし、活力をなくす原因につながっているように思います。若者が秋田に帰り活躍できる場を望みます。(男性／60 歳代／雄勝地域)
- 社会でも家庭内でも男女の地位の差があると思う。しかし、秋田県には女性のための教養講座や著名な女性の講演会などがないのも事実。文化向上のためにも女性が活躍できる機会を作ってほしい。(女性／70 歳以上／秋田地域)
- 若者に魅力的な県にしてほしいです。雇用やイベントを増やして。(女性／10 歳代／秋田地域)
- 男女共同参画について、「男は仕事、女は家事」という考え方ではなく、はじめから男女共に仕事も家庭も協力して取り組むスタンスの方が良いと思う。その点でモヤモヤしている女性はたくさんいると思います。(女性／30 歳代／秋田地域)

D 地域社会の維持・活性化に関すること

- 若者の力を取り込み、地域で活躍している方々を支援することで、地域に関わる活動に参加できる人達を増やすきっかけにはなると思います。(女性／50 歳代／秋田地域)
- 高齢者が生き生きと社会参加できるような施設を更に充実させてほしいと思います。(男性／60 歳代／平鹿地域)
- 企業のダイバーシティ化をはじめ、賃金を関東並みにし、若者に魅力ある県と思わせる必要がある。そのためには企業のIT化や交通網の発達、娯楽施設の誘致を進め、地域の活性化を目指さなければいけない。(男性／20 歳代／由利地域)
- 田舎から若者が出て行き高齢者が残っている。田舎の良い点を導き、見直してほしい。(男性／60 歳代／秋田地域)
- 老若男女問わず、人口が増えて活気のある秋田になってほしいと思います。(女性／50 歳代／仙北地域)

- 東京のように遊ぶ場所をつくれというのは無理だが、秋田という土地を生かしたイベントや教育等を充実させてほしい。最新の技術を生かしたら、秋田でもできることが増えるのではないか。(男性／40 歳代／秋田地域)
- 人口減少は止まらないと思うので、早めにコンパクトシティ化を。(男性／40 歳代／秋田地域)

E 商工業・雇用・労働に関すること

- 若者が進学してそのまま就職先を県内で探せるようにしてほしい。(女性／10 歳代／鹿角地域)
- もっと若者が働ける場を増やしてほしいです。(女性／40 歳代／山本地域)
- 人口増加のため、雇用促進が必要だと考える。そのため、魅力のある企業を誘致してほしい。(男性／20 歳代／由利地域)
- 環境にとらわれない情報産業（IT、AI）に特化すれば、移住者も増え優秀な人材を確保でき、秋田県が潤うのではないかと思います。(女性／40 歳代／秋田地域)
- 県内に県外企業の誘致を数多くしてほしいです。やりがいのある企業が増えると若者が定着してくれます。何もない秋田だと人が出て行きます。今の秋田に魅力がないです。(女性／40 歳代／仙北地域)
- ベンチャー企業や個人企業育成のための助成金。(男性／30 歳代／平鹿地域)
- 雇用環境の整備が一番の課題。まず最低賃金、時給が安すぎる。これでは若者や優秀な人材は都会の企業に流れて当然です。労働条件の改善が必要である。正社員の仕事が少ない、契約社員や嘱託社員ばかりでは結婚しても安心して出産、子育てはできない。育休を取らずに職場復帰しなければならないことから、2人目、3人目につながらず、少子化は進む一方だと思う。もう少し県民の収入が増えるように頑張っていたきたい。(女性／40 歳代／平鹿地域)
- 全国でも最下位にある秋田の賃金（特に時給）を改善してほしい。秋田から若者が流出してしまう理由の一つには、大都市圏との賃金格差があると思う。働く者が毎日笑顔で仕事に取り組めるよう県にも力を入れてほしい。(女性／50 歳代／秋田地域)
- 若者が意欲を持って働ける職場があることが大切だと思います。家族を養える十分な賃金をもらえて、安心して生活できる環境が整っていれば、おのずと若者が増えていくと思います。(男性／60 歳代／北秋田地域)
- 若い人達が「秋田はいい所だやー、け！」と都会の人に胸を張って言える企業があればいい。(女性／60 歳代／秋田地域)

- 土地を無償で提供するなどにより、大手企業を誘致して若者が安心して働ける雇用を確保し、秋田県の人口減少と未来のために取り組んでいただきたい。(男性/60歳代/山本地域)
- 県内の大学が少なく、どうしても都会に進学するし、職場も少ないので地元には帰ってきません。もっと若者が残って「働きたい」秋田県づくりをお願いします。(女性/60歳代/平鹿地域)
- 雇用先を増やすことにつながる起業をもっと促していくべきだ。若者はやりたい仕事がないと秋田を出て行くが、秋田で自分がやりたい仕事をつくり、自分で担っていくようなたくましさを是非養ってほしい。起業する人を支援する助成やアドバイスを受けられる場、交流する場をつくって、起業の増加につなげてほしい。県外に就職した人がAターンをして一度培った技術を秋田で生かせるような状況も是非つくってほしい。(男性/30歳代/秋田地域)
- 企業の誘致の重要性も認識していますが、地元の企業が成長できるような取組がもっとあれば良いと思います。(男性/40歳代/秋田地域)
- 農林水産業の法人化を促し、法人の収益の向上により従事者の所得向上や人材の確保につなげるとともに、その他産業においても県内からの収益の吸収を強めるなどにより、基礎賃金の向上を図る施策を期待したいと思います。県内出身者の生え抜きでは今後県内産業の成長は疎か維持も難しいと捉えていただき、有能な人材の確保に向けた施策を打ち出していただきたいと思います。(男性/40歳代/平鹿地域)
- 若者にとって魅力のあるサラリーの良い企業の誘致や仕事の創出を支援してもらいたい。(女性/50歳代/秋田地域)
- 県内の所得向上のため企業誘致が必要だ。なぜ秋田にこないのか真剣に考え、出来ること、出来ないことを整理し向上を目指すべきだ。(男性/60歳代/秋田地域)
- 県民の所得の向上に努めてほしい。(男性/70歳以上/秋田地域)

F 農林水産業に関すること

- 農業に従事している方の高齢化が深刻であると思う。担い手の確保が急がれると思うし、農作物も、育てやすい品種や収益の上がる品種への改良であるとか、6次産業化で若い人が従事しやすい環境づくりが一層必要のように思う。(女性/50歳代/山本地域)
- 農業県である秋田は6次産業化を進める必要があるが、ほぼ小規模企業体であり、大きな需要に対応できないことが多い。農林水産業の就業を促進させるためにも付加価値のある農産物を製造し売り出すことが必要。(男性/40歳代/秋田地域)

- 農業県なので、若い人にもっと農業に関心をもってもらえるよう、農産物のブランド化をすすめるなど、農業の魅力を高める必要がある。(男性／30 歳代／山本地域)
- オーガニック食材に力を入れてほしい。またそれを県内で消費できる販路を充実してほしい。秋田の良さを生かし、食が安全で自然が豊かであることや、病気が治る県として売り出していけば人工的な物を増やすことなく過疎化を防げると思う。余った土地や放棄された土地を貸し出すなど、オーガニック農家へ支援を充実させてみてはどうでしょう。農業県として再出発し、魅力ある県として発展してほしい。(性別不明／年代不明／居住地域不明)
- 農山村地域に住んでいますが、若い層の就農に可能性を感じます。若い人たちが農業で将来の安定した生活を見通せるような政策に力を入れてほしいと思います。(男性／30 歳代／仙北地域)
- サキホコレのような新品種ブランド米など秋田を代表するものが県外にアピールできるようになってほしい。(男性／40 歳代／仙北地域)

G 観光に関すること

- 自慢の出来る飲食があっても秋田はアピールがとても下手。(女性／50 歳代／秋田地域)
- 新型コロナウイルス収束後も観光業、飲食業界を後押しするような施策に取り組むべきと思う。(男性／60 歳代／仙北地域)
- これからの若い人たちや子どもたちに県の特産品や工芸などを体験する機会(体験会、味わう会)を増やして秋田をPRしてほしい。(女性／50 歳代／雄勝地域)
- 新型コロナウイルスが収束したら県外・国外からたくさん観光に来てくれると良いなと思います。そのときに秋田の良さを十分にPRできるよういろいろ準備していきたいものですね。(女性／20 歳代／平鹿地域)
- 県内はもちろんだが、県外からも集客できるような場所、施設等が少ないと思うので増やす取組をした方が良いと思います。(男性／40 歳代／北秋田地域)

H 文化・スポーツに関すること

- プロスポーツは地域を元気にする力があると思います。今までバスケやサッカーなどに触れてこなかった人や、興味がない高齢者などを取り込み、活力にしてもらいたい。(男性／30 歳代／平鹿地域)

- スポーツ立県についてはプロスポーツの活躍が活気付けていますが、アマチュアスポーツではアスリートが県外に流出しています。魅力ある指導者、チームの育成に県民あげて取り組む必要があると思います。(男性/60歳代/雄勝地域)
- 文化芸術活動への支援、助成。(男性/60歳代/北秋田地域)
- 個人で自由に参加して楽しめる文化活動などに期待しています。(男性/60歳代/平鹿地域)
- 大イベントやコンサート、フェスなどを中心に数多くやってほしいです。(女性/40歳代/仙北地域)

I 道路・交通ネットワークに関すること

- 素晴らしい観光地がたくさんあるのに、一つ一つの距離が遠いため、自家用車やレンタカーがないと周れない。一泊二日でも秋田をある程度満喫できる交通の利便性がほしい。(女性/40歳代/秋田地域)
- 高齢による運転免許返納後の交通手段の確保が難しく、病院、買い物等生活を維持していく上での移動ツールがなくなる。秋田市などの大きな市であれば、ある程度充足されていると思うが、地方では益々衰退していく。(男性/60歳代/仙北地域)
- 学校からの帰り道に街灯がなく、とても暗い道を弟が一人で自転車で帰ってくるのがとても心配であり、もっと街灯を増やしてほしい。(女性/10歳代/北秋田地域)
- 車が必要な人に対して優しい行政サービスの提供をお願いします。現在、バスが2、3時間に1本しかなく乗ることができません。(女性/70歳以上/山本地域)
- 自転車、歩行者それぞれがわかりやすいように通行範囲を色分けするなどした歩道を整備してほしい。(女性/30歳代/秋田地域)
- Suicaの使用が可能となるインフラ整備など、若者にとって都会と同等の生活ができる環境が必要だと思います。(性別不明/年代不明/居住地域不明)
- 秋田新幹線の高速化に向けて、新仙岩トンネルの整備に早急に取り組んでほしい。(男性/30歳代/秋田地域)

J 健康・医療・福祉に関すること

- 今は何よりもコロナへの対応を優先しなければならない。(男性/60歳代/由利地域)

- 県内の病院で誰もが安心して子どもを産めるよう、若い人のために真剣に考えてほしい。(男性／70 歳以上／秋田地域)
- 所得が低くても、安全安心な生活が送れるように、高齢者が希望すれば入所できる施設を増やす。特に、秋田県は高齢者の割合が高いので、早く手を打たなければならない。(男性／40 歳代／秋田地域)
- 福祉分野で仕事に携わっている立場から人材不足に悩んでいます。スタッフが不足している状況がずっと変わらず、現場のスタッフの負担は増えており、離職につながる要因になるのではと思います。また、管理者も 100%現場に入っており、求人活動等に動く余裕がないというのが現状です。(女性／40 歳代／秋田地域)
- 私達保育士だけでなく、看護師、介護士など、なくてはならない職種でありながら求人を出しても職員の確保ができない状況です。保育士が足りず理想的な保育が難しくなっています。県独自で保育士確保につながる手当の支給などはできないのでしょうか。(女性／40 歳代／仙北地域)
- 介護施設を充実させるとともに、介護の今後の県の対策などについて、県民に対し定期的に広報していただきたい。(男性／60 歳代／秋田地域)
- 18 歳未満の子どもや定期的に病院で診察する人にもっと助成がほしいです。金額が高すぎて医療を受けられない方が減るとうれしいです。(女性／30 歳代／北秋田地域)
- 秋田市以外の市町村にもっと高度な医療を受けられる病院があればいいと思う。高齢化が最も進んでいる秋田県であるのに十分な医療提供の場が少ないと思う。病院から病院への移動は患者に負担がかかるし、病状の悪化の可能性もあると思うので医療の場を増やしてほしい。(女性／20 歳代／北秋田地域)
- コロナ禍のもと医療体制の充実が切実な問題。医療の地域間格差をなくしてほしい。(女性／50 歳代／雄勝地域)
- 不妊治療にもっと力を入れてください。不妊治療をしている夫婦はなかなか周囲には言えず 2 人または 1 人で苦しんでいる人が多いと思います。金銭面ではもちろん、不妊治療をするには職場にも迷惑がかかると思って言い出せないものです。何年も何十年も頑張ってもダメで歳だからと諦める人もいます。費用もかなりかかるので諦めなければならないという人もいます。(男性／40 歳代／平鹿地域)
- 介護従事者は、休みも曜日に関係なく、働く時間が不規則で人との交流も少なく大変であるにもかかわらず、給料は一般の会社より安い。結婚適齢期になっても、結婚出来ない人が多いのは、それが原因だと思う。介護職についてのアンケートを実施してほしいです。本人の意見と第三者の意見を聞いて、環境を改善し、婚姻率を上げて人口増につなげてほしいと思います。(女性／60 歳代／秋田地域)
- 県のコロナ情報をもっと視覚に訴える分かりやすいつくりにしてほしい。(男性／40 歳代／秋田地域)

- 難しいとは思いますが、特定疾患でもなく、障害手帳等の基準にも満たない持病によって働けない人や、身体的に短時間なら働くことができる人等も、自立して生活できる街になってほしいです。(女性／20歳代／北秋田地域)

K 教育に関すること

- 新しい人を受け入れる柔軟性のある考え方をするためには、小さい子どもの頃の育て方、環境が大事だと思います。高齢者の多い秋田県ですが、その高齢者を守るためにも小さい子どもへの教育、若い人への配慮にも力を入れていただきたい。(女性／50歳代／秋田地域)
- 資格が取りやすい環境や学校教育の充実。(女性／40歳代／由利地域)
- 豊かな人間性を育む教育、地域に合った学校教育の支援をお願いします。(男性／60歳代／山本地域)
- 小・中・高校生に対する職場体験授業をもっと増やし、県内にどのような仕事があるか知ってほしい。県内に残る子ども達も増えるのではないかと。(女性／60歳代／秋田地域)
- 子どもたちがどこにいても安心して過ごせるように、住むところによって格差が生まれない秋田県であることを望みます。子どもが高校生になる頃には、入学したいと思う高校が統合によって近くにないかもしれない。少子化では仕方のないことのように感じますが、なんとかできないものかと悩ましいものです。(女性／30歳代／仙北地域)

L 県土の保全・防災に関すること

- 県内の市町村も含め、災害関係のハザードマップは、色覚障害（色弱等）に対応していただでしょうか。(男性／50歳代／由利地域)
- 近年の異常気象により水害が多く発生している県内の河川の抜本的な対策がなされていないのではないかと。市町村と共に洪水対策の必要があります。(男性／70歳以上／秋田地域)
- これからも起こるであろう様々な災害に迅速に対応できるよう努めてほしい。(男性／60歳代／由利地域)
- 洪水の度に避難の準備を行っている状態です。1級河川以外にも目を向けてほしいです。異常気象による大雨が多く、気が休まらない状態です。(男性／60歳代／仙北地域)
- 河川の流木撤去や立ち木の伐採も行っているようだが、大雨に備えた維持管理工事をお願いしたい。(男性／40歳代／由利地域)

M 身近な生活・環境に関すること

- 高齢者の免許返納が進むように、交通の利便性の向上や、返納された方への特典の充実などに力を入れてほしいです。(女性/20歳代/秋田地域)
- 雪国でも安心して生活できる県であってほしい。(買物、家の雪おろし、家のまわりの除雪の心配のない暮らし)(女性/50歳代/雄勝地域)
- クマ対策に早急に取り組んでほしい。毎年、被害や目撃情報が出ているのに対策が遅れていると思う。クマが怖いので観光地にも出かけたくない。友人、親戚が来た時に安心して観光地に案内できるよう、今まで以上の対策をお願いします。(女性/60歳代/秋田地域)
- 夜の歩行者や自転車に乗っている人が、車のライトから反射する物を身につけて安全を確保できるよう、対策を強化してほしい。(女性/70歳以上/秋田地域)

N 県政全般に対する意見・その他

- 秋田県を良くするためには秋田県で暮らす私たちがもっと興味を持ち、みんなが同じ方向を目指すことが大切。「秋田なんて何もない」なんて言っていること自体がだめ。秋田の良さをもっと外へPRしていくべきです。(女性/40歳代/秋田地域)
- 県人口の減少が著しい。何が原因なのか役所目線ではなく、県民の立場からしっかりと把握し、対策を早急に打つべきだ。(男性/70歳以上/雄勝地域)
- 人口は多い方が活気があって良いかもしれないが、少ない中でも安心して暮らせる方法に切り替えて、秋田らしいと全国の方々に思ってもらえる事もあってよいのではないのでしょうか。(男性/70歳以上/鹿角地域)
- 森林を切り倒してまで風力発電や太陽光発電に取り組む必要があるのかと思うほど乱立しているように感じる。度が過ぎるほど建設する必要はないかと思う。(男性/40歳代/山本地域)
- 洋上風力発電所を秋田沖に設置するのであれば最大限県民の利益になるように取り組んでください。(男性/50歳代/秋田地域)
- 地方へ人が帰ってこれるような政策を展開するよう、全国の自治体が一丸となって国に訴えてほしい。今が色々な意味でチャンスです。その先陣を切る覚悟をもって秋田県は臨んでほしいと思います。この地域は観光資源・エネルギー資源・食料資源・文化資源・そして人の魅力資源等含めたくさんの魅力に溢れています。そのポテンシャルを存分に発揮できる県政を望みます。(男性/60歳代/北秋田地域)

- 人口流出や出生率の低下、それに伴う高齢化は当たり前のことですし、秋田県でこれから先、人口が増えることはないと思います。今いる子ども達を大切に、秋田県でこれからも生きていこうと思えるよう、支援をお願いします。(女性/40歳代/仙北地域)
- 若者が遊べる施設を増やしてほしい。(女性/20歳代/秋田地域)
- 秋田県の人口減少は今後の大きな課題、対策を切に願います。人口流出は県に魅力がないからなのではないか。賃金の面でも他県に比べ残念です。(性別不明/年代不明/居住地域不明)
- 若い人達の声をもっと聞き入れたらと思います。秋田県は何に対しても下位にいるので、田舎のイメージをなくし、活気にあふれた県になってくれるよう若者達へ期待します。(女性/50歳代/仙北地域)
- コロナ禍における弱者へのいじめ、貧困、子どもへの虐待など心が痛むことがない日々を望んでいます。(女性/60歳代/秋田地域)
- LGBT差別の撲滅に力を入れ、パートナーシップ制度の導入を早急に進めて秋田の活性化に努めてほしい。(女性/60歳代/平鹿地域)
- 秋田市一点に集中している。人口の差があるが県北と県南にも分散できる場所はしてほしい。(女性/60歳代/北秋田地域)
- 県のスローガンがほしい。かつて美の国秋田というものがあつたが果たして全国に通用したか。もっと長期に続けていけるものがほしい。県民がすぐ口に出るもので、大風呂敷と言われようが揶揄されようが大きく目立つものもいい。(女性/60歳代/鹿角地域)
- 格差のない社会づくり。(女性/60歳代/北秋田地域)
- 秋田の産業をもっとPRして、販売につなげてほしい。(男性/70歳以上/秋田地域)
- もっと立場の低い人やお金がない人々に目を向けてもらいたい。(女性/30歳代/仙北地域)
- 今の時代リモートでの仕事も増えてきているので、ネットワーク環境を整えるべきだと思います。(男性/20歳代/平鹿地域)
- ICTを活用した便利な暮らしを理想としているものの、そのような分野が苦手な人にもわかりやすいシステムになるといいなと思います。(女性/40歳代/仙北地域)
- 仕事で県外にいるが近隣の県と比べても交通、働き場所、アピールなど全てにおいて遅れている。考え方を根本的に変えたほうがいいのか。(女性/50歳代/由利地域)

- 秋田は良い所がたくさんあるのに、PRの仕方が本当にヘタだと思います。若者の県外流出防止、秋田の活性化、高齢者が住み慣れた所にいたいなど、全部クリアするのは大変かと思いますが、もっと秋田の良さを全国に伝えてほしいです。秋田の良いニュースが全国で流れるのを期待しています。(女性／30歳代／秋田地域)

- 費用対効果と言われますが、効果が悪くても費用を使わなければいけないことが沢山あると思います。医療、公共交通、教育等、効率だけで済まないことが多いと思いますので、県民全てが同様のサービスを受けられるようお願いしたいです。(女性／60歳代／雄勝地域)

- デジタル化など時代の流れを汲んだ県政運営であってほしい。(男性／20歳代／由利地域)

- コロナ禍の今、人口の多い都会で感染に怯えながら暮らすより田舎で豊かに穏やかに暮らす生き方に注目が集まっている。秋田も何かをきっかけに発展するような施策を期待したい。(男性／30歳代／秋田地域)

付属資料：調査票

令和3年度 県民意識調査

令和3年5月

調 査 票

【調査の目的】

◇この調査は、秋田県が実施する調査で、県の取組に関する皆様の満足度やご意見等をお伺いし、各種政策の立案や政策評価等に反映させるほか、令和4年度からの新たな県政運営の指針の策定に当たっての参考とすることを目的としています。

【調査票の取扱い】

◇調査結果は、全て統計的に処理しますので、回答内容が個人情報と結びついた形で公表されることはありません。

【記入に当たってのお願い】

- ◇この調査には、宛名のご本人がお答えください。
※ご本人が何らかの事情により回答できない場合、代理の方の回答は不要です。
- ◇ボールペンや鉛筆等で記入してください。
- ◇回答を1つだけ選んでいただく質問と、複数選んでいただく質問があります。

この調査票を三つ折りにし、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、

6月4日（金）までに投函してください。

なお、返信用封筒に住所、氏名等の記入は不要です。



©2015 秋田県んだッチ

- ◆左下のQRコードまたは「秋田県 電子申請・届出サービス」
(https://s-kantan.jp/pref-akita-u/offer/offerList_initDisplay.action) から、パソコン、スマートフォン、タブレット等を利用したインターネット回答が可能です。
※インターネット回答の場合は、調査票の返送は不要です。



【問い合わせ先】

- ◇この調査に関する質問等は、以下までお問い合わせください。
〒010-8570 秋田市山王四丁目1番1号
秋田県企画振興部 総合政策課 計画・評価班
電話：018(860)1217（直通）
FAX：018(860)3873
メール：seisaku@pref.akita.lg.jp

問 1 県では、『第3期ふるさと秋田元気創造プラン』（※）に基づき、「時代の変化を捉え力強く未来を切り拓く秋田」を創り上げていくことを目指し、様々な取組を進めていますが、次の項目について、あなたはどの程度満足していますか。

ご自身の実感に近いものを「5」～「1」の5段階から選んでお答えください。

また、お答えが「2」または「1」の場合は、よろしければその理由や、県が取り組むべきだと思うことについて、お聞かせください。

※『第3期ふるさと秋田元気創造プラン』とは、平成30年度からの4年間に、県が取り組むべき政策等を取りまとめた県政運営の指針です。

項目		あなたの満足度 (1つ選び番号に○をしてください)					
		十分	おおむね十分	ふつう	やや不十分	不十分	わからない
		5	4	3	2	1	N
1	若者にとって魅力的な働く場が確保されている。	[自由記述]「不十分」または「やや不十分」に○をつけた方は、よろしければその理由や、県がもっと力を入れて取り組むべきだと思うことについて、具体的にお聞かせください。					
2	高校生や大学生の県内就職が進んでいる。	[自由記述]					
3	安心して子育てができる社会になっている。	[自由記述]					
4	女性や若者が職場や地域で生き生きと活躍できる社会になっている。	[自由記述]					
5	地域交通や買い物サービスなどの日常生活に必要な機能が維持され、安心して生き生きと生活できる地域社会になっている。	[自由記述]					

若者の定着や地域の活力維持に関する取組の状況

1 社会減の抑制に向けた 雇用の場の創出、人材育成・確保

- ・将来にわたり拡大が見込まれる成長分野（輸送機関連、新エネルギー関連、医療福祉関連、情報関連）への県内企業の参入を促進するとともに、同分野の企業誘致を重点的に推進
- ・IoT(モノのインターネット)やAI(人工知能)等の技術革新の進展により求められるICT人材の確保・育成に向けた、県内ICT企業のPRや、中高校生を対象とした情報教育を実施
- ・啓発セミナー等の開催により働き方改革を推進するとともに、就労環境の整備や女性の復職を支援

◎雇用創出数（企業誘致や成長産業の振興、農林水産業や観光産業による新規雇用創出）
2,552人（H28）⇒2,614人（R1）

2 若者の県内定着・回帰と移住の促進による 秋田への人の流れづくり

- ・高校生や大学生が県内企業の魅力に触れる機会として、企業見学会・企業説明会等を開催
- ・大学生と保護者の県内就職への意識醸成を図るため、秋田暮らしの魅力情報を発信したほか、県内就職者への経済的支援として奨学金返還に対する助成を実施
- ・市町村等と連携し、移住相談や、Aターンフェアを開催し、「暮らし」と「仕事」の情報を総合的に提供
- ・リモートワークによる移住を促進



◎人口の社会減
△4,100人（H27）⇒△2,910人（R1）

3 結婚や出産、子育ての希望をかなえる全国トップレベルのサポート

- ・あきた結婚支援センターの運営支援を通じて結婚を希望する独身者をサポート
- ・市町村が地域の実情やニーズに応じて行う子ども・子育て支援事業に対して支援
- ・保育料や副食費への助成など、子育て世帯への経済的支援を充実



園庭で楽しく遊ぶ園児たち

◎婚姻件数 3,510組（H28）⇒3,161組（R1）
◎出生数 5,666人（H28）⇒4,696人（R1）

4 女性や若者の活躍推進と ワーク・ライフ・バランスの実現

- ・経済団体等と連携した普及啓発や企業表彰の実施等により、女性活躍やワーク・ライフ・バランスの実現に向けた気運を醸成
- ・「あきた女性活躍・両立支援センター」を設置し、企業訪問やアドバイザーの派遣等により企業の取組を支援

◎女性の活躍に関する行動計画を策定した企業数
64社（H28）⇒206社（R1）
◎従業員の仕事と子育てに関する行動計画を策定した企業数
262社（H28）⇒454社（R1）

5 活力にあふれ、安心して暮らすことができる地域社会づくり

- ・集落機能を維持するため、複数集落単位で地域の将来をデザインする「コミュニティ生活圏」の形成を支援
- ・県と市町村が協働し、人口減少社会における生活課題の解決に向けた住民主体の支え合いの仕組みづくりを推進



地域の将来についての検討会

◎社会活動・地域活動に参加した人の割合
42.0%（H28）⇒57.6%（R1）

項目

あなたの満足度 (1つ選び番号に○をしてください)					
十分	おおむね十分	ふつう	やや不十分	不十分	わからない

6	地域経済を ^{けん} 牽引することができる競争力を持った企業が増えている。
7	中小企業の安定した経営が確保されている。
8	企業誘致が進んでいる。
9	産業人材の確保・育成が進んでいる。

5	4	3	2	1	N
[自由記述] 「不十分」または「やや不十分」に○をつけた方は、よろしければその理由や、県がもっと力を入れて取り組むべきだと思うことについて、具体的にお聞かせください。					
5	4	3	2	1	N
[自由記述]					
5	4	3	2	1	N
[自由記述]					
5	4	3	2	1	N
[自由記述]					

産業の振興に関する取組の状況

6 成長分野の競争力強化と中核企業の創出・育成

- ・航空機・自動車関連分野における加工技術の向上や販路開拓を支援
- ・本県の多様で豊富な資源を活用し、再生可能エネルギーの導入拡大を図るとともに、関連産業への県内企業の参入を促進
- ・医療機関のニーズに沿った新製品の開発や医療福祉関連産業への県内企業の参入を促進
- ・「秋田デジタルイノベーション推進コンソーシアム」の活動を通じて、県内企業の先進技術導入を促進



港湾内洋上風力発電の事業化が決定（秋田港・能代港）

◎輸送用機械器具製造業の製造品出荷額

1,124億円（H28）⇒1,321億円（R1）

◎医療機器関連製造業の製造品出荷額等

548億円（H27）⇒602億円（H30）

8 国内外の成長市場の取り込みと投資の促進

- ・企業の海外展開に向けた活動経費を支援
- ・世界への物流の玄関口となる港湾施設を整備
- ・テレワークが急速に普及する中、サテライトオフィスの活用により、首都圏等企業の本県への拠点設置を促進



県内のサテライトオフィス

◎秋田港国際コンテナ取扱量（実入り）

50,776TEU（H28）⇒45,353TEU（R2）（速報値）

※「TEU」＝貨物コンテナの量を表す単位

◎企業の誘致件数及び誘致済企業の施設・設備の拡充件数

22件（H28）⇒25件（R2）（速報値）

7 中小企業・小規模企業者の活性化と生産性向上

- ・新型コロナウイルスの感染拡大により経営状況が悪化している事業者に対し、無利子・無保証料の制度融資をはじめとした資金繰り支援を実施
- ・消費者ニーズの変化や新しい生活様式に対応した商業・サービス業者の業態転換、新分野進出、新商品開発等の取組を支援
- ・中小企業の円滑な事業承継に向け、商工団体や「事業承継・引継ぎ支援センター（旧 秋田県事業引継ぎ支援センター）」と連携したマッチング支援等を実施



秋田県中小企業応援キャラクター「がんばっけさん」

◎製造品出荷額等（従業員4人以上の事業所）

1兆2,153億円（H27）⇒1兆2,845億円（R1）（速報値）

◎製造品付加価値額（従業員4人以上の事業所）

4,739億円（H27）⇒4,934億円（R1）（速報値）

9 産業人材の確保・育成と働きやすい環境の整備

- ・働き方改革を推進するためのセミナーや先進事例の紹介による支援を実施
- ・結婚や出産で離職し、積極的な就職活動を行っていない女性の就業を支援するため、イベントやセミナー等を実施



女性の再就職を応援する「SHE Project AKITA」

- ・県技術専門校において、IT等デジタル技術や新エネルギー関連のカリキュラムを実施

◎成長産業等における雇用創出数

1,691人（H28）⇒1,641人（R1）

◎若者や女性等の働きやすい環境の整備に取り組む企業数

330社（H28）⇒725社（R1）

項目	
----	--

あなたの満足度 (1つ選び番号に○をしてください)					
十分	十分 おおむね	ふつう	やや 不十分	不十分	わからない
↓	↓	↓	↓	↓	↓

10	農林水産業で働く人が、地域で元気に活躍している。
----	--------------------------

5	4	3	2	1	N
[自由記述]「不十分」または「やや不十分」に○をつけた方は、よろしければその理由や、県がもっと力を入れて取り組むべきだと思うことについて、具体的にお聞かせください。					

11	えだまめ、ねぎ、しいたけ、キク、秋田牛などの生産が盛んに行われている。
----	-------------------------------------

5	4	3	2	1	N
[自由記述]					

12	あきたこまちをはじめ、全国の産地間競争に打ち勝つ米づくりが盛んに行われている。
----	---

5	4	3	2	1	N
[自由記述]					

13	飲料や発酵食品など、県産の農林水産物を生かした加工品づくりや販売が盛んに行われている。
----	---

5	4	3	2	1	N
[自由記述]					

14	秋田スギ丸太の生産量が増大し、県産材の利用が進んでいる。
----	------------------------------

5	4	3	2	1	N
[自由記述]					

15	ハタハタ、マダイ、ヒラメ、サケなど、県内で獲れた多様な魚が流通・販売されている。
----	--

5	4	3	2	1	N
[自由記述]					

16	豊かな農山漁村で生き生きとした暮らしが営まれ、農地・森林を守る活動などが行われている。
----	---

5	4	3	2	1	N
[自由記述]					

農林水産業の振興に関する取組の状況

10 秋田の農林水産業を牽引する多様な人材の育成

- ・生産規模の拡大を目指す意欲的な経営体を育成
- ・県外からの移住者や新規卒者・Uターン者など、多様なルートと幅広い年代から新規就業者を確保・育成



オンラインでの移住就農相談

◎農業法人数(認定農業者) 576 法人 (H28) ⇒ 788 法人 (R2)
◎担い手への農地集積率 73.2% (H28) ⇒ 75.4% (R1)

11 複合型生産構造への転換の加速化

- ・ねぎやキクなどの園芸メガ団地や大規模畜産団地を整備
- ・「えだまめ出荷量日本一」や「しいたけ三冠王(量・額・単価)」に向け、生産拡大を支援
- ・「秋田牛」や「比内地鶏」のブランド力強化に向けた取組を推進



大規模団地のねぎ収穫作業

◎主要園芸品目の系統販売額
160 億円 (H28) ⇒ 154 億円 (R1)
◎畜産産出額
352 億円 (H27) ⇒ 362 億円 (R1)

12 秋田米の戦略的な生産・販売と水田フル活用

- ・秋田米の安定生産やブランド力の向上を促進するとともに、食味が特に優れた新品種(サキホコレ)の市場デビューに向けた取組を実施
- ・水田の大区画化や排水対策を図るほ場整備を実施

◎全国に占める秋田米のシェア 5.47% (※) ⇒ 6.07% (R1)
※ H23~27 の最高値と最低値を除いた3年平均
◎米の生産費 10,500 円/60kg (H27) ⇒ 10,700 円/60kg (H30※)
※ H30 は作柄が悪く反収が低下し、一時的に生産費が上昇

13 農林水産物の高付加価値化と国内外への展開強化

- ・県産の農林水産物を生かした加工品づくりや販売を促進
- ・食品メーカーなど異なる業種との連携による新商品の開発や新ビジネスの創出を促進



新商品のPR

◎6次産業化事業体販売額
143 億円 (H27) ⇒ 208 億円 (R1)

14 「ウッドファーストあきた」による林業・木材産業の成長産業化

- ・資源の循環利用を図るため、低コスト再造林を推進
- ・林内路網の整備や高性能な林業機械の導入などにより、低コストな素材供給体制づくりを促進
- ・新たな木質部材の開発と非住宅建築への活用を促進

◎素材生産量(燃料用含む)
1,470 千³m (H28) ⇒ 1,583 千³m (R1)
◎スギ製品出荷量
591 千³m (H28) ⇒ 634 千³m (R1)

15 つくり育てる漁業と広域浜プラン推進による水産業の振興

- ・つくり育てる漁業の対象魚種(ハタハタ、マダイ、ヒラメ、サケ、トラフグ)などの稚魚を育成・放流
- ・県内における地魚の消費拡大を図るため、PRや高品質化に向けた支援を強化



地魚のドライブスルー販売

◎海面漁業協同組合員1人当たりの漁業生産額
288.0 万円 (H28) ⇒ 279.5 万円 (R1)
◎つくり育てる漁業の対象魚種の漁業生産額
9.7 億円 (H27) ⇒ 6.7 億円 (R1)

16 地域資源を生かした活気ある農山漁村づくり

- ・リンドウやセリなど中山間地域の特性を生かした農産物の生産や加工の取組を促進
- ・農山漁村での都市住民との交流活動や農家民宿・レストランの起業等の取組を促進
- ・草刈りや植樹など地域住民による農地、森林を守る活動を促進

◎中山間地域資源活用プラン策定地域数(累積)
37 地域 (H28) ⇒ 55 地域 (R2)
◎水と緑の森づくり推進事業参加者数
12,838 人 (R2)

項目

あなたの満足度 (1つ選び番号に○をしてください)					
十分	おおむね 十分	ふつう	やや 不十分	不十分	わからない
↓	↓	↓	↓	↓	↓

17	国内外から観光誘客が進んでいる。
----	------------------

5	4	3	2	1	N
[自由記述]「不十分」または「やや不十分」に○をつけた方は、よろしければその理由や、県がもっと力を入れて取り組むべきだと思うことについて、具体的にお聞かせください。					

18	日本酒や発酵食品など、秋田の食品が国内外の市場で盛んに流通している。
----	------------------------------------

5	4	3	2	1	N
[自由記述]					

19	国内外に秋田ならではの文化の魅力が伝えられている。
----	---------------------------

5	4	3	2	1	N
[自由記述]					

20	スポーツに関連する様々な活動が盛んに行われ、地域に活気がもたらされている。
----	---------------------------------------

5	4	3	2	1	N
[自由記述]					

21	地域間の交流や生活を支える県内の道路ネットワークが整備されている。
----	-----------------------------------

5	4	3	2	1	N
[自由記述]					

22	鉄道や航空、地域交通など利便性の高い交通ネットワークが整備されている。
----	-------------------------------------

5	4	3	2	1	N
[自由記述]					

観光・文化・スポーツの振興に関する取組の状況

17 地域の力を結集した「総合的な誘客力」の強化

- ・コロナ禍における県内の観光流動に向けて「プレミアム宿泊券」を発行
- ・ウィズコロナにおける新たなニーズに対応した観光の魅力を発信
- ・宿泊施設の整備など、観光客の旅の満足度の向上に向けた受入環境の充実を支援



秋田県公式観光サイト
「アキタファン」

◎観光地点等入込客数（延べ人数）

3,159万6千人（H28）⇒3,527万人（R1）

18 「食」がリードする秋田の活性化と誘客の推進

- ・日本酒や発酵食品等の更なる高品質化とブランド力の強化を促進
- ・発酵食など本県独自の食文化を観光コンテンツとして磨き上げ、誘客へ活用



あきた発酵ツーリズム
拠点施設「石孫本店」

◎食料品・飲料等製造品出荷額等

1,205億円（H27）⇒1,347億円（H30）

20 「スポーツ立県あきた」の推進とスポーツによる交流人口の拡大

- ・モーグルワールドカップ秋田たざわ湖大会等の開催による交流人口の拡大
- ・ジュニア層の強化を競技力向上の柱に据えた一貫指導体制を確立
- ・ノーザンハピネッツやブラウブリッツ、ノーザンブレッツの活動を支援



モーグルワールドカップ
秋田たざわ湖大会

◎成人の週1回以上のスポーツ実施率

49.5%（H28）⇒58.5%（R2）

19 文化の発信力強化と

文化による地域の元気創出

- ・伝統芸能をはじめとする多彩な文化事業の実施や、オンラインを活用した映像配信などにより、秋田ならではの文化の魅力を国内外に発信
- ・青少年音楽コンクールやあきたの文芸など若者から高齢者まで多くの県民が楽しめる文化事業を実施
- ・地域で活動する文化団体の活動を支援
- ・本県文化の中核拠点となる「あきた芸術劇場」の整備を推進（令和4年開館予定）



あきた芸術劇場（イメージ）

◎文化事業への来場者数

44万9,311人（H28）⇒45万445人（R1）

21 県土の骨格を形成する道路ネットワークの整備

- ・日本海沿岸東北自動車道「蟹沢IC～大館能代空港IC」間5.3kmが開通
- ・重要港湾秋田港と秋田自動車道秋田北ICを結ぶ「秋田港アクセス道路」の事業を推進



日本海沿岸東北自動車道
蟹沢IC付近

◎県内高速道路の供用率

90%（H28）⇒92%（R2）

22 交流の持続的拡大を支える交通ネットワークの構築

- ・大館能代空港の増便など航空ネットワークの強化に向けた取組を推進
- ・台湾からの定期便・チャーター便の誘致に向けたセールスを実施
- ・国や市町村と連携し、乗合バスや第三セクター鉄道の運行を支援



国内定期便（大館能代空港）

◎秋田県と県外間の旅客輸送人員数

539万2千人（H27）⇒679万5千人（H30）

項目

あなたの満足度 (1つ選び番号に○をしてください)					
十分	おおむね十分	ふつう	やや不十分	不十分	わからない
↓	↓	↓	↓	↓	↓
5	4	3	2	1	N
23	<p>食事やたばこなど、これまでの生活習慣を見直し、健康づくりに取り組む県民の意識が高まってきている。</p>				
[自由記述]「不十分」または「やや不十分」に○をつけた方は、よろしければその理由や、県がもっと力を入れて取り組むべきだと思うことについて、具体的にお聞かせください。					
24	<p>誰も自殺に追い込まれることのないよう、悩みを抱えた方が相談しやすい環境が整っている。</p>				
[自由記述]					
25	<p>どこに住んでいても、安心して医療を受けられる体制が整っている。</p>				
[自由記述]					
26	<p>高齢者や障害がある方などが、住み慣れた地域でニーズに合った介護・福祉サービスを受けることができる。</p>				
[自由記述]					
27	<p>全ての子どもが生まれ育った環境にかかわらず、健やかに育まれる支援体制が整っている。</p>				
[自由記述]					

健康づくりや医療・福祉の充実に関する取組の状況

23 健康寿命日本一への挑戦

- ・市町村や経済団体、保健医療団体、報道機関等、多様な主体と連携した健康づくり県民運動を推進



健康寿命日本一ウェブサイト 「秋田健」ロゴ

ウェブサイト
QRコード

- ・テレビ・ラジオCM、新聞紙面やウェブサイト等を活用した普及啓発等を通じて、県民一人ひとりの健康意識を高揚
- ・健康づくり県民運動のスローガンである「減塩」や「野菜・果物摂取」の意識向上を図るため、見た目でもわかりやすい秋田スタイル「健康な食事」メニュー認証制度を創設

認証メニュー
県庁食堂「生姜焼き定食」

- ・たばこによる健康被害を防止するため、相談窓口の設置や事業所訪問等による受動喫煙防止と、医師による講話などの禁煙支援の実施

◎健康寿命

男性 71.21 年、女性 74.53 年 (H28)

26 高齢者や障害者等が

安全・安心に暮らせる福祉の充実

- ・職員の処遇改善や育成等に積極的な事業所を県が認証する「介護サービス事業所認証評価制度」の普及を推進
- ・教育を通じた障害者理解の促進など、障害者差別解消推進条例による共生社会の実現に向けた取組を強化

◎介護施設等の介護職員数

20,891 人 (H28) ⇒ 22,602 人 (R1)

24 心の健康づくりと自殺予防対策

- ・若者を中心に多くの県民が利用している SNS による相談体制を整備
- ・若者の自殺を予防するため、インターネット上で相談窓口を周知する取組や、県立高校での SOS の出し方講座、教職員の SOS の受け方研修会などを実施
- ・民・学・官の連携による自殺予防街頭キャンペーン等の普及啓発や、様々な悩みを抱える方の相談支援体制を整備



SOS の出し方講座

◎自殺による人口 10 万人当たり死亡率

23.8 (H28) ⇒ 20.8 (R1)

25 医療ニーズに対応した医療提供体制の整備

- ・県立循環器・脳脊髄センター新棟において診療を開始するなど、高齢化の進行により医療ニーズが高まっている脳・循環器疾患の包括的な医療提供体制を強化

◎脳血管疾患による人口 10 万人当たり年齢調整死亡率

37.9 (H28) ⇒ 35.0 (R1)

◎がんによる人口 10 万人当たり 75 歳未満年齢調整死亡率

87.4 (H28) ⇒ 82.0 (R1)

27 次代を担う子どもの育成

- ・子どもの貧困対策に取り組む支援者のネットワーク化を支援
- ・児童虐待を行った保護者等へのカウンセリングや、「秋田県児童虐待防止宣言」の策定など、児童虐待防止についての取組を強化
- ・里親制度の普及啓発から、里親の育成、養育開始後のサポートまでを包括的に支援する体制を整備し、里親委託を促進



里親研修

◎里親委託児童数

16 人 (H28) ⇒ 27 人 (R1)

項目	
----	--

あなたの満足度 (1つ選び番号に○をしてください)					
十分	おおむね 十分	ふつう	やや 不十分	不十分	わからない

28	学校教育を通じて、ふるさと秋田を愛し支える心が育まれている。
----	--------------------------------

↓	↓	↓	↓	↓	↓
5	4	3	2	1	N
[自由記述]「不十分」または「やや不十分」に○をつけた方は、よろしければその理由や、県がもっと力を入れて取り組むべきだと思うことについて、具体的にお聞かせください。					

29	学校教育を通じて、意欲的に学ぼうとする態度や、自ら考え、判断し、表現する力が育まれている。
----	---

5	4	3	2	1	N
[自由記述]					

30	学校教育を通じて、外国文化を理解しようとする態度や、英語でコミュニケーションをとる能力が育まれている。
----	---

5	4	3	2	1	N
[自由記述]					

31	学校教育を通じて、他人への思いやりなどの豊かな人間性と健やかな体が育まれている。
----	--

5	4	3	2	1	N
[自由記述]					

32	学校・家庭・地域が連携し、社会全体で子どもたちの成長を支えていく体制が整備されている。
----	---

5	4	3	2	1	N
[自由記述]					

33	県内の大学等で、地域の活性化につながる教育・研究・社会貢献活動が行われている。
----	---

5	4	3	2	1	N
[自由記述]					

34	県民の多様な生涯学習の機会や芸術文化に触れる機会が提供されている。
----	-----------------------------------

5	4	3	2	1	N
[自由記述]					

教育・人づくりに関する取組の状況

28 自らの未来を主体的に切り拓き、秋田を支える気概に満ちた人材の育成



産業教育フェアでの販売体験

- ・起業体験やボランティア活動など、地域の活性化に貢献する体験活動や地域の伝統を受け継ぐ活動を推進
- ・県立高校等に就職支援員や職場定着支援員等を配置し、就職支援、県内就職の促進、職場への定着支援等の取組を実施

◎高校生の県内就職率 65.0% (H28) ⇒ 72.8% (R2)

29 子ども一人一人に応じた教育の充実と 確かな学力の定着

- ・主体的に問題を解決する「探究型授業」の充実を図るため、学校訪問等により授業改善を推進
- ・少人数学級によるきめ細かな教育や社会人等外部人材の活用による専門性の高い教育を展開

◎授業で自分の考えを発表する機会がよくあると思う児童生徒の割合（小4～中2）

91.0% (H28) ⇒ 90.0% (R2)

30 世界で活躍できるグローバル人材の育成

- ・英語コミュニケーション能力の育成に向け、外国語指導助手や外部試験を活用
- ・小学校3年生から高校3年生までを対象に県内各地でイングリッシュキャンプを開催

◎英検3級以上相当の英語力を有する
中学3年生の割合

37.1% (H28) ⇒ 48.3% (R2)

31 豊かな人間性と健やかな体の育成

- ・スクールカウンセラー等の専門家の配置により教育相談体制を充実
- ・地域人材を活用し、授業の充実を図るとともに部活動を支援



地域人材を活用した授業

◎自分にはよいところがあると思っている児童生徒の割合（小6・中3） 83.0% (H29) ⇒ 86.0% (R1)

◎運動やスポーツをすることが「好き」な児童生徒の割合（小5・中2） 65.6% (H29) ⇒ 65.9% (R1)

32 子どもの成長を支える魅力的で良質な 学びの場づくり

- ・学校と地域の協働活動を推進する人材の育成や、地域と連携した安全教育活動を展開
- ・学校でのICTの活用促進に向け、教職員のICT活用指導力向上のための研修を実施



地域での見守り活動

◎授業の内容がよく分かると思う児童生徒の割合（小6・中3） 83.8% (H29) ⇒ 86.1% (R1)

33 地域社会と産業の活性化に資する 高等教育機関の振興

- ・各大学等の多様な資源を活用し、地域社会や産業の課題解決に向けた取組を推進
- ・高校教育と大学教育の連携など学生の確保に向けた多様な取組を推進

◎県内高等教育機関による県内企業等との共同研究・受託研究数 89件 (H28) ⇒ 106件 (R1)

◎県内高卒者の県内大学・短大への進学率 28.4% (H29) ⇒ 28.1% (R2)

34 地域を元気にする住民参加の学びの場と 芸術・文化に親しむ機会の提供

- ・県生涯学習センターや公民館、学校などで様々なテーマの生涯学習講座を開催
- ・地域の歴史・文化を活かしたまちづくりに向け、文化財の総合的な保存・活用の方針などを示した「秋田県文化財保存活用大綱」を策定

◎芸術・文化施設をセカンドスクールの的に利用した小・中学生の割合 26.6% (H28) ⇒ 15.4% (R2)

問2 県の重要課題について、お伺いします。

県では、現在、新たな県政運営の指針の策定作業を進めているところです。今後の県政を推進していく上で、あなたが重要課題として県に力を入れてほしいことは何ですか。下から5つまで選択して番号を記入してください。

--	--	--	--	--	--

- | | |
|---|---|
| <p>◆若者の定着や地域の活力維持</p> <p>1 若者に魅力的な働く場の確保</p> <p>2 高校生や大学生の県内就職の促進</p> <p>3 県内への移住の促進</p> <p>4 結婚、出産、子育てのしやすい環境の整備</p> <p>5 女性の活躍推進と仕事と家庭の両立支援</p> <p>6 安心して生活できる地域コミュニティの維持</p> <p>◆産業の振興</p> <p>7 企業の成長分野への参入促進</p> <p>8 地域経済をけん引する企業の創出・育成</p> <p>9 中小企業の安定的経営の確保と競争力強化</p> <p>10 企業の東アジア市場等への進出の促進</p> <p>11 企業が必要とする専門人材の確保</p> <p>12 誰もが働きやすい職場環境の整備</p> <p>13 I・O・T、A・I技術等の産業への導入の促進</p> <p>◆農林水産業の振興</p> <p>14 農林水産業の担い手の確保</p> <p>15 野菜や果樹、畜産物等の生産の拡大</p> <p>16 産地間競争に打ち勝つ米づくりと販売の強化</p> <p>17 水田の大区画化や汎用化の促進</p> <p>18 農林水産物の加工・販売の促進</p> <p>19 秋田スギや木製品の生産・加工・販売の促進</p> <p>20 水産資源の維持・増大による水産業の振興</p> <p>21 農山漁村地域の活力向上</p> <p>◆観光・文化・スポーツの振興</p> <p>22 国内外からの観光誘客の強化</p> <p>23 新商品の開発や販路拡大による食品産業の振興</p> <p>24 秋田ならではの文化の振興と発信</p> <p>25 スポーツの振興による地域の活力向上</p> | <p>26 道路ネットワークの整備と道の駅の魅力向上</p> <p>27 鉄道や航空・地域交通などの整備</p> <p>◆健康づくりや医療・福祉の充実</p> <p>28 健康寿命の延伸に向けた取組の推進</p> <p>29 自殺予防対策の推進</p> <p>30 医療提供体制の整備</p> <p>31 介護・福祉サービスの充実</p> <p>32 貧困や虐待等、複雑な事情を抱える子どもへの支援</p> <p>◆教育・人づくり</p> <p>33 ふるさと教育やキャリア教育の充実</p> <p>34 学力向上に向けた取組の充実</p> <p>35 英語教育と国際教育の充実</p> <p>36 豊かな人間性を育む教育の充実</p> <p>37 健やかな体を育む教育の充実</p> <p>38 教員の指導力向上</p> <p>39 学校施設の整備</p> <p>40 大学等の地域貢献活動の強化</p> <p>41 生涯学習機会の充実と学習効果の社会への還元</p> <p>42 文化遺産等の保存・活用の促進</p> <p>◆安全・安心な生活環境の確保</p> <p>43 治山治水対策の充実</p> <p>44 地域防災活動の充実</p> <p>45 温暖化防止活動や自然環境保全対策の推進</p> <p>46 犯罪や交通事故の少ない地域づくり</p> <p>47 食品や水道などの安全・安心の確保</p> <p>48 動物愛護活動の推進</p> <p>49 快適で安らげる生活基盤の整備</p> <p>50 ICTによる便利な暮らしの実現と地域の活性化</p> |
|---|---|

問3 県の特定課題について、お伺いします。

以下の質問について、当てはまる選択肢の番号に○をつけてください。

県の広報活動について

① あなたは、県の施策・事業等を何から知ることが多いですか（○はいくつでも）。

- | | |
|---|--------------------------------------|
| 1 | 県が発行する広報紙（全戸配布広報紙・新聞広告等） |
| 2 | 県のウェブサイト（「美の国あきたネット」等） |
| 3 | 県政広報番組（テレビ、ラジオ） |
| 4 | 新聞記事やテレビ、ラジオ等のニュース番組 |
| 5 | ソーシャルメディア（ブログ、ツイッター、フェイスブック、動画サイト 等） |
| 6 | その他（ ） |

② あなたは、広報紙やウェブサイト、テレビ、ラジオ等による広報活動は十分に行われていると思いますか（○は1つ）。

- | | | | |
|---|------------|---|------------|
| 1 | 十分行われている | 2 | ある程度行われている |
| 3 | あまり行われていない | 4 | 行われていない |
| 5 | どちらともいえない | | |

家庭での防災活動について

① あなたの家庭では、災害時の備えとして、水・食料等の備蓄（※）（家族人数×3日分）をしていますか（○は1つ）。

※備蓄には、普段から家庭で使うために購入・保管している冷蔵庫内の食料品等や、災害時にも活用できるペットボトル飲料水やカップラーメン、缶詰なども含みます。

- | | | | |
|---|---------------|---|-------------------|
| 1 | 3日分以上の備蓄をしている | 2 | 備蓄はしているが、2日分以下である |
| 3 | 備蓄はしていない | | |

② あなたは、災害に備えて日頃どのような防災活動を行っていますか（○はいくつでも）。

- | | |
|---|-----------------------|
| 1 | 地域の防災訓練への参加 |
| 2 | 災害ハザードマップなどによる危険箇所の把握 |
| 3 | 最寄りの緊急避難場所等の確認 |
| 4 | 緊急避難場所等への避難経路の確認 |
| 5 | 災害時の家族への連絡方法の取り決め |
| 6 | 非常時持ち出し品の用意 |
| 7 | 家具等の固定 |
| 8 | その他（ ） |

読書活動について

① あなたは読書（※）が好きですか（○は1つ）。

※読書には、新聞及び雑誌（電子媒体の記事（注1）を含む。）のほか、子どもへの読み聞かせ、オーディオブック（注2）も含まれます。

（注1）電子媒体の記事とは、新聞社や出版社等がインターネット上に掲載しているニュースや雑誌記事等のことです。

（注2）オーディオブックとは、書籍を朗読したものを録音したCDやカセット、インターネット上で提供されている音声コンテンツのことです。

- | | |
|------------------|---------------|
| 1 好きだ | 2 どちらかといえば好きだ |
| 3 どちらかといえば好きではない | 4 好きではない |

② あなたは1日平均（※）どれくらい読書をしていますか（○は1つ）。

※子どもへの読み聞かせ時間も含まれます。

※休日まとめ読みの場合は、1日平均に置き換えてください。

- | | |
|-----------|---------|
| 1 2時間以上 | 2 1～2時間 |
| 3 30分～1時間 | 4 30分未満 |
| 5 全く読まない | |

農業への就業について

① 現在、農業へ就業していない方にお聞きします。あなたは、農業への就業について、どのように考えていますか（○は1つ）。

- | |
|---|
| 1 将来、後継者として農業へ就業する予定である |
| 2 「専業」での農業への就業に興味がある（1に該当する方を除く） |
| 3 「兼業」（副業・アルバイトを含む）での農業への就業に興味がある（1に該当する方を除く） |
| 4 農業への就業に興味はない（1に該当する方を除く） |

② ①で「3」を選んだ方にお聞きします。あなたが実際に農業へ就業するとした場合、どのような勤務形態で従事してみたいですか（○は1つ）。

- | |
|----------------------|
| 1 「休日」に「終日」従事してみたい |
| 2 「休日」に「半日程度」従事してみたい |
| 3 「休日」に「短時間」従事してみたい |
| 4 「平日」に「終日」従事してみたい |
| 5 「平日」に「半日程度」従事してみたい |
| 6 「平日」に「短時間」従事してみたい |

がん対策について

① あなたは、日本人の2人に1人はがんになることを知っていますか（どちらかに○）。

- | | |
|---------|--------|
| 1 知っている | 2 知らない |
|---------|--------|

② あなたは、がんを早期に発見するためにはがん検診をどのように受ければよいと思いますか（○は1つ）。

- | | |
|-----------|------------------|
| 1 定期的に受ける | 2 体調に心配があるときに受ける |
| 3 わからない | |

社会活動・地域活動について

① あなたが、ここ1年間に仕事以外の何らかの「社会活動・地域活動」(※)に取り組んだ頻度で、もっとも当てはまるものはどれですか（○は1つ）。

※「社会活動・地域活動」の具体例

地域の公園の花壇の手入れ、町内一斉清掃への参加、河川のごみ拾い、子育て支援、子ども会活動、まちづくりフェスティバル、祭り・伝統芸能の担い手、高齢者宅の除雪の手伝い 等

- | | |
|-------------------|---------|
| 1 週5日以上 | 2 週1日程度 |
| 3 月1日程度 | 4 年1日程度 |
| 5 特定の期間（夏の間2週間など） | |
| 6 その他（具体的に | ） |
| 7 取り組んだことがない | |

自転車の安全で適正な利用について

① 自転車を利用している人にお聞きします。あなたは「自転車損害賠償責任保険等(※)」に加入していますか（○は1つ）。

※自転車を運転中の事故により、他人にケガを負わせてしまった場合に備える保険。

※自転車保険単独のものや、自動車保険・火災保険・傷害保険の特約、共済、職場の団体保険などがあります。

- | | |
|----------|-----------|
| 1 加入している | 2 加入していない |
| 3 わからない | |

男女共同参画について

① 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはこれについてどう思いますか（○は1つ）。

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 賛成 | 2 どちらかといえば賛成 |
| 3 どちらかといえば反対 | 4 反対 |
| 5 わからない | |

温暖化防止対策について

- ① 現在持ち家にお住まいの方にお聞きします。あなたが現在お住まいの住居に導入している温暖化防止に貢献する機器、設備は何ですか（〇はいくつでも）。

- | | | |
|----|---|---|
| 1 | LED照明 | |
| 2 | ロスナイ換気 | |
| 3 | 宅配ボックス | |
| 4 | 太陽光自家発電 | |
| 5 | 燃料電池コージェネレーションシステム(エネファーム等) | |
| 6 | ヒートポンプ式給湯器(エコキュート等) | |
| 7 | 高効率ガス給湯器(エコジョーズ等) | |
| 8 | 高効率石油給湯器(エコフィール等) | |
| 9 | 電動車(電気自動車(EV)、プラグインハイブリッド車(PHV)、ハイブリッド車(HV)、燃料電池車(FCV)) | |
| 10 | その他 (|) |
| 11 | 導入している機器、設備はない | |

環境保全活動について

- ① あなたは、これまで環境保全活動等に参加したことがありますか（〇はいくつでも）。

- | | | |
|---|-------------------------------------|---|
| 1 | 環境美化・清掃活動への参加（例：市民クリーンアップなど） | |
| 2 | 自然保護活動への参加（例：ホテルの保護活動など） | |
| 3 | 森林保全活動への参加（例：市民植樹など） | |
| 4 | リサイクル活動への参加（例：古紙・空き缶回収など） | |
| 5 | 環境をテーマとした講演会等への参加（例：地球温暖化防止フォーラムなど） | |
| 6 | その他 (|) |
| 7 | 参加したことがない | |

高齢者の社会参加について

- ① 60歳以上の方（※）にお聞きします。あなたは、令和2年度に仕事や社会活動等（趣味や健康づくり、生涯学習を含む。）を行いましたか（どちらかに〇）。

※60歳未満の方は次の質問に進んでください。

- | | | | |
|---|-----|---|--------|
| 1 | 行った | 2 | 行っていない |
|---|-----|---|--------|

問5 あなたご自身について、お伺いします。

回答を統計的に分析するために、あなたご自身のことについてお聞かせください。
(最も近いと感じる選択肢の番号1つに○をつけてください。)

① あなたの性別

1 男性 2 女性 3 その他

② あなたの年齢

1 18～19 歳 2 20～29 歳 3 30～39 歳 4 40～49 歳
5 50～59 歳 6 60～69 歳 7 70 歳以上

③ 18歳未満の子どもの有無

1 現在18歳未満の子どものを養育している 2 していない

④ あなたのご出身

1 秋田県の出身 2 秋田県以外の出身

⑤ あなたのお住まいの地域

1 鹿角地域 (鹿角市、小坂町)
2 北秋田地域 (大館市、北秋田市、上小阿仁村)
3 山本地域 (能代市、藤里町、三種町、八峰町)
4 秋田地域 (秋田市、男鹿市、潟上市、五城目町、八郎潟町、井川町、大潟村)
5 由利地域 (由利本荘市、にかほ市) 6 仙北地域 (大仙市、仙北市、美郷町)
7 平鹿地域 (横手市) 8 雄勝地域 (湯沢市、羽後町、東成瀬村)

⑥ あなたの主な仕事の業種

1 農業 2 林業 3 漁業 4 建設業 5 製造業 6 情報通信業
7 運輸業・郵便業 8 卸売業・小売業(観光関連) 9 卸売業・小売業(観光関連以外)
10 宿泊業 11 飲食サービス業 12 学術研究・学校教育・学習支援
13 医療・保健 14 福祉 15 公務 (1～14以外) 16 その他の業種
17 学生 18 無職

これで調査は終わりです。ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

この調査票を三つ折りにし、同封の返信用封筒(切手不要)に入れて、6月4日(金)までに投函してください。

令和3年度 県民意識調査報告書

令和3年8月

発行 秋田県 企画振興部 総合政策課

〒010-8570 秋田県秋田市山王四丁目1番1号

TEL 018-860-1217 FAX 018-860-3873

調査機関 株式会社あきぎんリサーチ&コンサルティング

〒010-8655 秋田県秋田市山王三丁目2番1号

TEL 018-863-1221 FAX 018-863-1245